

日本地質学会 *News*

Vol.28 No.8 August 2025



第132年学術大会（2025熊本）
会期：2025年9月14日（日）～16日（火）
会場：熊本大学 黒髪キャンパス



一般社団法人日本地質学会

The Geological Society of Japan

理 事

任期：2024年6月8日から2026年総会

会長（代表理事） 山路 敦（京都大学）

副会長 杉田律子（科学警察研究所）
星 博幸（愛知教育大学）

常務理事 亀高正男（大日本ダイヤモンドコンサルタント（株））
副常務理事 内野隆之（産業技術総合研究所）
執行理事 岩井雅夫（高知大学）

内尾優子（東京国立博物館）
大坪 誠（産業技術総合研究所）
尾上哲治（九州大学）
加藤猛士（川崎地質（株））
小宮 剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森 樹（東北大学）
細矢卓志（中央開発（株））
松田達生（工学気象研究所）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）
矢部 淳（国立科学博物館）

理 事 青矢睦月（徳島大学）
天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）
磯崎行雄（東京大学）
大友幸子（山形大学）
岡田 誠（茨城大学）

笠間友博（箱根町役場）
加藤 潔（駒澤大学）
香取拓馬（フォッサマグナミュージアム）
金丸龍夫（日本大学）
神谷奈々（京都大学）
川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
清川昌一（九州大学）
桑野太輔（京都大学）
小松原純子（産業技術総合研究所）
齋藤 眞（産業技術総合研究所）
佐々木和彦（佐々木技術士事務所）
澤 燦道（東北大学）
沢田 健（北海道大学）
沢田 輝（富山大学）
下岡和也（関西学院大学）
菅沼悠介（国立極地研究所）
高野 修（石油資源開発（株））
田村嘉之（千葉県環境財団）
中澤 努（産業技術総合研究所）
西 弘嗣（福井県立大学）
野田 篤（産業技術総合研究所）
広瀬 亘（北海道立総合研究機構）
松田博貴（熊本大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山本啓司（鹿児島大学）
和田穰隆（奈良教育大学）

監 事

任期：2024年6月8日から2028年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156（振替口座 00140-8-28067）

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

日本地質学会第 132 年学術大会（2025 熊本） プログラム

会期：2025 年 9 月 14 日（日）～ 16 日（火）

メイン会場：熊本大学黒髪キャンパス（熊本市中央区黒髪）

全学教育棟 C～E 棟（黒髪北キャンパス）

地質情報展：熊本城ホール（熊本市中央区桜町）

後援：熊本大学



黒髪北全学教育棟 C・D・E 棟

受付、第 1～7 会場、ポスター会場

企業展示会場、地質系業界説明会、学会本部、LOC 本部

工学部百周年記念館

学生会館カフェテリア

表彰式・記念講演会(9/14) 懇親会(9/14)

プログラムもくじ

キャンパスマップ（会場案内図）	(1)	会場での注意点	(5)
メイン会場へのアクセス	(2)	問い合わせ先	(6)
当日の受付について	(3)	全体日程表	(7)
会員顕彰式各賞表彰式受賞記念講演	(3)	講演会場フロアマップ	(8)
懇親会	(4)	発表者へ（口頭発表／ポスターセッション／学生優秀発表について）	(9)
巡検	(4)	ランチョン夜間小集会の予定	(10)
企業等団体展示／書籍販売	(4)	関連行事（地質情報展 2025くまもと／市民講演会／ ジュニアセッション／地質系業界説明会／ 理科（地学）教科書に関する説明意見交換会）	(12)
大会期間中のお食事について	(4)	講演プログラム（口頭）	(17)
CPD単位取得	(5)	講演プログラム（ポスター）	(27)
ダイバーシティ認定ロゴ導入の取り組み	(5)		
お子様をお連れになる方へ	(5)		

メイン会場（熊本大学黒髪キャンパス）へのアクセス

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou>

注意：熊本市内の路線バス（空港リムジンバスを含む）では全国共通交通系 IC カード（SUICA や PASMO 等）は使用できません。クレジットカードでの乗車は可能です。熊本市電では全国共通交通系 IC カードも使用できます。

【市中心部から】 バス：15～25 分程度 徒歩：30～40 分
桜町バスターミナル（16 番のりば）→市役所前→通町筋→水道町
産交バス・電鉄バス：楠団地・光の森産交行他（E-2/E-3 系統）

子飼橋・熊本大学経由「熊本大学前」 平日 10～15 分間隔、土曜 概ね 12 分間隔、日祝 概ね 15 分間隔

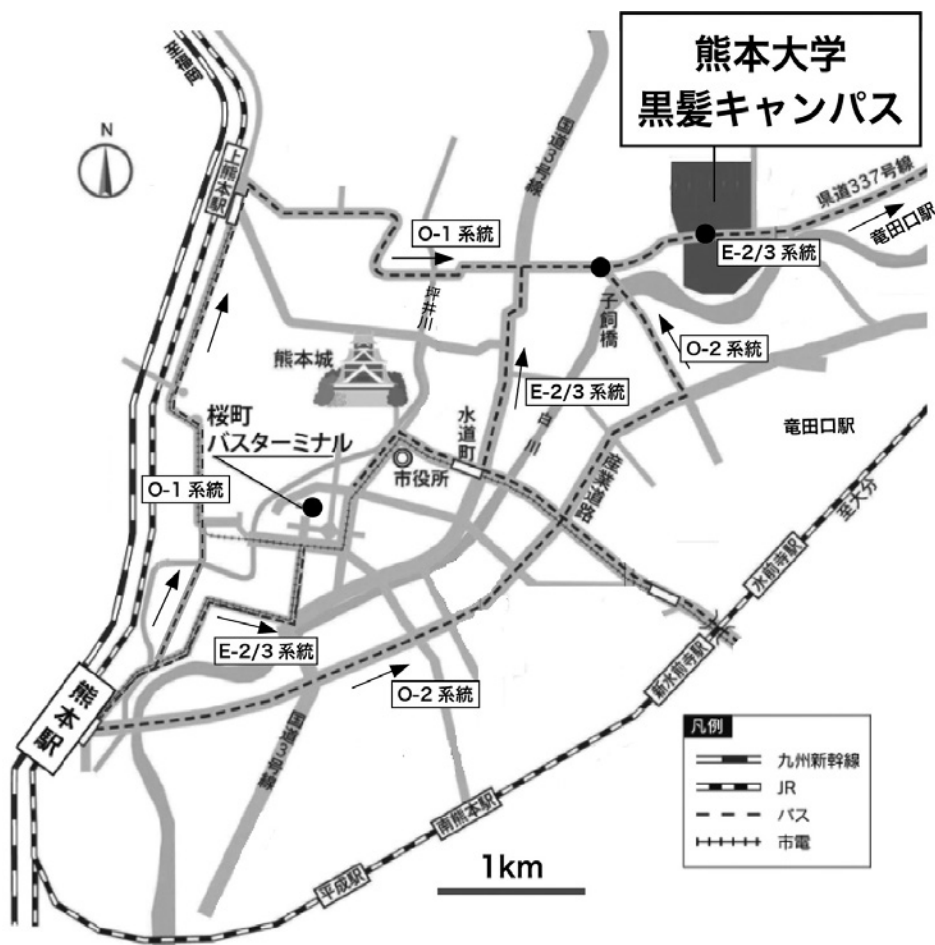
【JR 熊本駅前から】 バス：30～40 分程度

JR 熊本駅（2 番のりば）

産交バス・電鉄バス：楠団地・光の森産交行他（E-2/E-3 系統）
子飼橋・熊本大学経由「熊本大学前」 平日・土・日祝 1 時間 1 本程度

JR 熊本駅（3 番のりば）

都市バス：第一環状線（O-1 系統；上熊本駅経由）「子飼橋」下車徒歩 10 分 平日 概ね 15～30 分間隔、土日祝 概ね 30 分間隔



JR 熊本駅 (6 番のりば)

都市バス：第一環状線 (O-2 系統；大学病院・大江渡鹿経由)
「子飼橋」下車徒歩 10 分 平日 概ね 15 ～ 30 分間隔，土日祝 概ね 30 分間隔

※ JR 熊本駅より市電で「通町筋」「水道町」まで乗車し，そこからバスを利用することをお勧めします。

【JR 上熊本駅前から】 バス：15 分程度

JR 上熊本駅 (1 番のりば)

都市バス：第一環状線 (O-1 系統)・昭和町線 (F-4 系統；子飼橋経由)「子飼橋」下車徒歩 10 分 平日 概ね 10 ～ 15 分

間隔，土曜 概ね 20 分間隔，日祝 20 ～ 30 分間隔

【JR 竜田口駅から】 バス：10 ～ 15 分程度

竜田口駅前

産交バス・電鉄バス：桜町バスターミナル・熊本駅・西部車庫行 (E-2/E-3 系統；熊本大学・子飼橋経由)「熊本大学前」平日 概ね 10 ～ 15 分間隔，土曜 概ね 12 分間隔，日祝 概ね 15 分間隔

※「子飼橋」バス停には他系統バスも運行。バス停より大学まで徒歩 10 分。

当日の受付について

大会の受付時間

14 日 (日) 8:00 ～ 16:30

15 日 (月) 8:00 ～ 16:30

16 日 (火) 8:00 ～ 14:00

■ 事前参加登録者

- ・「**会員カード**」を持参して下さい。会員カードでの受付は、裏面バーコードを読み込むだけで簡単スピーディです。お持ちの方は、忘れずに「会員カード」を持参してください。確認がスムーズに行えますよう、ご協力をお願い致します。当日「会員カード」をお持ちでない方（新入会，非会員，忘れた方等）は、お名前でご確認いたします。
- ・会場受付にてネームカードホルダーをお渡しします。「会員カード」を入れ、名札として会場内で身に付けてください。カードをお持ちでない場合は、無記名の名札をお渡します。ご自身で名前を記入して身につけて下さい。



会員カードをご持参ください！

【入金済みの場合】 領収書ダウンロード URL とオンラインプログラム (要旨閲覧) へアクセスするためのログイン情報 (ID/PW) を事前にメールでお知らせします。

【期日までに入金確認が取れていない場合】 会場受付で代金の清算をして下さい。請求金額は「当日参加登録費」の金額となります。期日を過ぎて入金された場合でも、差額分のご精算をお願いします。その際は、入金時の控え等を会場にお持ちください。入金が完了するまで、オンラインプログラム (要旨閲覧) のログイン情報を発行できません。ご注意ください。

巡検参加者の受付： 巡検当日に集合場所にて名簿で確認します。巡検参加の CPD 単位のための参加証明書や領収証は巡検当日に各コースの案内者からお渡しします。

領収書について： 入金済みの方に対して、領収書のダウン

ロード URL をメールでお知らせします。各自 PDF ファイルをダウンロードしてください。PDF 以外の領収書が必要な方は、会場受付もしくは学会事務局までお申し出ください。

■ 事前登録をしていない方

会場にて当日受付を行います。参加登録費の有料・無料に関わらず備え付けの『参加登録票』に必要事項を記入し当日用受付で、手続きしてください。その際オンラインプログラム (要旨閲覧) へアクセスするためのログイン情報 (ID/PW) も発行します。

当日参加登録費 (税込)

正会員 (一般会員)：10,000 円

正会員 (シニア会員)：6,500 円

※ 2025 年 4 月 1 日時点で 65 歳以上の正会員

正会員 (学生会員の院生)：4,500 円

名誉会員 / 非会員招待者 / 学部生：無料

非会員 (一般)：20,000 円

非会員 (院生)：12,000 円

その他

発表料金 /1 題 (講演する方)：1,500 円

(注) 当日のお支払いは、現金のみの取扱いとなります。クレジットカードはご利用いただけません。

会員顕彰式・各賞表彰式・受賞記念講演

日程：9 月 14 日 (日) 15:30 ～ 17:45

会場：熊本大学工学部百周年記念館 (黒髪南キャンパス)

1. 会長挨拶，来賓挨拶 (磯部博志 熊本大学理学部長・大学院先端科学研究部部長)
2. 50 年会員顕彰
3. 各賞授与
4. 受賞記念講演
 - ・日本地質学会小澤儀明賞受賞 松本廣直会員 (筑波大学生命環境系) 「太平洋に散らばった白亜紀最大の火山活動の痕跡」
 - ・日本地質学会都城秋穂賞 Ali Mehmet Celâl Şengör氏

(イスタンブール工科大学地質工学科)「Akiho Miyashiro:
a great geologist, a great teacher and mentor」

懇 親 会

日時：9月14日(日) 18:00～2時間程度

会場：学生会館(KDSコミュニティプラザ) カフェテリア食堂(黒髪北キャンパス)

会費(事前予約価格)：

正会員(一般会員) 7,000円

正会員(シニア会員) 4,500円

※2025年4月1日時点で65歳以上の正会員、名誉会員、会員の
家族

正会員(学生会員) 3,500円

準備の都合上、前金制の予約参加とします。たくさんの方々、特に院生・学生などの若手会員のご参加をお待ちしております。熊本県には、米・麦を中心に多くの焼酎の酒蔵、そして日本酒の酒蔵があります。また馬刺しや県産牛などの肉料理、天草からの新鮮な魚、そして団子(だご)汁や太平燕(たいぴーえん)、高菜飯など、熊本ならではの郷土料理が多数ございます。是非、この機会に熊本の食をお楽しみいただければと思います。余裕があれば当日参加も可能ですが、予定数に達し次第締切ります。当日受付の参加費はプラス1,000円です。非会員の会費は会員に準じます。

※締切後の参加取消の場合は会費の返却はできかねます。ご了承ください。

巡 検

巡検参加事前申込みは8月12日に締め切りました。参加者への連絡などは大会ホームページもしくは、案内者よりご連絡いたします。

巡検案内書は、個別の冊子体は作成せず、地質学雑誌131巻(J-STAGE掲載)に掲載いたします。J-STAGE<<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>> なお、予告記事でもお知らせの通り、巡検参加者には各参加コース箇所の巡検案内書を巡検当日に配布します。

企業等団体展示 / 書籍販売

企業・団体・研究機関などによる展示を行います。会場は、黒髪北キャンパス全学教育棟1F・3Fを予定しております。8月5日現在、以下の各社よりお申込がありました。

- ・株式会社マリン・ワーク・ジャパン
- ・ライカマイクロシステムズ株式会社
- ・メイジテクノ株式会社
- ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
- ・株式会社 建設技術研究所
- ・日本海洋事業株式会社

- ・株式会社蒜山地質年代学研究所
- ・国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)／日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)
- ・安井器械株式会社
- ・株式会社 山屋

また、同場所では、書籍・物品の展示販売コーナーを設けます。以下の各社よりお申込がありました。

- ・株式会社朝倉書店
- ・Springer
- ・株式会社ニチカ
- ・株式会社ニュートリノ東京
- ・株式会社東京サイエンス

※最新の情報は大会ホームページをご覧ください。

大会期間中のお食事について

学会開催期間中(9/14～16)の昼食については、日曜・祝日も黒髪キャンパス北地区の学生会館カフェテリア食堂を利用することが可能です。

・学生会館カフェテリア食堂 営業時間 11:30～14:00

本学会開催に伴い、食堂は例外的に日祝日の営業もしていただきますので、ぜひ積極的にご利用ください。

※お弁当予約販売は実施致しません。

※黒髪キャンパス近隣にコンビニエンスストアが2店舗あります(徒歩圏内)

※講演会場内は、昼食時の飲食は可能です。

その他のお知らせ

- ・手荷物について：会場内での手荷物のお預かりは致しません。参加者各自での管理をお願い致します。
- ・会場内でのWi-Fi接続について：大会会場では eduroamが利用可能です。なお、eduroam加盟機関に所属する高等教育機関や研究機関からの参加者は、事前に所属機関でアカウントを取得しておくことで、会場内の無線アクセスポイント設置箇所からWi-Fi接続が可能です。必ず事前に所属機関で接続テストを行い、正しく接続できることを確認してください。大会会場では不具合等に対応できません。

※eduroamは、国内外の大学等教育研究機関の間でキャンパス無線LANの相互利用を実現するサービスです。アカウント取得は、所属機関の担当者にお問い合わせください。なお、eduroamのアカウントが無い方(大学等所属でない方)には、ゲストアカウントを発行します。大会受付の窓口にてお申し出ください。(先着順。数に限りがあります)

CPD 単位取得

学術大会でCPD単位が取得出来ます

日本地質学会は、地質技術者への継続教育の一環として、大会参加者・発表者へCPD単位を発行します。希望者は、専用申し込みフォームからお申し込みください（会期中にオープンします）。後日PDFメール添付にて参加証明書をお送りいたします。

【CPD単位】

（注）CPDの登録区分・重み係数表は、2025年4月に変更になりました。取得単位は下記を参照して下さい。

・学術大会参加（区分番号II）：1×聴講時間（h） 例）7時間聴講＝1×7＝7単位

（注）休憩時間等は除く。

・口頭発表（区分番号II3）：5/件数

・ポスター発表（区分番号II3）：5/件数

・巡検参加（区分番号II）：1×受講時間（h）例）日帰り8時間程度＝8単位

日本地質学会は、土質・地質技術者生涯学習協議会ジオ・スクーリングネット（GEO・Net：<https://www.geoschooling.jp/>）に加入し、地質技術者の継続教育（CPD）に携わっています。大会への参加だけでなく、講演や巡検の参加についてもそれぞれ単位が取得出来ます。またGEO・Netに掲載されている協議会加盟団体（支部主催行事も含む）のイベント情報についても同様に検索・参加申込などができ、参加した場合はCPD単位が取得できます。積極的にGEO・Netをご活用下さい。技術者継続教育、CPD単位については、下記をご参照ください。<http://www.geosociety.jp/engineer/content0003.html>

ダイバーシティ認定ロゴ「ECS・EDI」導入の取り組み

日本地質学会は、「ダイバーシティ認定ロゴ」を導入しています。



EDI : Equity, Diversity & Inclusion

セッションへのダイバーシティ認定ロゴです。開催セッションが、多様な背景を持つ会員を包摂し、Early Career Scientistsを応援するものであることを示すものです。

<EDIロゴ対象項目>

- ・世話人が複数の性別で構成されている。
- ・世話人にECS（Early Career Scientist）が含まれる。
- ・多様な国籍（2国籍以上）の世話人構成または発表者。



ECS : Early Career Scientist

学生・院生、またPDの場合は博士号取得後7年以内（ただし公私事由によるキャリア中断年数の加算可）の方で、年齢を問いません。ECSである事を示す事で、就職相談や、先輩会員からの研究上の助言など、様々な支援を受け易くなる効果を期待しております。詳しくは、大会HPをご参照ください。

<http://geosociety.jp/engineer/content0063.html>

お子様をお連れになる方へ

ご家族で学会に参加される会員で、大会期間中に保育施設のご利用を希望される方には、学会から利用料金の一部を補助いたします。会場内には保育室を設けませんので、大会HPで近隣施設をご紹介します。詳しくは大会HPを参照してください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjpl32/content/kids>

会場での注意点

■発表終了時には拍手をお願いします

1題の口頭発表はわずか15分で終了します（セッションの場合）。しかし、その発表の裏には、発表者の弛まぬ努力と、研究や発表準備に費やした多くの時間があるはずです。講演終了時には、惜しめない拍手をお願いします。

■無断で撮影をしてはいけません！

口頭発表・ポスター発表を、発表者に無断で写真撮影・ビデオ撮影してはいけません。撮影には発表者の許可が必要です。また、それらを発表者の許可なく、SNS等で配信もしてはいけません。

■軽装でお出かけ下さい

9月中旬の熊本はまだ暑さの厳しい時期です。大会参加の皆様は軽装でお出かけください。また、室内においてもこまめな水分補給を心がけて下さい。

■学内禁煙

キャンパス内は全面禁煙です。喫煙所の設置はありません。周辺の路上等においても、喫煙および吸殻のポイ捨て等は禁止です。ご理解、ご協力をお願いします。

問い合わせ先

【大会期間中（9/14～9/16）の問い合わせ】

日本地質学会第132年学術大会熊本大会現地事務局
（株式会社 アカデミック・ブレインズ内）（担当：田中）
E-mail：gsj2025kumamoto@academicbrains.jp
電話（緊急の場合）：大会HPをご確認ください

【上記以外の問い合わせ先】（平日9:30～18:00）

○日本地質学会行事委員会／地学教育委員会／学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F

TEL：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156

e-mail：main@geosociety.jp

○日本地質学会第132年学術大会熊本大会事務局
（株式会社 アカデミック・ブレインズ内）（担当：田中）

TEL：06-6949-8137 FAX：06-6949-8138

E-mail：gsj2025kumamoto@academicbrains.jp

日本地質学会第132年学術大会 (2025 熊本) 全体日程

2025.8.14 更新

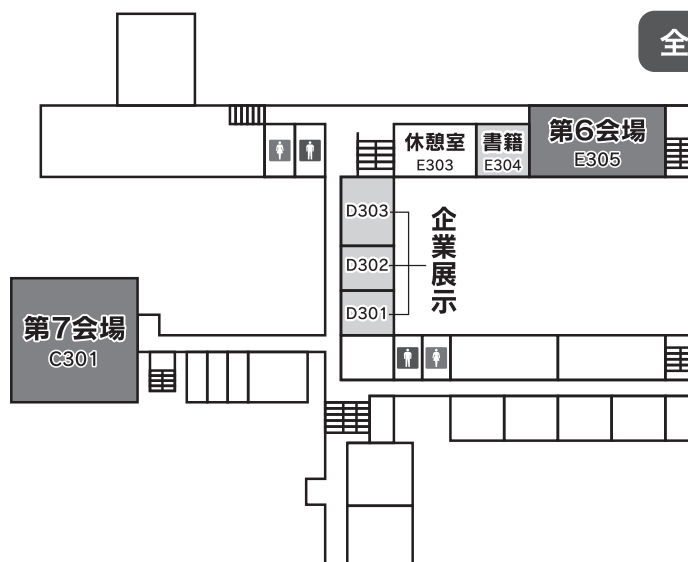
		1日目 9月14日 (日)			2日目 9月15日 (月・祝)			3日目 9月16日 (火)		
会場	1F 2F 3F	8:45-12:00	12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00	8:45-12:00	12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00	8:45-12:00	12:30 -13:30 ランチョン	13:30 -15:00
		T9. ジオパーク 10:00-12:00	ジオパーク	ポスター 発表タイム	T3. 文化地質 9:00-12:00	文化 地質	13:30 -15:00	T14. 九州の火山テクトニクス 8:45-12:00	13:30 -15:00	15:00-17:00
口頭発表	1	T1. 変成岩とテクトニクス 8:45-12:00			T1. 変成岩とテクトニクス 8:45-12:00			T5. 沈み込み帯・陸上付加体 8:45-12:30		地学教科書※ 15:30-17:00
	2	G. 地学教育/古生物/ 応用地質 9:15-12:00			T8. 原子力と地質科学 8:45-12:00	岩石		T4. 岩石鉱物の変形と反応 8:45-12:00		
	3	G. 第四紀地質 9:30-12:00	法地質		T11. 都市地質学 10:15-12:00	支部長 会議		T7. 堆積地質 8:45-12:00		
	4	T12. 地球史 9:00-12:00	構造 地質		T12. 地球史 9:00-12:00			T13. 地域地質・層序 9:00-12:45		
	5	T2. マグマソース・マグマ供給系 9:15-11:45	火山		T2. マグマソース・マグマ供給系 9:15-12:00	シエンダー ダイナミクス		T13. 地域地質・層序 9:00-12:45		
	6	T6. 中環球地体構造 10:00-12:00			G. 地球化学/地域地質・層序 9:00-12:00	構造 若手		G. 海洋地質 10:00-11:30		
	7					JABEE校 教員				
		※表彰式・記念講演会 15:30～ ※懇親会 18:00～			※中学・高等学校の理科 (地学) 教科書に関する説明・意見交換会					
ポスター C101, 102, 201, 202 (1-2F)		J. ジュニアセッション/T1. 変成岩とテクトニクス T2. マグマソース・マグマ供給系 T9. ジオパーク/T12. 地球史 G. 古生物, 地学教育, 岩石・鉱物・火山, 第四紀地質			T1. 変成岩とテクトニクス/T3. 文化地質学/T8. 原子力と地質科学 T10. テクトニクス/T11. 都市地質学/T13. 地域地質・層序学 G. 地球化学, 応用地質			T4. 岩石・鉱物の変形と反応/T5. 沈み込み帯・陸上付加体 T7. 堆積地質学/T14. 九州の火山テクトニクス T15. 海城火山と漂流軽石 G. 海洋地質, 地域地質・層序, 堆積地質		
その他		企業展示・販売 (終日: D301, 302, 303, E304) 地質情報展 (9:30-17:00, 会場 熊本城ホール 9/13-15) 地質情報展 (9:30-17:00, 会場 熊本城ホール 9/13-15) 市民講演会 (14:00-16:00, 会場 熊本城ホール 3F 会議室)			企業展示・販売 (終日: D301, 302, 303, E304) 地質系業界説明会 (10:00-17:00: B201, B202, D201, D202, D203, E204) 地質情報展 (9:30-16:00, 会場 熊本城ホール 9/13-15) 市民講演会 (14:00-16:00, 会場 熊本城ホール 3F 会議室)			企業展示・販売 (終日: D301, 302, 303, E304)		

(注) 今大会はORセッションの開催はありません

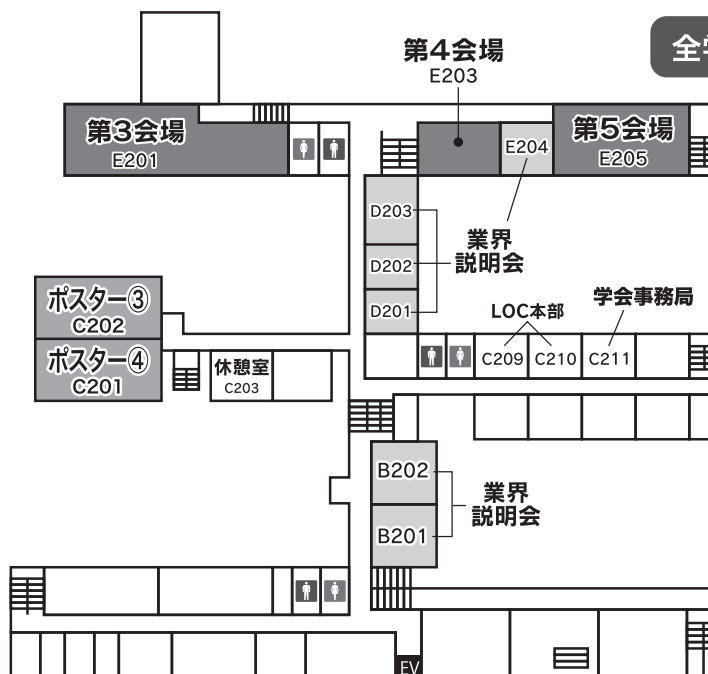
※会期前9/13 (土) 学生・若手のための交流会 (16:30-19:00: 会場 桜の馬場 城彩苑)

講演会場 フロアマップ

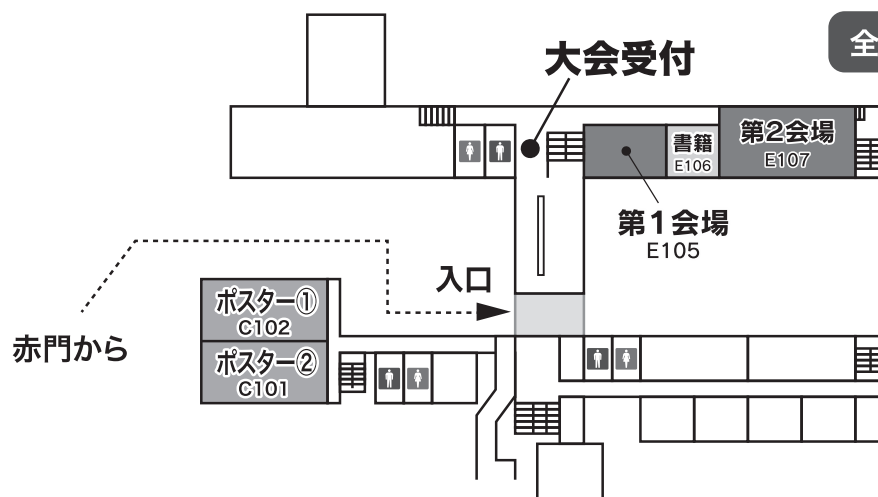
全学教育棟 3F



全学教育棟 2F



全学教育棟 1F



発表者へ

「発表者」は本学会または共催学協会の会員に限ります（招待講演者を除く）。共同発表の場合は、この制限を代表発表者（プログラムに印のついた著者）に適用します。やむを得ない事情により、あらかじめ連記された共同発表者内で発表者の変更を希望する場合は、必ず事前に行事委員会（会期前は学会事務局、会期中は学会本部）に連絡して下さい。この場合も、「会員に限り1人2題」の制限を守るものとします。代理人の代読、会場内での突然の発表者変更、発表順序の変更は一切認められません（ポスターコアタイムも同様です）。口頭発表者は発表時間を厳守して下さい。持ち時間15分のうち、発表は10～12分とし、質疑応答と講演者の交代時間を確保してください（30分の招待講演の場合、発表20～25分）。発表に際しては座長の指示に従い、会場運営がスムーズに行われるようご協力下さい。

なお、何らかの理由で自身の発表時間に間に合わない場合（遅刻）であっても、発表時間帯の変更は行いません。遅刻の場合、原則その発表はキャンセルと判断し、その時間帯は休憩時間といたします。

口頭発表

- ・1題15分（質疑応答と講演者の交代時間3～5分を含む）。ただしセッション招待講演は除きます。講演中、1鈴10分、2鈴12分、3鈴15分の合図があります。3鈴が鳴った時点で速やかに次の講演に移れるようご協力ください。
- ・口頭発表会場には液晶プロジェクターとWindowsパソコン（OS：Windows 11、PowerPoint2024（Microsoft Office Standard 2024））がインストールされています）を用意します。発表はできるだけ会場備え付けのWindowsパソコンをご使用下さい（ただしMacご利用の方、動画を使用する方などはご自身のパソコンをご用意下さい）。セッション開始前に試写し正常に投影されることを必ず確認してください。
- ・確認作業の混雑とそれによるセッション開始の遅れを防ぐため、早めの確認作業をお願いします。なお、発表者が事前確認を怠ったために発表時にトラブルが生じて時間延長等の措置は取りません。

【講演ファイルをUSBメディアでご持参の方】

ファイルのインストールは、セッション開始前に、講演会場前方パソコン設置台に行ってください。各会場のパソコンのデスクトップ上には日付（例0914）のフォルダが配置されており、その中にセッション番号のサブフォルダ（例T1）が配置されています。そのサブフォルダ内に講演ファイルを保存してください。ファイル名は「発表番号_演者氏名」にしてください（例：G-O-1 熊本太郎、T1-O-13阿蘇花子）。インストール後、ファイルが正常に投影されることを必ず確認してください。特に、会場のPCと異なるバージョンで作成されたパワーポイントのファイルは、レイアウトが崩れる場合がありますのでご注意ください。フォントは特殊なものではなく、PowerPointに設定されている標準的なものを使用して下さい。セッション終了後、世話人がファイルを削除します。

【ご自分のパソコンを使用して講演する方】

Macパソコンをお使いになる方、ソフトの互換性からレイアウトが崩れる可能性のある方、パワーポイント以外のプレゼンテーションソフトをご利用の方は、ご自身でパソコンをご用意ください。会場の液晶プロジェクターにパソコン接続ケーブル（ケーブル形状はHDMI）を用意します。会場に準備されている講演用パソコンからケーブルを外し、ご自身のパソコンに接続してください。ご利用のパソコンによってはコネクタが必要になる場合があります。必ずHDMIケーブルが接続可能となるアダプターをご持参ください（会場にはありません）。接続は発表者自身が責任を持って行なってください。セッション開始前に試写し、正常に投影されることを

必ず確認してください。

なお、例年、Macパソコンの接続トラブルが数件発生しています。講演時間確保を優先し、万一に備え、PDFファイルやUSBに保存したデータを別途ご用意ください。スムーズなセッション進行にご協力をお願いいたします。

ポスターセッション

- ・掲示する際のチェスピンを準備いたします。テープは利用できません。
- ・掲示可能時間は9:00～17:00です。撤収は必ず18:00までをお願いします（最終日の撤収は17:00）。最低掲示時間帯（10:00～16:00）は必ず掲示して下さい。
- ・コアタイムは、3日間とも13:30～15:00です。この時間は必ずポスターに立ち会い、説明して下さい。その他の時間は各自の都合により随時説明を行って下さい。
- ・ポスターのサイズは、高さ210cm、幅90cm以内で作成して下さい。ただし、ポスター発表1件につき、幅120cm程度のスペースを確保する予定です。
- ・ポスターには、発表番号・発表題名・発表者名を必ず明記して下さい。
- ・コンピューターやビデオを使用される場合、機器の準備は各自で行ってください。電源は確保できませんので、予備バッテリーをご準備下さい。

OR アウトリーチセッションについて

今大会は、OR アウトリーチセッションの開催はありません。

学生優秀発表賞について

運営規則第16条2項（12）により、優れた学生会員の発表に対して「日本地質学会学生優秀発表賞」を授与します。口頭発表、ポスター発表ともに審査の対象となります。また、優秀発表賞はエントリー制です。

受賞資格者（エントリーできる人）：エントリーの段階で学籍がある会員。エントリーした本人が発表者であり、筆頭著者であることを必須とします。学生会員でも学籍がない人（例：2年バック・3年バックで入会し、現在は卒業または修了した人）はエントリーできません。

審査有資格者（審査する人）：行事委員・セッション世話人・理事・代議員が審査資格を有します。これらの方々には、「審査員登録フォーム」を用いて事前（プログラム発表後～学会1週間前の金曜日：9/5まで）に審査可能な発表をあらかじめ挙げていただきます。審査員数が少ない発表については、全会員の中から審査員を追加指名することがあります。審査方法：審査は、「発表審査フォーム」（口頭・ポスター共

通；発表当日～学会終了週の金曜日：9/19 まで入力可）を用いて以下の手順で行います。なお、「審査員登録フォーム」で登録した以外の発表についても評価可能です。

（フォーム入力内容）

- ・審査員氏名・メールアドレスを入力
- ・役職（行事委員・セッション世話人・理事・代議員）をリストから選択
- ・審査する発表を選択
- ・自身が共著の発表、利益相反（親族・指導者・共同研究者）にあたる発表でないことを確認
- ・次の①から⑤の項目について、それぞれ5段階で審査（5が最高点、1が最低点、平均的な発表は3点）。①研究テ

マおよび手法 ②結果の妥当性・説得力 ③プレゼンテーション ④インパクトの大きさ・重要性・発展可能性 ⑤総合評価

行事委員会が審査結果を集計し、①～⑤の合計点をもとにその結果をもとに各賞選考委員長が受賞者を決定します。なお、受賞者数の目安は、エントリー数の20-30%とします。表彰は geo-Flash およびニュース誌で行い、賞状は郵送します。

（注）申込時にエントリーをしたポスター発表で、最低掲示時間帯（10:00～16:00）に掲示していないポスターは、エントリーしていても審査対象から除外されます。くれぐれもご注意ください。

ランチョン・夜間小集会の予定

ランチョン

昼休みの時間帯を利用した会合です。昼食の用意はありません。各自でご用意下さい。都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会期中の掲示にご注意下さい。

9月14日（日）12:30-13:30

第1会場（E105）：ジオパークの活動内容紹介（世話人：吉瀬毅・郡山鈴夏・天野一男）ジオパークでは各地で「専門員」が様々な専門性を活かし活動していますが、その実体は外部から見えにくいものです。本ランチョンは、ジオパークに関心がある人と専門員が交流し、業務の実体について紹介します。

第3会場（E201）：法地質学ランチョン（世話人：川村紀子）法地質学の概要の紹介をします。飛び入り参加OK、子連れ参加可能です。

第5会場（E205）：構造地質部会定例会（世話人：濱田洋平、志村侑亮）構造地質部会の予算・決算と活動報告、今後の活動等についての議論と、JpGU提案予定のセッションについて、部会承認を行います。

第6会場（E305）：火山部会（世話人：石毛康介）火山部会に関連した事項について、審議・報告を行います。

9月15日（月）12:30-13:30

第1会場（E105）：文化地質学（世話人：森野善広）文化地質研究会会員、会場参加者の近況報告・意見交換会及び文化地質研究会の紹介と今年度活動連絡。

第2会場（E107）：岩石部会（世話人：宇野正起）岩石部会に関連した事項について、審議・報告を行う。

第3会場（E201）：支部長連絡会議（世話人：杉田律子）支部長連絡会議

第5会場（E205）：ジェンダー・ダイバーシティ委員会（世話人：天野敦子）ジェンダー・ダイバーシティ委員会の今後の活動について、また関係学会のダイバーシティ推進関係の交流・意見交換を行います。本委員会に関心のある方、委員以外の方も歓迎します。

第6会場（E305）：構造地質部会若手発表会（世話人：濱田洋平、志村侑亮）構造地質分野の若手支援と部会員の研究交流促進を目的とし、学生や若手研究者の研究発表会を行います。1～2名による15～30分程度の発表を予定。

第7会場（C301）：JABEE校情報交換打ち合わせ（世話人：竹内真司、坂口有人）先ごろの中教審の答申（レイトスペシャライゼーションなど）の導入により、専門教育や地質系の学科等の大幅削減の可能性が懸念されます。これに対応するため、JABEE認定校の担当者による意見交換を行います。

9月16日（火）12:30-13:30

第5会場（E205）：堆積地質部会（世話人：足立奈津子）堆積地質部会の活動報告および国内外の堆積学に関する情報交換

第6会場（E305）：地域地質・層序部会合同（世話人：佐藤大介）両部会の人事の承認と、学術大会の状況等の情報交換および各種検討課題の議論

第7会場（C301）：海洋地質部会（世話人：小原泰彦・三澤文慶・松崎賢史）海洋地質部会を構成する主要構成機関からの活動報告を中心として、海洋地質部会員間の情報共有を行います。

夜間小集会

都合により急遽会場が変更になる場合がありますので、会期中の掲示にご注意下さい。また会場の都合上、終了時間は厳守して下さい。

9月15日（月）18:00-19:30

第1会場（E105）：地質年代用語を考える（世話人：鈴木寿志）地球の歴史を語るのに必要不可欠なのが地質年代用語です。この用語の日本語表現に種々の問題が見られます。本夜間小集会では課題を話し合い、日本語として適切な地質年代表現を考えます。研究者・教育関係者・博物館

学芸員・文筆家など、老若男女を問わずご参加下さい。

第2会場 (E107)：J-DESC 夜間小集会：IODP3 始動！（世話人：神谷奈々、森下知晃、濱田洋平、池原実）2025年より国際海洋科学掘削計画（IODP3）がスタートしました。2025年に実施済み or 実施予定の掘削提案、SPARCS プロジェクト、リポジトリコア再解析プログラム（ReCoRD）の内容を紹介し、今後の掘削科学に関する情報交換を行います。

第3会場 (E201)：南極地質研究委員会（世話人：外田智千）南極での主として基盤地質研究・観測計画について議論を行います。委員会メンバーだけでなく、学生・院生を含めて自由にご参加頂けます。予定議題は、以下の通り：南極地質将来計画について／その他

第4会場 (E203)：環境地質部会（世話人：田村嘉之）

1. 環境地質に関連した講演（1時間程度）

演者：鳥井真之氏（熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター特任准教授）

内容：熊本地震の地質災害等について

2. 部会の事務連絡等

第5会場 (E205)：炭酸塩堆積学に関する懇談会（世話人：白石史人・足立奈津子・山田努）炭酸塩堆積学に関する最近の話題、トピックス、情報について意見交換を行います。

第7会場 (C301)：博物館と生涯教育委員会（世話人：先山徹・笠間友博・太田泰弘）生涯教育委員会を中心に、博物館や生涯教育に関わるすべての会員を含めた拡大委員会として、広く情報共有及び生涯教育の在り方を議論し、今後の運営に取り入れる機会とします。

GEOLOGICAL SURVEY OITA

あなたを活かすフィールドはここかもしれない。

大分県別府市を拠点に県内・九州で活動

本社：大分県別府市船小路町3番43号 <https://www.meidai-k.co.jp/>
TEL：0977-24-1212（代）

 **明大工業株式会社**



地質情報展 2025 くまもと 火の国・水の国！大地のふしぎ

日程：2025年9月13日（土）～15日（月・祝）

（注）学術大会の会期とは異なります。

9月13日（土）13:00～17:00

9月14日（日）9:30～17:00

9月15日（月）9:30～16:00

（ただし13、14日の入場は16:30まで、15日の入場は15:30まで。）

会場：熊本城ホール 1階展示ホール A（熊本県熊本市中央区桜町3-40）[入場無料]

主催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター・九州センター、一般社団法人日本地質学会

共催：阿蘇ジオパーク推進協議会

後援：熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、九州地質調査業協会、日本応用地質学会九州支部、熊本日日新聞社

概要：多様な熊本の地質、火山、地震、地下水、資源、防災などについて、研究者がわかりやすく展示・解説する特別展です。体験学習コーナーでの実験・実演や専門家による講演会も予定されています。熊本の地質について研究者とともに楽しみながら学べるイベントです。

展示内容：熊本の地史・地質、火山、地震・活断層等、地下水、地熱、温泉、鉱物資源、燃料資源、地球化学図、土壌評価基本図、液状化等防災、県の石、熊本城の築石に関するパネル展示、床貼り地質図及び各種体験コーナー（化石レプリカ作り、石割り体験、地盤の揺れ実験、地盤の液状化実験、鳴り砂体験、水路堆積実験、火山噴火実験、ロックバランシング、地質図塗り絵）など。※一部、時間帯により閉鎖するコーナーもあります。一部、主催者以外の出展も含まれます。

講演会：13日（土）14:00～16:00、14日（日）14:00～16:00
いずれも会場内ミニ講演会場にて開催[事前申込不要]

内容：熊本城、地下水、火山、地震のお話

講師：嘉村哲也（熊本城調査研究センター）、井川怜欧・星住英夫・太田耕輔（産総研地質調査総合センター）

地質学会コーナー：第16回惑星地球フォトコンテスト入選作品等の展示

お問い合わせ先：産総研 地質調査総合センター「地質情報展 2025 くまもと」事務局

TEL：029-861-3540

E-mail：M-johoten2025-ml@aist.go.jp

※展示の内容は予定です。予告なく変更あるいは取りやめになる場合がございます。

※地質情報展は、JSPS 科研費（課題番号 25HP0007）及びセコム科学技術振興財団（助成番号：R061215）の助成を受けたものです。



市民講演会「熊本から始める最新恐竜学」

2025年9月15日（月・祝）14:00～16:00

会場：熊本城ホール 3F 会議室 A1

入場無料、事前申込不要、どなたでもご参加いただけます

4名の恐竜研究者に最新の恐竜学について紹介いただきます。

①真鍋 真氏（国立科学博物館）「九州と白亜紀と恐竜学」

②大橋智之氏（北九州市立自然史・歴史博物館）「北部九州の恐竜研究のいま」

③黒須弘美氏（天草市立御所浦恐竜の島博物館）「恐竜の島・御所浦」

④池上直樹氏（御船町恐竜博物館）「御船層群の恐竜たち」

詳しくは、大会 HP をご参照ください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjpl32/content/gyoji#koen>

問い合わせ先：

日本地質学会第132年学術大会実行委員会

担当：田中源吾（熊本大学）

メール：main@geosociety.jp

※本市民講演会は、JSPS 科研費（課題番号 25HP0007）及びセコム科学技術振興財団（助成番号：R061215）の助成を受けたものです。

第23回日本地質学会 ジュニアセッション

コアタイム日時：2025年9月14日（日）13:30～15:00

会場：熊本大会ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

日本地質学会地学教育委員会では、地学普及行事の一環として、地学教育の普及と振興を図ることを目的として、学校における地学研究を紹介する発表会をおこなっています。山形大会でも、小・中・高等学校の地学クラブの活動、および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を予定しています。昨年に引きつづき、学術大会セッションと同様の対面でのポスター発表となります。

※参加校（13校27講演を予定、順不同）

- ・熊本市立月出小学校
- ・熊本県立天草高等学校
- ・熊本県立宇土高等学校
- ・池田学園池田高等学校
- ・豊見城市立豊見城中学校／琉大ハカセ塾
- ・愛媛大学附属高等学校
- ・兵庫県立姫路東高等学校
- ・和歌山県立田辺高等学校
- ・名古屋高等学校・名古屋中学校
- ・中央大学附属高等学校
- ・東京学芸大学附属高等学校
- ・市川高等学校
- ・北海道龍谷学園小樽双葉高等学校

学生のための地質系業界説明会

2025 年度学生のための地質系業界説明会～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

今年も多く企業・団体様に参加されます。学部生や院生などの学生の皆様に、将来の就職先の選択肢の一つとなる地質系業界の実態や各企業・団体の業務内容などを知っていただくために開催する当学会の恒例行事です。専門就職をお考えの学生の皆様をはじめ、ご関心をお持ちの教員の皆様のご来場をお待ちしております。

日時：2025 年 9 月 15 日（月）10:00～17:00（予定）

場所：熊本大学黒髪キャンパス 黒髪北地区・全学教育棟 2 階の 6 部屋（B201, B202, D201, D202, D203, E204）を予定※今年度は、対面説明会のみ開催し、オンライン説明会はいりません。

参加費：無料（会員・非会員問わず）

参加企業・団体数：47 社（当日対面参加 40 社、HP に資料掲載のみ 7 社）

文末に参加企業・団体の一覧を示します。各企業・団体の紹介資料は下記に掲載しています。



https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjpl32/content/gyokai_support

※会場と同じフロアの休憩室（C203）では、参加企業・団体の広報映像を終日映写しますので、訪問先選定の参考としてください。

訪問時間：1 ブース当たり 20～30 分程度、最大 14 社程度の訪問が可能です。

スタンプラリー：5 つ以上の企業・団体を訪問し、訪問先からサインを集めると、熊本土産のかわいいグッズを先着 100 名にプレゼントします。

参加申込：下記の URL もしくは QR コードで、申し込みをしてください。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfxsNuy_1P24WwdR8MhCAj53pks0H1kHn11J0V2v2kf7TBBdg/viewform?usp=sf_lin

申込期限：2025 年 9 月 9 日（火）

注意事項

- ・学生が本説明会のみに参加される場合は、学術大会への参加登録は不要です。ただし、当日大会受付で「業界説明会」の受け付けを行ってください。前述しましたように、日本地質学会の会員・非会員を問わず参加費は無料です。
- ・学術大会の研究発表会およびその他の企画（一部の無料企画を除く）に参加される場合は、学術大会の参加登録を行ってください（参加費も必要となります）。

問い合わせ先

一般社団法人日本地質学会事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル 6 階

e-mail: main@geosociety.jp 電話：03-5823-1150

参加企業・団体一覧

【対面説明会（紹介資料のHP掲載含む）】 40 企業・団体

企業・団体名（50音順）	会員種別	ブース番号
株式会社アーステクノ	賛助会員	25
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング	非会員	8
UBE三菱セメント株式会社	非会員	33
株式会社エイト日本技術開発	賛助会員	29
応用地質株式会社	賛助会員	38
株式会社奥村組	非会員	3
株式会社開発工営社	非会員	39
川崎地質株式会社	賛助会員	16
基礎地盤コンサルタンツ株式会社	賛助会員	30
協和地下開発株式会社	非会員	1
K&O エナジーグループ株式会社	非会員	12
原子力発電環境整備機構	非会員	7
株式会社建設技術研究所	賛助会員	9
鉱研工業株式会社	非会員	21
国際航業株式会社	賛助会員	6
国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター	非会員	20
サンコーコンサルタント株式会社	賛助会員	11
三洋テクノマリン株式会社	賛助会員	28
三和ボーリング株式会社	非会員	23
住友金属鉱山株式会社	賛助会員	14
石油資源開発株式会社	賛助会員	17
大日本ダイヤコンサルタント株式会社	賛助会員	40
太平洋セメント株式会社	賛助会員	32
株式会社地圏総合コンサルタント	賛助会員	19
地熱エンジニアリング株式会社	非会員	35
中央開発株式会社	賛助会員	24
株式会社 中部森林技術コンサルタンツ	賛助会員	31
一般財団法人電力中央研究所	非会員	4
株式会社ドーコン	非会員	27
ドリコ株式会社	非会員	37
日鉄鉱業株式会社	賛助会員	10
日特建設株式会社	非会員	13
日本海洋事業株式会社	賛助会員	34
株式会社ニュージェック	賛助会員	26
株式会社パスコ	賛助会員	15
株式会社阪神コンサルタンツ	非会員	18
明治コンサルタント株式会社	賛助会員	22
明大工業株式会社	賛助会員	2
八洲開発株式会社	賛助会員	36
八千代エンジニアリング株式会社	賛助会員	5

資料のHP掲載】 7 企業・団体

企業・団体名（50音順）	会員種別
ENEOS Xplora株式会社	賛助会員
株式会社開発調査研究所	非会員
共立工営株式会社	賛助会員
J X 金属探開株式会社	非会員
住鉱資源開発株式会社	非会員
株式会社東亜建設コンサルタント	非会員
株式会社 日さく	賛助会員

中学・高等学校の理科（地学）教科書に関する説明・意見交換会

日時：2025 年 9 月 16 日（火）15:30-17:00

会場：口頭第 1 会場（黒髪北エリア全学 E 棟 1F, E105 教室）

表記の説明・意見交換会を熊本大会 3 日目午後開催します。学校教科書は生徒が教科・科目を学ぶための主たる教材ですが、一方で基礎的な学術動向の普及・定着を図る書籍という側面もあります。ちなみに高等学校「地学基礎」の 2025 年度需要数は 31 万部を超え、いまや大学入学共通テストでは「物理基礎」よりも多くの受験選択者を集める科目になっています。

高等学校「地学基礎」と「地学」の内容は、平成 21 年と平成 30 年の学習指導要領改訂を経て、以前の「地学 I」と「地学 II」から大きく変わった部分があります。教科書作成、大学入試問題作成、高等学校の地学教育などに関わっていないと気づきにくい点が多いですが、学術の進展を反映して学校教科書は着実に改善されています。しかし、地質学専門家の科学的常識と学校教科書の記述との間に大きな違いが見られる部分もあります。その改善に向けて、地質学専門家と学校教育関係者が意見を交換し、ともに理解を深める場を設けます。この説明・意見交換会では、文部科学省教科書調査官から最近の中学・高等学校理科教科書における地質学に関わる記述の状況について説明していただき、それをうけて参加者が自由に意見を交換できるようにします。

中学・高等学校の理科（地学）教科書や地学教育、大学の地質学専門教育、博物館・ジオパーク活動などを通じた地学の一般普及などに関心のある方はぜひご参加ください。

（日本地質学会副会長 星 博幸）

学生・若手のための交流会

地質学に携わる学生および若手の研究活動や交流の促進を目的とする集会です。学術大会の前に全国から集まる学生・若手とお話しませんか？これまでの交流会では、自身の研究やフィールド、研究室等について熱く語ったり、全く研究とは関係ない趣味の話でも盛り上がったりと堅苦しくない交流会となっています。

今年も、参加者による自己紹介（希望者はスライド 1 枚まで使用可）の後、グループトーク、フリートークの場を設けます！おやつを用意しますので、飲み物は各自持ち寄りにて、フランクに交流しましょう。

学生・若手の皆様、お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください！当日参加・途中参加も大歓迎です！！

日時：2025 年 9 月 13 日（土）16:30-19:00（16:15 より受付開始）

※学術大会前日開催

場所：桜の馬場 城彩苑 多目的交流施設（城彩苑南口 総合観光案内所の 2 階；熊本市中央区二の丸 1 番 1-3 号）

参加費：無料

申込方法：参加人数の把握のため、事前申し込みにご協力ください。

この他にも学生・若手向けの取り組みを行います！

・赤色名札ホルダー：

大会参加者のうち、学生には赤色の名札ホルダーを配布します。大会参加者の皆様には、積極的な議論、交流をお願いいたします。

・求職中シール：会場では、「求職中シール」を配布しています。学生やポスドクなど就職活動中の方は、積極的にご活用ください。



－表層傾斜計－ クリノポール

多点配置で地盤変動を監視する
低コスト・高分解能のIoT表層傾斜計

- ・ 現場に行かず遠隔監視
- ・ 穴をあけるだけの簡単な設置
- ・ 温度変化の影響を受けにくい設計
- ・ 0.001° の高い分解能
- ・ 内蔵電池で最長5年間稼働



通信・電源・センサー一体型
クリノポール



特許：7301485

- ・ 1本で測定から通信まで
- ・ しきい値を超えた場合
測定間隔を自動で変更



▼詳しくはこちら▼



施工管理

災害現場

盛土監視

多点配置に特化した新製品
クリノポールNEO



- ・ 親機1台に対して
子機20台まで接続可能
- ・ 親機がまとめてデータを通信

西日本高速道路
エンジニアリング中国(株)
との共同開発品

▼詳しくはこちら▼



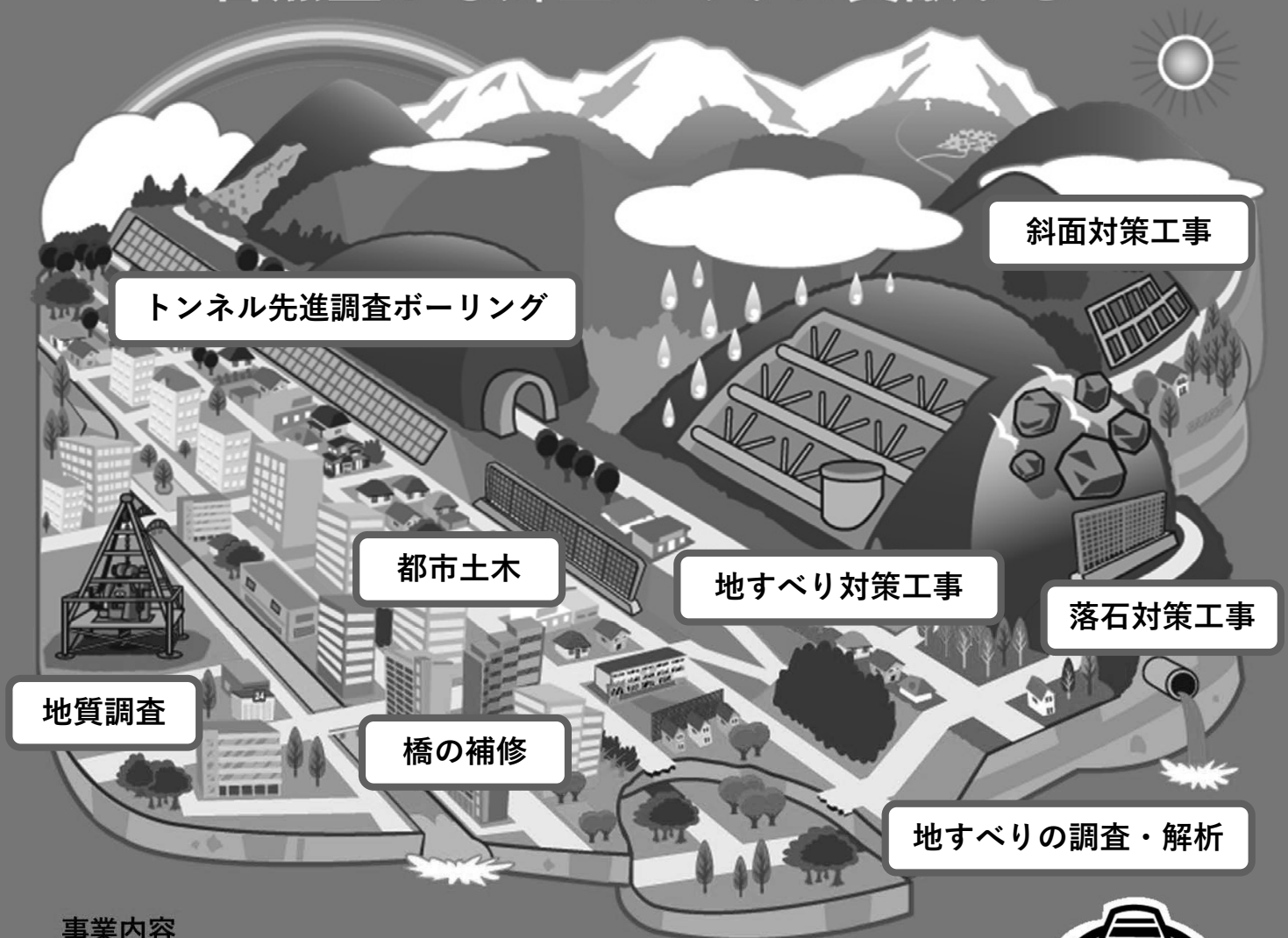
予防保全

道路法面

対策効果

《経営理念》

安全で住みやすく
自然豊かな郷土づくりに貢献する



事業内容

- ◎地質コンサルタント事業
(地質調査、地表踏査、各種室内試験、
地すべり調査総合解析、
対策工設計、軟弱地盤解析)
- ◎ボーリング工事業
(グラウンドアンカー工、
ロックボルト工など各種斜面对策工、
法面对策工、落石・雪崩・崩壊土砂対策工)

自分たちの仕事が
まちの安全につながっている
責任と誇りの持てる仕事です



Geological Consulting & Drilling Method



三和ボーリング株式会社

—— 自然と向き合い、SOZOする ——

《本社》 富山県富山市堀川町464-2
《首都圏支店》 埼玉県吉川市高富1-14-22
《ワンライフ土質試験所》 石川県金沢市松島2-45
《テクニカルセンター北陸》 富山県富山市長附56

採用
HP



マイナビ2027



第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 14 日（日）午前

会場	第 1 会場（全学 E 棟 1 階・E105）	第 2 会場（全学 E 棟 1 階・E107）	口頭第 3 会場（全学 E 棟 2 階・E201）
	T9. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク 座長：郡山 鈴夏(フォッサマグナミュージアム), 山崎 由貴子(日本ジオパークネットワーク事務局)	T1. 変成岩とテクトニクス 座長：足立 達朗(九州大学), 北野 一平(北海道大学総合博物館)	G. ジェネラルサブセッション地学教育・古生物・応用地質 座長：高嶋 礼詩(東北大学), 西山 賢一(徳島大学), 加瀬 善洋(北海道立総合研究機構)
8 : 45		08:45～09:00 T1-O-1 (エントリー) 地球化学モデリングによる飛騨帯ジュラ紀深成岩類の成因の再検討。*三上 航大 ^{ECS} , 水上 知行 09:00～09:15 T1-O-2 (エントリー) 宮崎県, 尾鈴山酸性岩体に産するS-type花崗岩類における下部地殻の部分溶融と組成変化。*北代 拓人, 志村 俊昭 09:15～09:30 T1-O-3 (エントリー) 鳥取県大山に産する変成花崗岩ゼノリスから示唆される山陰地域の地下岩石構造。*高橋 瑞季, 遠藤 俊祐, 中野 伸彦, 足立 達朗 09:30～09:45 T1-O-4 島根県雲南地域, 金成変成岩に産する亜鉛スピネル+石英+紅柱石の共生。*志村 俊昭, 山根 季里, 郷田 翔一 09:45～10:00 T1-O-5 (エントリー) 東南極セール・ロンダーネ山地ブラットニーパネに産するザクロ石+黒雲母片麻岩中の超高温変成作用を示唆するルチル。*権藤 洸人, 河上 哲生, 東野 文子, 足立 達朗, 宇野 正起 10:00～10:15 T1-O-6 ボヘミア地塊東部に産するザクロ石かんらん岩の変成温度圧力条件。*中村 大輔, 吉田 現 10:15～10:30 休憩 10:30～11:00 T1-O-7 (招待講演) 中・古生代における北東アジアのテクトニクスと原日本列島の起源。*川口 健太 11:00～11:15 T1-O-8 (エントリー) 舞鶴帯北帯に産する河守変成岩のP-T履歴とU-Pb年代が示す東アジアのテクトニクス。*室井 瀬太 ^{ECS} , 川口 健太, Das Kaushik, 中野 伸彦, 早坂 康隆 11:15～11:30 T1-O-9 Hydrothermal Alteration and Porosity Evolution of Lower Crust: Plagioclase Replacement by Epidote in the Khantaishir ophiolite, Western Mongolia。*OTGONBAYAR DANDAR ^{ECS} , ATSUSHI OKAMOTO, MASAOKI UNO, NORIYOSHI TSUCHIYA 11:30～11:45 T1-O-10 九州北西部雷山-糸島半島周辺の高温度型変成岩の温度圧力構造と領家火山弧西方延長の可能性。*宮崎 一博, 村岡 やよい, 池田 剛, 西山 忠男 11:45～12:00 T1-O-11 K-Ar geochronology of Abukuma metamorphic belt in NE Japan: towards a formation model of the plutonic metamorphic belt over 1,000km。*板谷 徹丸	09:15～09:30 G-O-1 「石灰岩の文鎮」は地学教育に活用可能か？*星木 勇作 09:30～09:45 G-O-2 地質図Naviを活用した「身近な地形と地質」を学ぶ授業案と中学校での実践。*栗原 行人, 前田 夏希, 津田 智康 09:45～10:00 G-O-3 花粉に基づいた房総半島のMIS 19前後（80-75万年前）の古植生変遷 ～チバニアンGSSPの進展および完新世（MIS 1）との古気候比較。*奥田 昌明, 羽田 裕貴, 菅沼 悠介, 岡田 誠 10:00～10:15 G-O-4 形状座標から復元したアンモノイドの形態的多様性変動史。*生形 貴男 10:15～10:30 休憩 10:30～10:45 G-O-5 泥岩の物性とスレーキング特性がのり面安定性に及ぼす影響。*関口 将司, 小林 俊一, 熊 曦 10:45～11:00 G-O-6 宮崎県宮崎市曾井第2遺跡で見出したイベント堆積物とその応用地質学的意義。*加瀬 善洋, 伊尾木 圭衣, 山下 裕亮 11:00～11:15 G-O-7 斜面災害のリスク評価に資する九州の接触変成マップの作成。*斎藤 真, 片桐 星来, 村岡 やよい 11:15～11:30 G-O-8 (エントリー) 力学的な断層の活動性評価であるスリップテンデンス（ST）を用いた地質断層の現世応力場における潜在的な活動性の評価～中国地方の断層を例に～。*島田 昌弥, 向吉 秀樹 11:30～11:45 G-O-9 阿蘇火砕流台地に分布するテフラ層にみられるノンテクトニック構造。*西山 賢一, 山崎 新太郎, 星住 英夫, 川畑 大作, 横田 修一郎 11:45～12:00 G-O-10 (エントリー) 2023年7月の梅雨前線豪雨に伴って九州北部で発生した斜面崩壊。*佐伯 拓馬, 宮縁 育夫, 木戸 道男, 星住 英夫
	10:00～10:15 T9-O-1 秋田県八峰町, 泊海岸の上部中新統～鮮新統「素波里安山岩」にみられる枕状溶岩と偽枕状溶岩の共存の意義。*橋本 純, 安井 光大, 相澤 正隆, 井村 匠, 星出 隆志, 畠山 富昌, 秋元 裕子, 勝長 あかね, 勝長 嘉, 菊地 真由美, 斉藤 誠悦, 鈴木 和人, 鈴木 悟, 瀧本 孝子, 西出 静, 花下 哲, 藤枝 忠靖, 米森 咲, 澤藤 凌太, 林 信太郎 10:15～10:30 T9-O-2 鉱物教科書から探るヒスイ輝石岩(硬玉)とネフライト(軟玉)の呼称の歴史。*小河原 孝彦 10:30～10:45 T9-O-3 博物館特別展「ナウマン博士とひも解く日本の地質学の原点と未来」開催報告。*郡山 鈴夏, 香取 拓馬, 小河原 孝彦, 茨木 洋介, 竹之内 耕 10:45～11:00 休憩 11:00～11:15 T9-O-4 (エントリー) 江戸時代末期に因幡で活躍した石工「川六」の石造物に使われている玄武岩石材と鳥取市青谷町丸山崎の岩石の比較。*榎村 彩羽 ^{ECS} , 川村 教一, 佐野 恭平 11:15～11:30 T9-O-5 山陰海岸ユネスコ世界ジオパークにおける, 地質遺産サイトの定義と管理の現状と課題～IUGSによる地質遺産の国際的な重要性に関する評価ガイドラインを受けて～。*松原 典孝, 藤原 勇樹 11:30～11:45 T9-O-6 室戸ユネスコ世界ジオパークにおける地域連携自然科学リテラシー教育。*岩井 雅夫, 小笠原 翼, 柿崎 喜宏, 新名 阿津子, 村山 雅史 11:45～12:00 T9-O-7 DEEP TIMEとSHALLOW TIMEをつなぐ物語-『大地と人の物語』発行の意義-。*天野 一男		

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演、^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 14 日（日）午前

会場	第 4 会場（全学 E 棟 2 階・E203）	第 5 会場（全学 E 棟 2 階・E205）	第 6 会場（全学 E 棟 3 階・E305）
	G. ジェネラルサブセッション第四紀	T12. 地球史	T2. マグマソース・マグマ供給系から火山体形成・熱水変質まで
	座長：渡邊 正巳(文化財調査コンサルタント株式会社), 卜部 厚志(新潟大学災害・復興科学研究所), 高清水 康博(新潟大学教育学部)	座長：見邨 和英(産業技術総合研究所), 佐々木 聡史(群馬大学), 桑野 太輔(京都大学)	座長：齊藤 哲(愛媛大学), 江島 圭祐(山口大学創成科学研究科), 草野 有紀(産総研地質調査総合センター)
8 : 45			
	09:30～09:45 G-O-11 輝石および鉄酸化鉱物のSEM-EDXによる自動分析に基づく砂の法地質学的識別。* 杉田 律子	09:00～09:15 T12-O-1 房総半島南端に分布する海成鮮新統における地磁気エクスカージョンの検出とその意義。* 谷元 瞭太ECS , 岡田 誠	09:15～09:30 T2-O-1 水蒸気噴火を発生する火山下の難透水層試料の岩石・鉱物学的特徴—霧島硫黄山の例。* 草野 有紀 , 井村 匠, 古川 竜太, 山元孝広, 石塚 吉浩, 伊藤 順一, 松島 喜雄, 朝比奈 大輔, 阪口 圭一
	09:45～10:00 G-O-12 介形虫群から過去の洪水履歴を復元する—2020九州豪雨を例に—。* 田中 源吾	09:15～09:30 T12-O-2 Reconstructing ice sheets during the last glacial cycle with relative sea level data. * Evan James GOWAN Anna Hughes Richard Gyllencreutz Jan Mangerud John Inge Svendsen Jo Brendryen Riccardo Riva	09:30～09:45 T2-O-2 熱水系卓越火山における異常とその斑岩システムの解釈。* 萬年一剛
	10:00～10:15 G-O-13 平成28年（2016年）熊本地震後に枯渇した湧水の回復状況について ～阿蘇カルデラ中央火口丘南麓における湧水の事例～。* 山田 茂昭 , 岸 智, 寺田 剛, 龍 徹, 佐藤 透	09:30～09:45 T12-O-3 機械学習を用いた微化石画像群のデータ構造抽出：データ駆動型のイクチオリス層序学確立に向けて。* 見邨 和英 , 中村 謙太郎, 安川 和孝	09:45～10:00 T2-O-3 北部九州花崗岩バソリスを構成する半深成岩体の組成変化とその存在意義。* 江島 圭祐
	10:15～10:30 G-O-14 北海道藻琴湖における碎屑性年縞堆積物分析による過去100年の炭素フラックスの変化。* 瀬戸 浩二 , 香月 興太, 園田 武, 安藤 卓人, 仲村 康秀	09:45～10:00 T12-O-4 中期原生代に生じた大気海洋の一時的富酸素化と大規模火成活動の関連性。* 尾崎 和海 , 渡辺 泰士	10:00～10:30 T2-O-4（招待講演） 日本におけるエビ閃長岩の発見とその意義。* 西本 昌司
	10:30～10:45 G-O-15 大山北麓岩伏し遺跡の古植生変遷。* 渡邊 正巳 , 松本 直子, 杉山 真二, 奥中 亮太, 別所 秀高	10:00～10:15 T12-O-5 古太古代海洋における窒素循環：32.5億年前のバーバートン帯マベベ層黒色頁岩の窒素同位体比。* 元村 健人ECS , 佐野 貴司, 清川 昌一	10:30～10:45 T2-O-5（エントリー） 愛媛県芸予諸島伯方島に産するエビ閃長岩：高温熱水流体による花崗岩類の変質と元素の移動・濃集。* 福井 望子ECS , 下岡 和也, 高橋 俊郎, 齊藤 哲
	10:45～11:00 休憩	10:15～10:45 T12-O-6（エントリー） 多指標分析に基づく前期更新世の北西太平洋の高時間解像度古環境復元。* 石井 義弘 , 宇都宮 正志, 羽田 裕貴, 乾 睦子, 泉賢太郎	10:45～11:00 休憩
	11:00～11:15 G-O-16 島尻群および知念層中の浮遊性有孔虫化石群集に基づく後期中新世から前期更新世にかけての中琉球弧付近の黒潮変動。長間 祐介, 有元 純, 西田 尚央, * 藤田 和彦	11:00～11:15 T12-O-7（エントリー） 下部更新統大桑層のアルケノンに記録された日本海沿岸域の表層環境変動。* 西山 烈 , 北村 晃寿, 長谷川 卓	11:00～11:15 T2-O-6 Geofluid mapping based on simultaneous analysis of seismic velocity and electrical conductivity: the connection between magmas, fluids, volcanoes, and earthquakes。* 岩森 光 , Geofluid Mapping Team
	11:15～11:30 G-O-17（エントリー） 大型底生有孔虫を用いた知念層の堆積環境指標の提案と古水深復元。* 日比 絵里奈ECS , 藤田 和彦	11:15～11:30 T12-O-8（エントリー） 前期三疊紀後期（オレネキアン期）のスマシアン亜期とスパシアン亜期の境界期における低緯度域遠洋深海底の古環境復元。* 松井 和己 , 高橋 聡, 市村 駿汰, 武藤 俊, 山北 聡	11:15～11:30 T2-O-7 島嶼超苦鉄質捕獲岩の岩石学的特徴：ピナツボ火山岩中の例。* 森下 知晃 , 古口 航, 秋澤 紀克, 福山 繭子, 田村 明弘, 水上 知行
	11:30～11:45 G-O-18 福島県南相馬市小高区井田川浦におけるイベント堆積物。* 卜部 厚志 , 高清水 康博, 田口 小桃	11:30～11:45 T12-O-9（エントリー） 関東山地山中層群における白亜紀アプチアン—アルビアン境界付近のオスミウム同位体層序。* 塚田 結衣ECS , 藤野 滋弘, 松本 廣直, 鈴木 勝彦	11:30～11:45 T2-O-8 小笠原前孤母島海山のテクトニクス（予察）。* 道林 克禎 , 夏目 樹, 片山 郁夫, 藤江 剛
	11:45～12:00 G-O-19 福島県南相馬市小高区蛭沢地域に分布する沖積層の古環境変遷と古津波履歴の解明。* 高清水 康博 , 河崎 陸, 卜部 厚志	11:45～12:00 T12-O-10（エントリー） インド洋におけるデカン洪水玄武岩噴出イベント期の海水オスミウム同位体層序。* 太田 映ECS , 黒田 潤一郎, Maria Tejada, 鈴木 勝彦, 久保 雄介, 石川 晃	

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、ECSダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

(19)

[illegible]

※ * 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（月・祝）午前

会場	第 1 会場（全学 E 棟 1 階・E105）	第 2 会場（全学 E 棟 1 階・E107）	口頭第 3 会場（全学 E 棟 2 階・E201）
	T3. 文化地質学	T1. 変成岩とテクトニクス	T8. 原子力と地質科学
	座長：猪股 雅美(広島工業大学), 坂本 昌弥(九州ルーテル学院大学)	座長：LAKSHMANAN Sreehari(Shimane U), 大柳 良介(国士舘大学)	座長：竹内 真司(日本大学), 吉田 英一(名古屋大学), 梅田 浩司(弘前大学)
8 : 45			
	09:00～09:15 T3-O-1 収束型・衝突型変動帯の地質と文化形成。*鈴木 寿志	08:45～09:00 T1-O-12（エントリー） Metamorphic History of Serpentinite and Amphibolite in the Sangun-Renge Belt exposed at Sasaguri, Fukuoka Prefecture. *Swarnaa ANNADURAI MUNUSAMY ^{ECS} , Jun-ichi ANDO, Kaushik DAS, Dyuti Prakash SARKAR, Seiichiro UEHARA	08:45～09:15 T8-O-1（招待講演） 沿岸部を対象とした地層処分研究の現状と課題。*井川 怜欧
	09:15～09:30 T3-O-2 高知県室戸地方で生産された硯（土佐石）の地質とその文化誌。*中山 健, 柿崎 喜宏	09:00～09:15 T1-O-13（エントリー） 沖縄県慶良間諸島「阿嘉島剪断帯（新称）」にみる沈み込み帯深部プレート境界剪断帯の形成過程と歪分布。*高橋 慧 ^{ECS} , 山口 飛鳥, 大坪 誠	09:15～09:30 T8-O-2 地層処分の安全評価に向けた長期的な自然現象の確率論的評価手法の高度化。*後藤 淳一, 田窪 勇作, 三枝 博光, 稲倉 寛仁, 河村 秀紀
	09:30～09:45 T3-O-3 伝統的な和紙製法における石灰利用の科学的評価：高知県の石灰岩地質と土佐和紙づくり。*浦本 豪一郎, 北岡 竜之, 笹岡 美穂	09:15～09:30 T1-O-14（エントリー） ドローン磁気探査による蛇紋岩分布の抽出：赤石山地北部・三波川帯の例。*國谷 七海 ^{ECS} , 森 宏, 宿輪 隆太, 安井 悠人, 延原 香穂, 大熊 茂雄, 宮川 歩夢, 常盤 哲也, 小澤 和浩, 山岡 健, 永治 方敬, 村上 大知	09:30～09:45 T8-O-3 地層処分の安全評価に向けた地下環境の状態変化を考慮した地質学的視点。*大坪 誠
	09:45～10:00 T3-O-4 Abu Gerida - Hamama: a unique area of iron archaeometallurgy in Ancient (318-207 BC) Egypt. *Yasser Medhat Hassan Abdelrahman Vincent Serneels	09:30～09:45 T1-O-15（エントリー） 接触変成作用による超マフィック岩の微量元素組成変化：西南日本内帯、多里-三坂岩体の例。*鳴海 慎入, 市山 祐司, 田村 明弘, 森下 知晃	09:45～10:00 T8-O-4 花崗岩冷却過程と物質移行経路形成の関係。*笹尾 英嗣, 湯口 貴史
	10:00～10:15 T3-O-5 「いけず石」に用いられる石製品から探る地域文化。*中条 武司, 横山 康子, いけず石 調査グループ	09:45～10:00 T1-O-16 赤石山地北部・三波川帯における接触変成岩中炭質物のラマン分光分析を用いた石墨化度の不均質性検出。*森 宏, 早川 由帆, 田口 知樹, 山岡 健, 小澤 和浩, 延原 香穂, 中澤 明子, 高木 大成, 常盤 哲也	10:00～10:15 T8-O-5 長期的な地形変化や海水準変動を考慮した四次元地質環境モデル構築と地下深部の水理場・化学場への影響評価に関する検討。*高林 佑灯, 尾上 博則, 高畑 祐美, 鏝 顕正, 奥木 さくら, 橋本 秀爾, 松尾 重明, 三枝 博光
	10:15～10:30 T3-O-6 ダーウィンのサンゴ礁沈降説に反対したライン。*矢島 道子, 山田 直利	10:00～10:15 T1-O-17 ホルンフェルスの面構造・線構造解析：丹沢山地でのケーススタディー。*増田 俊明, 田阪 美樹, 松本 拓己, 大嶽 良太, 倉科 萌, 楠 賢司, 酒井 瑞帆, 山下 浩之, 中村 俊文, 谷 圭司, 夏目 樹	10:15～10:30 休憩
	10:30～10:45 休憩	10:15～10:30 休憩	10:30～11:00 T8-O-6（招待講演） JAEA東濃地科学センター 土岐地球年代学研究所における研究開発の現況。*石丸 恒存, 浅森 浩一, 花室 孝広, 川村 淳
	10:45～11:15 T3-O-7（招待講演） 人々の暮らしから読み解く、阿蘇の文化的景観20年。*田中 尚人	10:30～10:45 T1-O-18（エントリー） PXRDスペクトルの次元圧縮を用いた後退変成作用の定量評価と空間パターンの可視化：四国三波川変成帯の東五良津岩体周辺部の例。*田邊 凌雅, 松野 哲士, ダンデル オトゴンバヤール, 大坂 恵一, 宇野 正起, 岡本 敦	11:00～11:15 T8-O-7 JAEA東濃地科学センター土岐地球年代学研究所における年代測定技術開発の現状。*花室 孝広
	11:15～11:30 T3-O-8 遺産影響評価（HIA）のためのアトリビュートの定義と特性の整理 ― 世界文化遺産登録を目指す「阿蘇」での試み ―。*早坂 竜児, 新開 美穂, 熊本県 阿蘇草原再生・世界遺産推進課	10:45～11:00 T1-O-19 三波川帯樋口蛇紋岩体のバデレアイト集合体の記録するマントルウェッジの変質イベント時期。*沢田 輝, 大柳 良介, 仁木 創太, 吉田 一貴, 長田 充弘, 平田 岳史, 岡本 敦	11:15～11:30 T8-O-8 地下深部におけるマグマ等の高温流体の推定手法。*浅森 浩一, 雑賀 敦, 福田 将真, 末岡 茂, 梅田 浩司
	11:30～11:45 T3-O-9 石材の再発見は、地域の何を掘り起こすのか？：文化地質学の視点から見た参加型調査の可能性。*田口 公則, 山下 浩之, 丹治 雄一, 西澤 文勝, 夏目 樹	11:00～11:15 T1-O-20（エントリー） 沈み込み帯におけるスラブ-ウェッジマントル間カップリング深度の地質学的制約：ドラマイラ超高压変成岩ユニットの検討。*星 輝 ^{ECS} , ウォリス サイモン	11:30～11:45 T8-O-9 表計算ソフトを用いた断層のすべり方向のミスフィット角の計算。*島田 耕史
	11:45～12:00 T3-O-10 小豆島における自然災害伝承碑の立地と地形・地質のGIS的考察。*猪股 雅美 ^{ECS}	11:15～11:30 T1-O-21 大分県佐賀関半島の高変成度岩ブロックを含む蛇紋岩メランジュの発見。*宮下 敦, 村上 丈司, 笠木 明, 辻森 樹	11:45～12:00 T8-O-10 御前崎沖の島が1854年安政東海地震の地震断層で沈没した可能性。*石渡 明

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）/口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演、^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

■ 9 月 15 日（月・祝）午前

会場	第 7 会場（全学 C 棟 3 階・C301）
	G. ジェネラルサブセッション地球化学・地域地質・層序
	座長：有元 純(産業技術総合研究所 地質調査総合センター), 宇野 康司(兵庫県立大学), 黒田 潤一郎(東京大学大気海洋研究所)
8 : 45	
	09:00～09:15 G-O-21 島根県大田市の海岸に転がるチャート礫より産出したペルム紀からジュラ紀にかけての放散虫化石とその意義. *古谷 裕 
	09:15～09:30 G-O-22 白亜紀における西南日本の古地磁気極移動曲線の高精度化. *宇野 康司, 菅 遥輝, 古川 邦之
	09:30～09:45 G-O-23 紀伊水道徳島沖の海底下撓曲構造と重力異常. *有元 純, 宮川 歩夢
	09:45～10:00 G-O-24 伊豆半島西側斜面深海部域からの基盤岩類. *坂本 泉, 長嶺 百花, 古橋 皇, 新井 仁奈, 渡邊 聡士, 柴尾 創士, 横山 由香, 森 光貴, 佐藤 悠介, 棚橋 道郎
	10:00～10:15 G-O-25 関東山地北部跡倉ナップと秩父北帯との層序関係：3つの解釈. *竹内 圭史
	10:15～10:30 休憩
	10:30～10:45 G-O-26 東シナ海大陸斜面域における表層堆積物中のヘリウムの起源. *土岐 知弘, 與那嶺 竜勢, 鹿児島 涉悟, 高畑 直人
	10:45～11:00 G-O-27 (エントリー) 北海道苫小牧市に分布する黒ボク土の有機分子分析による形成過程の検討. *福地 亮介  , 沢田 健, 松井 昭
	11:00～11:15 G-O-28 オーストラリア北西大陸棚のブラウズ堆積盆地で産する天然ガスの起源と産状. *稲場 士誌典, 森田 宜史
	11:15～11:30 G-O-29 (エントリー) オーストラリア北西沖大陸棚に分布するドロマイトの形成過程. *葭井 功輔, 高柳 栄子, 若木 重行, REUNING Lars, 井龍 康文
	11:30～11:45 G-O-30 中部九州火山地域温泉水ストロンチウム同位体組成：マグマ経由火山性地殻流体とスラブ流体起源有馬型塩水の比較. *可児 智美, 森川 徳敏, 三澤 啓司, 中村 仁美
	11:45～12:00 G-O-31 Gold distribution in the Eastern Desert of Egypt and its relation to ophiolitic serpentinites from a Neoproterozoic accretionary complex. *Yasser Medhat Hassan Abdelrahman Atsushi Okamoto Abdel-Moneim EldougDoug Mohamed Gobashy

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。
※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。
※*太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（月・祝）午後

会場	第 1 会場（全学 E 棟 1 階・E105）	第 2 会場（全学 E 棟 1 階・E107）	口頭第 3 会場（全学 E 棟 2 階・E201）
	T3. 文化地質学	T10. テクトニクス	T4. 岩石・鉱物の変形と反応
	座長：森野 善広(パシフィックコンサルタンツ株式会社), 大友 幸子(山形大学)	座長：向吉 秀樹(島根大学), 藤内 智士(高知大学), 濱田 洋平(海洋研究開発機構)	座長：宇野 正起(東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻), 奥田 花也(海洋研究開発機構), 吉田 一貴(高エネルギー加速器研究機構)
15:00	15:00~15:30 T3-O-11（招待講演） たかが「石」されど「石」．* 一村 一博	15:00~15:30 T10-O-1（招待講演） 海洋底から造山帯へ：三波川変成帯の深部付加プロセス．* 遠藤 俊祐 , 栗原 那知, 崎 海斗	15:00~15:15 T4-O-1 大西洋アトランティス岩体蛇紋岩化かんらん岩掘削孔中の物性変化について－IODP第399次航海U1601C孔の結果．* 阿部 なつ江
	15:30~15:45 T3-O-12 岐阜県中津川市旭ヶ丘の句碑「六歌仙塚」の石材．* 朝倉 顯爾	15:30~15:45 T10-O-2 西南日本白亜紀地質進化に対する海嶺沈み込みモデルの再検討．* ウォリス サイモン	15:15~15:30 T4-O-2（エントリー） MgO水和膨張反応における反応－変形－流体流動のフィードバック：拘束条件の影響．* 坂下 福馬 , 岡本 敦, ダンダル オトゴンバヤル, 吉田 一貴, 奥田 花也, 宇野 正起
	15:45~16:00 T3-O-13 鴨長明の方丈跡とされてきた方丈石に関する検討．* 松田 法子 , 藤岡 換太郎, 京谷 友也	15:45~16:00 T10-O-3 室戸半島, 暁新世～前期中新世四万十帯付加コンプレックスの後背地変遷．* 原 英俊 , 藤内 智士, 松元 日向子	15:30~15:45 T4-O-3 東北沈み込み帯アウターライズ域から採取された堆積物試料について高温高圧環境の保持による続成作用の再現と摩擦特性への影響に関する研究．* 井藤 隼斗 , 岡崎 啓史, 上田 瑞貴, 濱田 洋平, 山口 飛鳥
	16:00~16:15 T3-O-14 大谷石を含む栃木県産凝灰岩質石材：その利用と質感について．* 橋本 優子 , 相田 吉昭, 何 元元, 石川 智治	16:00~16:15 T10-O-4 秩父盆地と五日市盆地から得られたジルコンU-Pb年代と古地磁気方位：本州中部、関東山地の新第三紀テクトニクスの新展開．* 星 博幸 , 松本 郁美, 岩野 英樹, 檀原 徹	15:45~16:00 T4-O-4（エントリー） 海山由来石灰岩の摩擦特性：沈み込み帯における地震活動との関係．* 関川 真佑子 , 奥田 花也, 北村 真奈美, 高橋 美紀, 山口 飛鳥, 澤井 みち代
	16:15~16:30 休憩	16:15~16:30 T10-O-5（エントリー） 前弧海盆の変形構造から明らかにする海山沈み込みテクトニクス～新第三系宮崎層群における局所的な側方圧縮応力～．* 吉本 剛瑠 , 山本 由弦	16:00~16:15 T4-O-5 地震断層内部の静・動的物理化学プロセス解明に向けた回転式熱水摩擦試験機の開発．* 廣瀬 丈洋 , 奥田 花也, 谷川 亘, 濱田 洋平, 岡崎 啓史, Bedford John
	16:30~16:45 T3-O-15 石材名としての御影石について．* 先山 徹	16:30~16:45 T10-O-6 内陸断層の運動像からみた北信越地方の応力場とその空間変化．* 小林 健太 , 千葉 響, 高橋 啓太	16:15~16:30 休憩
	16:45~17:00 T3-O-16 ポータブル型蛍光X線分光分析装置を用いた花崗岩建築石材の産地推定に向けて．* 乾 睦子 , 西本 昌司, 中澤 努, 山下 浩之, 平賀 あまな	16:45~17:00 T10-O-7 熊本県 日奈久断層帯の完新世テクトニクス．* 横山 祐典 , タン エバン, 宮入 陽介, 白濱 吉起, 宮下 由香里	16:30~16:45 T4-O-6（エントリー） Slow-to-Fast地震発生帯の温度条件下での流体圧降下による断層バルブモデルの実験的再現と鉱物脈形成．* 戸田 涼斗 , 宇野 正起, 岡本 敦
	17:00~17:15 T3-O-17 旧兵庫県農工銀行豊岡支店の外壁に使われている由良石の岩石学的同定．* 西本 昌司 , 乾 睦子, 山下 浩之, 松原 典孝	17:00~17:15 T10-O-8 布田川断層帯における 2 種類の断裂帯での平均活動間隔の相違．* 吉村 辰朗	16:45~17:00 T4-O-7（エントリー） 南海トラフ地震発生帯における泥質片岩のレオロジー特性に関する実験的研究．* 八木 寿々歌 , 岡崎 啓史
	17:15~17:30 T3-O-18 丹後半島に分布する近世～近代石造物の石材と鮮新世経ヶ岬層溶岩の比較．* 川村 教一 , 崎山 正人	17:15~17:30 T10-O-9 2025年6月開始の悪石島地震活動と琉球海溝域のPlate運動歪の蓄積と解放．* 新妻 信明	17:00~17:30 T4-O-8（招待講演） スロー地震の地質学的痕跡を探る．* 氏家 恒太郎 , 矢部 優, 山崎 悠翔, Yeo Thomas, 駒木野 照太

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* **太字氏名：代表発表者**, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, **ECS**ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 15 日（月・祝）午後

会場	第 4 会場（全学 E 棟 2 階・E203）	第 5 会場（全学 E 棟 2 階・E205）	第 6 会場（全学 E 棟 3 階・E305）
	T11. 都市地質学：自然と社会の融合領域 	T7. 堆積地質学の最新研究	T13. 地域地質・層序学：経過と集大成
	座長：中澤 努(産業技術総合研究所地質調査総合センター), 北田 奈緒子(GRI財団)	座長：松本 弾(産業技術総合研究所), 白石 史人(広島大学)	座長：野崎 篤(平塚市博物館), 羽田 裕貴(国立研究法人産業技術総合研究所地質調査総合センター)
15：00	15:00～15:30 T11-O-8（招待講演） 九州地盤情報共有データベースを用いた浅層地質の三次元モデル構築の試み, * 石原 与四郎	15:00～15:15 T7-O-1 前弧・背弧・前縁堆積盆の長周期・短周期テクトニックサイクルと堆積システムの変化, * 高野 修	15:00～15:15 T13-O-1（エントリー） 北海道蝦夷層群のチューロニアン/コニアシアン境界における大型化石・炭素同位体比統合層序と高精度国際年代対比, * 高橋 恒佑 , 高嶋 礼詩, Walaszczyk Ireneusz, 山中 寿朗, 都丸 大河, 黒柳 あずみ
	15:30～15:45 T11-O-9 Web APIを活用した地層対比システムの開発, * 櫻井 健一 , 米澤 剛, 根本 達也, 野々垣 進	15:15～15:30 T7-O-2 諏訪湖の表層コア試料から見た諏訪湖の堆積作用, * 公文 富士夫 , 葉田野 希	15:15～15:30 T13-O-2 房総半島南端に分布する海成鮮新－更新統を用いた磁気層序－海洋同位体層序の精密対比, * 岡田 誠 , 谷元 瞭太, 小塚 大輝, 小西 拓海, 柚原 涼花, 長友 大輝
	15:45～16:00 T11-O-10 堰き止め地形形成に関わる基盤地形, * 高嶋 洋	15:30～15:45 T7-O-3 瀬戸内海沿岸域における津波堆積物の探索：香川県東かがわ市引田地区大池の湖底堆積物調査, * 寺林 優 , 卜部 厚志, 酒井 英男, 金田 義行, 松居 俊典	15:30～15:45 T13-O-3 房総半島の下部更新統千倉層群と上総層群下部における古地磁気逆転境界の層位と広域テフラ, * 小西 拓海 , 岡田 誠, 宇都宮 正志
	16:00～16:15 休憩	15:45～16:15 T7-O-4（招待講演） 海底のイベント堆積物を用いた地震履歴研究の現状と今後のチャレンジ：日本周辺海域の研究から, * 池原 研	15:45～16:00 T13-O-4 三浦半島南部に分布する上総層群林層（下部更新統）から見いだされた大峰－SK110テフラ, * 野崎 篤 , 塩井 宏幸, 笠間 友博, 西澤 文勝, 柴田 健一郎
	16:15～16:30 T11-O-11 能登半島に分布する珪質泥岩の単位体積重量と地震時の地すべり移動量との関連性, * 楠本 岳志 , 酒井 俊典, 宮地 良典, 川畑 大作, 正田 大輔	16:15～16:30 休憩	16:00～16:15 休憩
	16:30～16:45 T11-O-12 関東地下水盆のモニタリングと地盤沈下現況, * 香川 淳 , 古野 邦雄	16:30～16:45 T7-O-5 三浦半島に分布する葉山層群から産出した生痕化石Tasselia ordamensisのコンクリーション化過程, * 菊川 照英ECS , 高橋 聡, 阿部 理, 浅原 良浩, 古川 登, 吉田 英一, 勝田 長貴, 相田 吉昭	16:15～16:30 T13-O-5 掛川層群堀之内層におけるガウス－松山古地磁気境界 * 羽田 裕貴 , 中谷 是崇, 水野 清秀
	16:45～17:00 T11-O-13 世界の地盤沈下の概況（その2）ヨーロッパ地域, * 藤崎 克博	16:45～17:00 T7-O-6 小笠原沖産シロサンゴおよびモモイロサンゴ骨格の地球化学的解析による成長史の復元, * 奥村 知世 , 平川 史也, ベピノ マリア マリヴィック, 松崎 琢也, 池原 実, 川合 達也, 石川 剛志	16:30～16:45 T13-O-6 栗原市荒砥沢地滑り岩体を構成する凝灰岩の給源カルデラ, * 高嶋 礼詩 , 水戸 悠河, 岡本 正則, 原田 拓也
	17:00～17:15 T11-O-14 PFAS指針値（暫定）超過現場で実施した井戸諸元調査等に基づく水文地質構造の推定（速報）, * 田村 嘉之 , 河野 里奈, 岩井 久美子, 木村 和也	17:00～17:15 T7-O-7（エントリー） 長野県白骨温泉に分布する化石トラバーチンの堆積学的・地球化学的特徴と形成過程の解明, * 清原 愛 , 狩野 彰宏, 加藤 大和, 戸丸 仁, 白石 史人	16:45～17:00 T13-O-7 秋田沖第四系の高精度微化石層序から探る第四紀古海洋変動, * 瀬戸口 伶子 , 今井 利矩, 佐藤 時幸
		17:15～17:30 T7-O-8 掛川層群から産する魚類耳石化石の炭酸凝集同位体記録を利用した前期更新世古水温復元と古汽水湖の存在の示唆, * 加藤 大和 , 仙田 量子, 狩野 彰宏	17:00～17:15 T13-O-8 古田沢湖層の年代と大型植物化石から見たMIS3期の環境変化, * 矢部 淳 , 植村 和彦, 植田 弥生, 五井 昭一, 百原 新
		17:30～17:45 T7-O-9 鹿児島県喜界島における上部更新統サンゴ礁複合体堆積物の堆積過程, * 松田 博貴 , 佐々木 圭一, 得重 和希, 熊谷 優香, 林田 将英	17:15～17:30 T13-O-9 ポットホルルの節理による構造規制とその生成機構：和歌山県古座川町「滝の拝」の例, * 木村 克己 , 金子 誠, 山本 俊哉

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 16 日（火）午前

会場	第 1 会場（全学 E 棟 1 階・E105）
	T14. 九州の火山テクトニクス 
	座長：辻 智大(山口大学), 大橋 聖和(産業技術総合研究所), 大坪 誠(産業技術総合研究所地質調査総合センター), 辛島 康大(山口大学)
8：45	08:45～09:15 T14-O-1（招待講演） 地震波トモグラフィーから見た九州の地震火山活動と沈み込みダイナミクス。* 趙 大鵬 09:15～09:30 T14-O-2 八重山海底地溝におけるマグマ貫入構造の空間変化：反射法地震探査による考察。* 新井 隆太 , 三澤 文慶, 大坪 誠, 木下 正高, 石野 沙季, 山本 朱音 09:30～09:45 T14-O-3 霧島山新燃岳2025年噴火の火山灰構成粒子の時間変化（速報）。* 木尾 竜也  , 宮城 磯治, 東宮 昭彦, 岩橋 くるみ, 及川 輝樹, 松本 恵子, 古川 竜太, 草野 有紀, 山崎 誠子, 風早 竜之介, 篠原 宏志, 池永 有弥, 新谷 直己, 石塚 吉浩 09:45～10:00 T14-O-4 九州中部全体を横ずれ引張テクトニクスで説明する。* 大橋 聖和 10:00～10:15 T14-O-5（エントリー） 阿蘇カルデラ南西壁の地質から推定する大分－熊本構造線の活動場の変遷。* 辛島 康大 , 辻 智大 10:15～10:30 休憩 10:30～11:00 T14-O-6（招待講演） 中部九州阿蘇地域におけるマグマ活動の時間変化とそのテクトニクス背景。* 三好 雅也 , 角野 浩史, 仙田 量子, 佐野 貴司, 新村 太郎, 古川 邦之, 川口 允孝, 長谷中 利昭 11:00～11:15 T14-O-7 布田川断層を貫通したボーリング孔における深度300m以深の断層破碎帯内の亀裂を充填する粘土。* 澁谷 奨 , 林 為人, 神谷 奈々 11:15～11:30 T14-O-8（エントリー） 布田川断層帯周辺の地質構造と阿蘇4火砕流堆積物の標高対比による断層運動の検討。* 改原 玲奈 , 辻 智大, 大橋 聖和, 澁谷 奨 11:30～11:45 T14-O-9 更新統唐戸層のテフラ層序から制約される姫島火山群の活動時期。* 納谷 友規 , 水野 清秀, 堀内 悠 11:45～12:00 T14-O-10 琉球弧に沈み込むスラブ内応力の不均一性が支配する脱水経路と火山活動への影響。* 大坪 誠 , 宮川 歩夢

第 2 会場（全学 E 棟 1 階・E107）
T5. 沈み込み帯・陸上付加体
座長：奥田 花也(海洋研究開発機構), 細野 日向子(国立研究開発法人産業技術総合研究所), 細川 貴弘(高知大学)
08:45～09:15 T5-O-1（招待講演） IODP Expedition 405 JTRACKの成果。* 氏家 恒太郎 , 小平 秀一, Conin Marianne, Fulton Patrick, Kirkpatrick Jamie, Regalla Christine, 奥津 なつみ, 前田 玲奈, Toczko Sean, 江口 暢久, IODP第405次航海 乗船研究者一同 09:15～09:30 T5-O-2（エントリー） IODP Exp. 405 JTRACK掘削地点の放散虫化石層序：日本海溝近傍の前縁プリズムおよび沈み込む海洋プレートについて。* 萩野 稜  , 岩井 雅夫, CONIN Marianne, FULTON Patrick, KIRKPATRICK Jamie, 小平 秀一, REGALLA Christine, 氏家 恒太郎, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, TOCZKO Sean, IODP Exp.405乗船研究者一同 09:30～09:45 T5-O-3 IODP Exp.405JTRACK掘削孔の珪藻化石層序：2011年東北沖地震浅部破壊領域の先端プリズム構造。* 岩井 雅夫 , 萩野 稜, IODP Exp.405乗船研究者一同 09:45～10:00 T5-O-4 日本海溝に沈み込む太平洋プレート上のチャートと玄武岩：IODP第405次航海の新知見。* 山口 飛鳥 , Bellanova Piero, Brunet Morgane, Chang Yu-Chun, Pizer Charlotte, 福地 里菜, Gough Amy, Nicholson Uisdean, 奥田 花也, Conin Marianne, Kirkpatrick Jamie, 小平 秀一, Fulton Patrick, Regalla Christine, 氏家 恒太郎, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, IODP第405次航海乗船研究者 10:00～10:15 T5-O-5 浅部沈み込み帯における巨大地震後の断層帯の強度回復過程－JTRACK・JFASTの水理特性に関する掘削データの比較－。* 細野 日向子 , 濱田 洋平, 奥田 花也, 大坪 誠, 谷川 亘, 廣瀬 文洋, Conin Marianne, Fulton Patrick, Kirkpatrick Jamie, 小平 秀一, Regalla Christine, 氏家 恒太郎, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, Sean Toczko 10:15～10:30 T5-O-6（エントリー） 微細構造観察に基づく地震サイクル間の動的な岩石-流体間反応：白亜系四十帯牟岐メランジュ・南阿波断層。* 細川 貴弘  , 橋本 善孝, Rüdiger KILIAN, Michael STIPP 10:30～10:45 T5-O-7（エントリー） 海山沈み込み・付加に伴うプレート境界断層の変形：美濃帯舟伏山ユニットの例。* 多久和 風花  , 山口 飛鳥, 大坪 誠, 志村 侑亮, 奥田 花也 10:45～11:00 休憩 11:00～11:15 T5-O-8 物性不均質ジオメトリが規定する応力・歪み分布の時空間変化とスケーリング。* 橋本 善孝 11:15～11:30 T5-O-9（エントリー） 沈み込み帯震源域における地殻の弾性率分布と地震発生帯への影響。* 高慎一郎 , 濱田 洋平, 奥田 花也, 田村 芳彦, 坂口 有人 11:30～11:45 T5-O-10 地震発生帯の岩石の弾性的性質：スケール依存性および地震発生プロセスへの影響。* 奥田 花也  , 赤松 祐哉, 北村 真奈美, 澤井 みち代 11:45～12:00 T5-O-11 断層沿いの短時間発熱による硫黄の減少とその行方。* 山本 由弦 , 小林 唯乃, 福山 蘭子, Bowden Stephen, 濱田 洋平, 三村 匠海, 千代延 俊 12:00～12:15 T5-O-12 四国沖外縁隆起帯のネオテクトニクス。* 芦 寿一郎 , 照井 孝之介 12:15～12:30 T5-O-13 日向灘の地形的・熱学的特徴。―KS-21-08およびKS-25-03航海報告―。* 木下 正高 , 土岐 知弘, 橋本 善孝, 濱田 洋平, KS-21-08 航海研究者, KS-25-03 航海研究者

口頭第 3 会場（全学 E 棟 2 階・E201）
T4. 岩石・鉱物の変形と反応
座長：向吉 秀樹(島根大学), 宇野 正起(東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻), 福田 惇一(大阪公立大学)
08:45～09:00 T4-O-9（エントリー） カルシオカーボナタイト形成プロセスと酸化還元状態：パンダヒル産カーボナタイトの例。* 梅宮 穂花  , 辻森 樹, ポニフェイス ネルソン 09:00～09:15 T4-O-10（エントリー） 脆性・延性遷移領域における変形組織とスロー／ファスト地震の統計性との間の関係：ゲル粒子-粘性流体混合系の剪断アナログ実験。* 佐々木 勇人  , 桂木 洋光 09:15～09:30 T4-O-11（エントリー） 固体圧式変形試験機による高封圧条件下における精密応力決定：大理石の変形実験への適用。* 永井 嵩也  , 清水 以知子 09:30～09:45 T4-O-12（エントリー） 流通式水熱実験による斑れい岩の熱水変質に伴う元素移動と置換組織の発達。* 鈴木 康平  , ダンダル オトゴンバヤール, 岡本 敦 09:45～10:00 T4-O-13 粒成長に伴う流体移動：樟脳-エタノールを用いた透視実験。* 福田 惇一 , 瀬戸 雄介 10:00～10:15 T4-O-14（招待講演） 火星表層環境の再現を目指した実験装置の整備と今後の研究展望。* 亀田 純 , Ruj Trishit 10:15～10:30 休憩 10:30～10:45 T4-O-15（エントリー） 三波川帯におけるマイクロブーディン構造を用いた応力・歪解析。* 外山 和也  , 道林 克禎 10:45～11:00 T4-O-16 低変成度泥質片岩の石英曹長石レイヤの変形組織：中部地方渋川地域三波川帯の例。* 片桐 星来 , 道林 克禎 11:00～11:15 T4-O-17（エントリー） 石英の変形再結晶組織におけるタイプ P/S 遷移の定量的指標とその要因。* 中小路 一真  , 清水 以知子, 道林 克禎 11:15～1:30 T4-O-18 Co-seismic ductile deformation in carbonate-hosted active faults。* Thomas Yeo Kohtaro Ujii Kaoru Inoue Takayoshi Nagaya Hirauchi Ken-ichi 11:30～11:45 T4-O-19 根尾谷断層極浅部における自形方解石, バライトと摩擦発熱。* 大谷 具幸 , 前田 剛志, 吉田 拓海 11:45～12:00 T4-O-20 cleavable olivineからわかる地質学的に重要なこと。* 安東 淳一 , 富岡 尚敬, 前川 寛和

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者、(エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第 132 年学術大会（2025 熊本大会）講演プログラム（口頭）

■ 9 月 16 日（火）午前

会場	第 5 会場（全学 E 棟 2 階・E205）	第 6 会場（全学 E 棟 3 階・E305）	第 7 会場（全学 C 棟 3 階・C301）
	T7. 堆積地質学の最新研究	T13. 地域地質・層序学：経過と集大成	G. ジェネラルサブセッション海洋地質
	座長：足立 奈津子(大阪公立大学), 澤田 大毅(石油資源開発株式会社)	座長：細井 淳(茨城大学理学部地球環境科学領域), 内野 隆之(産業技術総合研究所・地質調査総合センター), 金指 由維(弘前大学), 辻野 匠(産業技術総合研究所・地質調査総合センター)	座長：松崎 賢史(東京大学大気海洋研究所), 三澤 文慶(産業技術総合研究所)
8：45	08:45～09:00 T7-O-10 微生物によるペロイド形成過程解明の試み。*白石 史人, シュテンゲル ハネス, 田中 秀明, 柳川 勝紀, 富岡 尚敬, 高橋 嘉夫	09:00～09:15 T13-O-10 南部北上帯, 氷上花崗岩類中に分布する壺の沢変成岩のジルコン-U-Pb年代と形成機構。*内野 隆之, 常盤 哲也	10:00～10:15 G-O-32 古環境指標としての磁性細菌起源マグネタイト。*山崎 俊嗣
	09:00～09:15 T7-O-11（エントリー） 上部ジュラ系～下部白亜系鳥巢式石灰岩の形成要因。*鬼頭 岳大 ^{ECS} , 中田 亮一, 狩野 彰宏, 白石 史人	09:15～09:30 T13-O-11 東アジア先ジュラ紀ニッポニデス造山帯の一部としての黒瀬川帯：銚子半島の三疊紀付加体の地体構造上の意義。*磯崎 行雄, 堤之恭, 岩本 直哉, 上田 脩郎	10:15～10:30 G-O-33 海域を震源とする地震イベント直後の海域調査はなぜ重要なのか？*池原 研, 佐川 拓也, ジェンキンス ロバート
	09:15～09:30 T7-O-12（エントリー） Sedimentological and geochemical characteristics of Mesoproterozoic Chitrakoot Formation, lower Vindhyan Supergroup, central india: Implication on paleoenvironment。*Abhishek Kumar Pandey ^{ECS} , Partha Pratim Chakraborty, Ryoichi Nakada, Akihiro Kano, Fumito Shiraishi	09:30～09:45 T13-O-12 高知県物部地域上部ジュラ～下部白亜系美良布層の層序, 年代および形成過程。*森野 善広	10:30～10:45 G-O-34 「しんかい6500」による黒島海丘の地質学的成果とその意義—黒島海丘は泥火山か？*川村 喜一郎, 川口 昂大, 堤 桃子, 三澤 文慶, 浅田 美穂, 高井 研
	09:30～09:45 T7-O-13 スターチアン氷期シークエンスに含まれる炭酸塩岩と鉄質堆積物。野田 舜, 矢部 志織, *狩野 彰宏	09:45～10:00 T13-O-13 丹沢・御坂山地の層序および衝突・付加の再検討（続報—凝灰岩層に含まれるジルコンの形成年代について—）。*西川 正, 白井 香奈江, 堀内 一利, 豊田 淳子, 千葉 達朗	10:45～11:00 G-O-35 海洋天然水素ポテンシャルの考察 —東北沖アウターライズの例—。*倉本 真一
	09:45～10:00 休憩	10:00～10:15 休憩	11:00～11:15 G-O-36（エントリー） 千島海溝アウターライズにおける底層流と地形効果によって形成されたコンターライト・ドリフト。*池田 尚史, 川村 喜一郎
	10:00～10:30 T7-O-14（招待講演） 九州地域の天然水素ポテンシャル評価について。*山田 泰広	10:15～10:30 T13-O-14（エントリー） 青森県下北半島西部, 佐井地域に産する中新世火山岩類の産状とジルコンU-Pb年代。*金指 由維, 折橋 裕二, 竹森 瑞葉, 岩野 英樹, 仁木 創太, 佐々木 実, 盛合 秀, 浅原 良浩, 天野 格, 梅田 浩司, 平田 岳史	11:15～11:30 G-O-37 駿河湾奥部富士川—田子の浦沖にかけての海底地形・地質特徴。*新井 仁菜, 佐藤 悠介, 柴尾 創土, 山本 玄珠, 石塚 治, 岡村 聡, 横山 由香, 平 朝彦, 坂本 泉
	10:30～10:45 T7-O-15 古気候変動, 堆積・続成作用, および油田形成の相互作用により生じた下部白亜系干潟炭酸塩岩（Tidal flat carbonates）の孔隙率・浸透率の不均質性。*山本 和幸, 門谷 弘基, Alsabeai Jawaher, Alshamsi Suad, Mosekiemang Goitse, 高柳 栄子, 井龍 康文	10:30～10:45 T13-O-15 青森県下北半島東部上部中新統の地質と放射性年代。*中満 隆博, 須藤 浩一, 三和 公	
	10:45～11:00 T7-O-16（エントリー） 岩手県久慈層群における炭化水素資源ポテンシャルの堆積学・有機地球化学的再検討。*山岸 昇玄 ^{ECS} , 安藤 卓人, 千代延 俊	10:45～11:00 T13-O-16（エントリー） 下北半島, 鮮新世～前期更新世大畑層分布域に新たに見出された複合カルデラの地質構造：産状, 岩石学的特徴, およびジルコンU-Pb年代からの制約。*吉田 颯, 折橋 裕二, 佐々木 実, 金指 由維, 岩野 英樹, 梅田 浩司, 天野 格, 平田 岳史	
	11:00～11:15 T7-O-17 化学堆積学シーケンスからみたベンガルファンの有機物堆積過程。*児玉 祐輔 ^{ECS} , 安藤 卓人, 沢田 健	11:00～11:15 休憩	
	11:15～11:30 T7-O-18（エントリー） 北海道幌向川に分布する中新統川端層の有機物に富むタービダイト層の堆積学的調査。*山田 陽翔, 沢田 健	11:15～11:30 T13-O-17 栃木県茂木町周辺に分布する中川層群山内層と茂木層の層序関係と年代。*細井 淳, 小坂 日奈子, 岩野 英樹, 檀原 徹, 平田 岳史	
	11:30～11:45 T7-O-19 蝦夷層群羽幌川層堆積岩のバイオマーカー分析によるコニアアン-サントニアン期の堆積環境復元。*高橋 温, 中村 英人, 池田 雅志, 安藤 卓人, 沢田 健, 高嶋 礼詩, 西 弘嗣	11:30～12:00 T13-O-18（招待講演） 山陰東部, 中新統北但層群における地域地質・層序学的基礎研究：最近10年の進展と残る課題。*羽地 俊樹	
	11:45～12:00 T7-O-20 ベトナム北東部デボン紀-石炭紀境界堆積岩におけるバイオマーカーを用いた古環境復元。*四木 りさ, 沢田 健, 高嶋 礼詩, 小松 俊文		

※講演番号は, トピックセッション (T), ジェネラルセッション (G) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, ^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟 1-2階）

T1. 変成岩とテクトニクス

T1-P-1

九州中部肥後変成帯に産する高度変成岩のシェードセクション解析による変成温度圧力見積もり。***小林 記之**

T1-P-2

Structural evolution of the Instekleppane, Lutzow-Holm Complex: Deformation patterns in high-grade zones of east Antarctica. ***Sreehari Lakshmanan**, Tatsuro Adachi, Yuki Mori, Tomokazu Hokada

T1-P-3

東南極・リュツォ-ホルム岩体西部に分布する太古代末期TTG地塊の分布とテクトニクス。***中野 伸彦**, 馬場 壮太郎, 加々島 慎一, Wahyuandari Fransiska A.C.

T1-P-4

関東山地, 金峰山花崗岩の周囲に発達する接触変成帯の熱構造。***山岡 健**, 村上 大知, 中澤 明子, 延原 香穂, 森 宏

T1-P-5

東南極リュツォ・ホルム岩体, 西オングル島のミグマタイトの年代論。***加々島 慎一**, 馬場 壮太郎, 中野 伸彦, 谷 健一郎

T1-P-6 (エントリー)

下部地殻変形における地震サイクルと溶質移動の役割: 東南極, ナビア岩体での観察から。***村山 燎**, スリハリ ラクシュマナン

T1-P-7 (エントリー)

山口県柳井地域領家変成帯の石灰岩に伴う反応帯の交代反応。***長岡 魁人**, 池田 剛

T1-P-8

北海道えりも町の日高変成帯上部層における変成作用と碎屑性ジルコンU-Pb年代。***高見 柊二**, 植田 勇人, 豊島 剛志, 高橋 千絢

T1-P-9

東南極リュツォ・ホルム岩体スカレンのざくろ石片麻岩中のナノ花崗岩包有物。***松本 祐門**, 池田 剛

T1-P-10

愛媛県高縄半島, 領家変成岩類中に産するスピネル-コランダム片岩。***椿 陽仁**, 澁谷 奨

T2. マグマソース・マグマ供給系から 火山体形成・熱水変質まで

T2-P-1 (エントリー)

屋久島花崗岩に含まれる正長石巨晶の成長過程。***垣内 拓馬**, 下司 信夫, 寅丸 敦志

T2-P-2

九州中部の白石野花崗閃緑岩体の石英のカソードルミネッセ

ンスパターンとTi濃度: マグマ溜り内での石英の結晶化プロセスの解明。***小北 康弘**, 城崎 陽太, 加藤 文典, 湯口 貴史

T2-P-3 (エントリー)

九州中部の白石野花崗閃緑岩のジルコンU-Pb年代, Ti濃度およびTh/Uの同時定量分析: 花崗岩質マグマの冷却プロセスの解明。***坂元 翔**, 小北 康弘, 坂田 周平, 井村 匠, 横山 立憲, 大野 剛, 湯口 貴史

T2-P-4

マグマ溜り内でのジルコン成長: 内部構造とU-Pb年代, チタン濃度, Th/Uの関係。***湯口 貴史**, 遠藤 京香, 鈴木 哲士, 小北 康弘, 坂田 周平, 横山 立憲, 井村 匠, 大野 剛, 笹尾 英嗣

T2-P-5 (エントリー)

第四紀黒部川花崗岩のジルコン中メルト包有物記載。***田口 湧一**, 齊藤 哲

T2-P-6 (エントリー)

ジルコン中メルト包有物を用いた山陽帯土生花崗岩質岩体のマグマ固結深度見積もり。***熊谷 汐莉**, 齊藤 哲

T2-P-7

熊野灘で観測された局所海底圧変動の力学モデルの考察。***有吉 慶介**, 永野 憲, 長谷川 拓也, 中野 優, 松本 浩幸, 高橋 成実, 堀 高峰

T2-P-8

放射状岩脈の中心近傍の低い流体圧比: 天草下島, 富岡半島の例。***牛丸 健太郎**

T2-P-9 (エントリー)

東北日本, 秋田駒ヶ岳火山の山体発達史。***田次 将太**, 中川 光弘, 和知 剛, 松本 亜希子, 栗谷 豪

T2-P-10

兵庫県姫路市南東部に分布する白亜紀火山岩類の岩相と層序。***毛利 元紀**, 原田 正信

T2-P-11

秋田県八峰町, 泊海岸の上部中新統~鮮新統「素波里安山岩」にみられる枕状溶岩と偽枕状溶岩の岩石記載と粘性。***相澤 正隆**, 安井 光大, 井村 匠, 星出 隆志, 橋本 純, 澤藤 凌太, 今井 遼, 畠山 富昌, 児玉 重樹, 浅川 敬公, 伴 雅雄, 林 信太郎

T2-P-12 (エントリー)

番川かんらん岩捕獲岩の構造岩石学的研究。***平田 悠馬**, 道林 克禎, 田村 明宏, 森下 知見, 荒井 章司

T2-P-13 (エントリー)

オマーン・オフィオライト南部, 新期拡大セグメント地殻セクションの地球化学的特徴とその意義。***荒岡 柊二郎**, 錦蛇 真理

T2-P-14 (エントリー)

カメルーン中央西部, マヌーン湖マール噴出物に捕獲されたパンアフリカン花崗岩片のジルコンU-Pb年代。***中屋敷 実春**, 長谷川 健, 伊藤 久敏, AKA Festus

T2-P-15

西南日本内帯中国・四国地域に分布する深成岩類の定置圧力解析 ~角閃石の高温高压実験データの多変量解析に基づく地質

温度圧力計を用いて~。***中橋 甲斐**, 齊藤 哲

T2-P-16

愛媛県芸予諸島大島に分布する白亜紀花崗岩類の酸化還元状態の推定。***下岡 和也**, 齊藤 哲, 壺井 基裕

T2-P-17

山口県萩市須佐地域に産する高山斑れい岩体の形成過程。***嶋田 翔**, 江島 圭祐

T2-P-18

隠岐島前の大山石英閃長岩の岩相区分: 多世代マグマ活動の示唆。***中山 瀬那**, 遠藤 俊祐

T2-P-19 (エントリー)

中国山地東部沖ノ山・波賀累帯深成岩体の地球化学研究。***木内 翔太**, 下岡 和也, 壺井 基裕

T2-P-20 (エントリー)

鳥取県溝口地域の花崗岩類の岩相区分と対比。***磯山 未遊**, 遠藤 俊祐

T2-P-21 (エントリー)

琵琶湖南部に分布する後期白亜紀野洲花崗岩体の地球化学的研究。***中村 一喜**, 下岡 和也, 壺井 基裕

T2-P-22

九州中央山地に産する市房山花崗閃緑岩体の岩石学的特徴。***坂元 伸晟**, 江島 圭祐

T2-P-23 (エントリー)

北部九州, 朝倉花崗閃緑岩の南北縦断組成変化と岩体成長過程。***濱野 裕大**, 江島 圭祐, 山田 来樹, 横山 立憲, 小北 康弘

T2-P-24

溶岩組成の多変量統計解析に基づく箱根火山のマグマ多様性。***廖 鑫**, 岩森 光, 坂田 周平, 高橋 正樹, 長井 雅史

T2-P-25

FAIR原則に準ずる地球化学データの統合基盤構築およびデータ駆動型解析への展開。***山口 純平**, 江島 圭祐

T9. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク

T9-P-1

阿蘇火砕流だけじゃない！ーおおいた豊後大野ジオパークの地質の多様。***吉岡 敏和**

T9-P-2

考古資料館の展示で表現する火山と人と自然の共生 | 桜島・錦江湾ジオパークの取り組み。***吉瀬 毅**

T9-P-3

GEO PARK magazineにおける地球科学的情報の効果や意義の検討。***山崎 由貴子**, 古澤 加奈, 本田 泰平, 長谷川 唯

※講演番号は、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演, ECS ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

T12. 地球史

T12-P-1

南極沿岸域堆積物コア試料のCT画像の特性と古環境学的意義。*石輪 健樹, 菅沼 悠介, 梶田 展人, 柴田 大輔, 香月 興太, 川又 基人, 池原 実

T12-P-2

銚子地域に分布する犬吠層群の酸素同位体層序に基づく北西太平洋海域の下部－中部更新統年代モデル。*桑野 太輔 , 小杉 裕樹, 原井 優里, 羽田 裕貴, 久保田 好美, Saeidi Ortakand Mahsa, 亀尾 浩司, 岡田 誠

T12-P-3

日本海沿岸地域の鮮新統－更新統に産する浮遊性有孔虫化石 Globoconella inflata 系列種の形態的特徴。*山崎 誠, 高尾 健汰, 松井 浩紀, 西川 治, 鹿納 晴尚, 長谷川 四郎

T12-P-4

房総半島南端における浮遊性有孔虫化石群集に基づく鮮新-更新世寒冷化イベント時の古環境復元。*山本 秀忠, 林 広樹, 岡田 誠, 長谷川 大輔

T12-P-5

鮮新世末の北大西洋亜極域における気候変化と海洋循環。*林 辰弥, 桑原 義博, 大野 正夫

T12-P-6 (エントリー)

カゲロウ幼虫化石から検出された有機物とその意義。*板倉 義空, 田中 源吾, 菊地 理佳

T12-P-7 (エントリー)

日本海堆積物コアのバイオマーカー分析による後期中新世の高解像度海洋環境変動の復元。*星 恒太郎 , 沢田 健, 関 有沙, 多田 隆治

T12-P-8

日本海堆積物コアの中新世テフラの対比：古海洋環境の三次元的復元を目指して。*関 有沙, 長橋 良隆, 入野 智久, 多田 隆治, 松崎 賢史, 吉岡 純平

T12-P-9 (エントリー)

インドメガラヤ州 Um Sohryngkew 川セクションにおける K/Pg 境界近傍の古環境復元。*俵 直弥 , PHUKAN Sarat, BORGOHAIN Dipima, 狩野 彰宏

T12-P-10 (エントリー)

モンゴル国ゴビ砂漠に分布する脊椎動物化石産出層の堆積年代制約に向けた土壌性炭酸塩岩の U-Pb 直接年代測定。*藤井 雄大 , 竹谷 勇人, 青木 一勝, 千葉 謙太郎, Khishigjav TSOGTBAATAR, Buuvei MAINBAYAR, Batsaikhan BUYANTEGSH, 実吉 玄貴

T12-P-11 (エントリー)

豊浦層群西中山層からの豊富な MISS の発見と、新たな研究可能性について。*河端 康佑, 齊藤 諒介

T12-P-12

ネバダ州北東部に分布する下部三畳系ディンウッドイー層から

産出したコノドント化石とアンモノイド化石。*前川 匠, ジェンクス ジェームス, 重田 康成

T12-P-13 (エントリー)

宮城県北部に分布する下部－中部三畳系稲井層群の岩相層序と生痕化石相。*遠藤 悠一 , 重田 康成

G. ジェネラルサブセッション 古生物・地学教育・岩石鉱物・火山・第四紀

G-P-1

飛騨帯宇奈月地域に産するインド石-十字石含有複變成ホルンフェルスのジルコン年代学及び地球化学。*竹原 真美, 堀江 憲路, 廣井 美邦, 足立 達郎, 外田 智千

G-P-2 (エントリー)

黒瀬川帯蛇紋岩メランジュ中に産出する輝岩の岩石学的記載と形成過程の考察：高知県中央部を例に。*土田 和輝 , 沢田 輝

G-P-3

能登半島に産する漸新世・前期中新世苦鉄質岩の岩石学的・地球化学的研究。*橋本 優生, 高橋 俊郎, 柴野 暉崇

G-P-4

三重県の古琵琶湖層群および東海層群の鮮新統湖成堆積物における Praestephanos 属珪藻の形態学的進化と生層序。*小島 隆宏, 齋藤 めぐみ, 大塚 泰介

G-P-5

SEM-EDX による砂中の重鉱物の自動分析。*杉田 律子

G-P-6

山梨県韮崎市に分布する土壌の磁気分析 - 法地質学への応用。*川村 紀子, 杉田 律子, 組坂 健人

G-P-7 (エントリー)

後背地地質が微小碎屑物の組成に与える影響に関する法地質学的検討～ハイパースペクトルカメラによる客観性・定量性の確保～。*渡邊 美紀 , 秋葉 教充, 角田 英俊, 杉田 律子, 組坂 健人, 竹内 真司

G-P-8

2018年9月11日北海道胆振東部地震における支笏湖周辺の崩壊。*廣瀬 亘

G-P-9

長野県北部、野尻湖立が鼻遺跡における約5万～4.3万年前の堆積環境。*竹下 欣宏, 花岡 邦明, 趙 哲済, 川辺 孝幸, 中川 知津子, 小林 雅弘, 小林 和宏, 関 めぐみ, 野尻湖 地質グループ

G-P-10

第四紀における閉鎖的内湾性 Bicornucythere 属（甲殻類、貝形虫）の形態と古生物地理。*入月 俊明, 長田 晴樹

G-P-11

背斜と向斜の教え方。*星 博幸

G-P-12

学生のヒマラヤ野外実習プログラム13年間。*吉田 勝, 学生のヒマラヤ野外実習 プロジェクト

Jr. ジュニアセッション

J-P-1

七滝周辺の地層の重なりおよび分布の調査。*熊本市立月出小学校

J-P-2

生痕化石と統計学的新手法から明らかにする、8500万年前のスフェノセラムスの生態。*熊本県立天草高等学校

J-P-3

えっ！？鳥が浮いてる？浮島現象を科学するⅢ～視程から解き明かす蟹気楼の謎～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-4

知らない現象（不知火現象）を科学する6～ついに観測に成功！不知火の正体に迫る～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-5

知らない現象（不知火現象）を科学する6～不知火はなぜ、八朔の晩にしか見られないのか？～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-6

馬門石の赤色はヘマタイトか？3。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-7

島原大変肥後迷惑による津波被害～実態把握、効果的な伝承方法の開発、津波の科学的特性とその検証～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-8

2つの日記をつなぎわかったダルトン及びマウンダー極小期の降水出現率。*池田学園池田高等学校 科学思考班

J-P-9

江戸幕府の公式天文観測「靈驗候簿」を使って「石川日記」の降水出現率や「弘前藩江戸日記」の7月の気温を検証する。*池田学園池田高等学校科学思考班

J-P-10

指宿火山群での噴気観測による地下モデルの提唱。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-11

2025年5月の桜島連続噴火における温泉水の成分変化。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-12

動画解析プログラムを用いた桜島の火山雷解析。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-13

※講演番号は、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演,  ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

沖縄の島々の粟石に含まれる有孔虫化石の比較とできた環境の違い. *豊見城市立豊見城中学校／琉大ハカセ塾

J-P-14

四国中央市や新居浜市の河川に産する蛇紋岩の供給源の推定～蛇紋岩転石を用いた比較を通して～. *愛媛大学附属高等学校

J-P-15

豪州NSW州南東部Bingi Bingi Point複合深成岩体のマグマ分化末期熱水循環の温度・圧力環境. *兵庫県立姫路東高等学校

J-P-16

2024年7月、紀南の海岸に漂着したスコリア. *和歌山県立田辺高等学校

J-P-17

愛知県知多半島内海断層近くの師崎層群の古流向と古傾斜の関係. *名古屋高等学校・名古屋中学校

J-P-18

彩雲と光環の再現実験の検証～光源と雲生成条件の変化～. *中央大学附属高等学校

J-P-19

偏西風波動のモデル実験の簡易化～サーモグラフィの活用～. *中央大学附属高等学校

J-P-20

変圧器を利用した水槽実験による皿状構造の再現と形成過程の考察—地層の固結度と水圧の違いから考える堆積構造の形成条件—. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-21

使い捨てライターから解明する日本沿岸の海流. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-22

海岸砂中のマイクロプラスチックの空間分布・時間分布の解明～マイクロプラスチック問題を自分ごとにする教材の開発～. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-23

模型実験によるスラブ内二重地震面の再現. *市川高等学校

J-P-24

アウターライズ領域における地磁気の縞模様に対応する震源分布の再現実験. *市川高等学校

J-P-25

手取層群伊月層から産出した植物化石の分類と堆積環境の考察. *市川高等学校

J-P-26

北海道南西部小樽西部海岸忍路地域～桃内地域の後期中新世～鮮新世における水中火山の噴火活動史とテクトニクスについて. *北海道龍谷学園小樽双葉高等学校科学同好会

J-P-27

小樽運河周辺の歴史的建造物や倉庫を作っている石材の特徴とその由来について、特に小樽軟石と札幌軟石についての文化地質学的検討. *北海道龍谷学園小樽双葉高等学校科学同好会

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ *太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

T1. 変成岩とテクトニクス

T1-P-11

九州東部佐賀関半島三波川コンプレックス二重類帯構造ごくろ石と前弧から三波川沈み込みへの移流の可能性. *宮崎 一博, 中村 佳博, 長田 充弘

T1-P-12 (エントリー)

三波川変成帯長瀬地域における石英脈中の粗粒ザクロ石. *加藤 将人, 乾 睦子, 道林 克禎

T1-P-13

フィリピン海四国海盆土佐メガマリオンにおける超苦鉄質岩の変質作用の進行. *大柳 良介, 小原 泰彦

T1-P-14 (エントリー)

マントル炭酸塩化反応を伴う地殻-マントル境界での交代変成作用：四国中央部三波川変成帯猿田川における例. *沖野 峻也 , 岡本 敦, マドスーダン サティッシュク マール

T1-P-15 (エントリー)

接触変成作用に伴う超苦鉄質岩類の熱変成反応と流体活動：赤石山地北部・三波川帯の例. *延原 香穂 , 森 宏, 築島 由理恵, 永治 方敬, 新屋 貴史, 早川 由帆, 山岡 健, 藤本 光一郎, 常盤 哲也

T1-P-16 (エントリー)

三波川変成帯の超苦鉄質岩体の分布と産状. *會田 幸樹 , ウォリス サイモン

T1-P-17 (エントリー)

大阪府岸和田地域・河合マイロナイトのラマン分光分析. *荒木 悠 , 下岡 和也, 壺井 基裕

T1-P-18 (エントリー)

天竜三波川帯泥質片岩の最高被熱温度と石墨化度の関係，そして石英・曹長石の微細構造発達過程. *原田 藍生 , 瀬瀬 佑衣, 道林 克禎

T1-P-19 (エントリー)

マリアナ海溝南部マリアナ前弧海嶺に産出する2種類の溶け残りかんらん岩の鉱物化学組成と結晶方位ファブリックの特徴.

*宮田 佳奈 , 上原 茂樹, 小原 泰彦, 道林 克禎

T1-P-20

有限変形のMohr-cyclideの構築—実用的な3次元有限変形解析に向けて—. *副島 祥吾 

T1-P-21

電子線後方散乱回折法（EBSD）で認識される柳井領家のザクロ石合体粒子の成長機構. *林 里沙, 池田 剛, 中村 佳博, 針金 由美子

T1-P-22

ベトナム北部Day Nui Con Voi変成岩体最東端部，ナムディン地域に産する変成岩の温度圧力進化とテクトニクスの意義.

*北野 一平, Bui Thi Sinh Vuong

T1-P-23

飛騨帯神岡地域の斑れい岩-閃緑岩質変成岩の地球化学的多様性：部分溶融モデルの検討. *水上 知行, 菅原 千織, 三上 航大, 秋澤 紀克, 田村 明弘, 森下 知晃

T1-P-24

関東山地・吉見丘陵に産する異なる変成履歴を示す変成岩類. *足立 達朗, 岩崎 一郎

T1-P-25

西彼杵変成岩類の変形史. *重野 未来, 森 康, 井上 和男

T1-P-26 (エントリー)

北海道むかわ町穂別福山地域に分布する神居古潭変成岩の岩石記載と温度圧力条件の推定. *皆川 泰輝, 北野 一平

T1-P-27

北海道神居古潭帯のひすい輝石-石英 変花崗質岩における，ひすい輝石と藍閃石の形成過程の予察. *植田 勇人, 中野 滋喜

T1-P-28 (エントリー)

変成温度解析と炭素量分析に基づく，接触変成作用に伴う泥質岩中炭質物の減少プロセスの検討：赤石山地北部・三波川帯の例. *中澤 明子 , 堀場 汐莉, 松林 直亮, 森 宏, 延原 香穂, 三村 耕一, 土肥 陽菜, 山岡 健, 常盤 哲也

T1-P-29

新潟県糸魚川市周辺における曹長岩のジルコンU-Pb年代とひすい輝石岩との成因関係. *西澤 ひなた, 岡田 花, 植田 勇人

T1-P-30

糸魚川市山之坊地域における角閃石岩類の起源とコスモクロア輝石との成因関係. *岡田 花, 西澤 ひなた, 植田 勇人

T1-P-31 (エントリー)

岩石中で著しく粗大化した単結晶の形成メカニズムとシミュレーション：高島マントルゼノリスを例に. *古川 旦 , 辻 森 樹

T1-P-32 (エントリー)

沈み込み帯ジオダイナミックモデリングの解像度検証：グリッドサイズと地質現象スケールの整合性. *志関 弘平 , 辻 森 樹

T3. 文化地質学

T3-P-1

紫外線発光する紅柱石含有御岩山変成流紋岩類と御岩山の文化地質学. *田切 美智雄, 鈴木 保光, 島崎 純生, 門馬 綱一, 柴田 翔平, 長谷川 健

T3-P-2

地中に埋没したテクノ化石に記録されている続成過程と周囲環境への影響：ポリ塩化ビニル製玩具を例に. *谷川 亘, 多田 井修, 山本 哲也, 野口 拓郎, 中島 亮太, 山口 飛鳥, 松崎 琢也

T3-P-3

アプリ「ポケット学芸員」を用いた龍河洞の新しい解説書. *公文 富士夫

T3-P-4

中四国-近畿の弥生時代の遺跡に分布する青色片岩製磨製石器（片刃石斧）の原産地推定：地質学的なアプローチ（経過報告）. *青矢 睦月, 中村 豊, 遠藤 俊祐, 端野 晋平, 山岡 邦章

T3-P-5

首都圏における北関東産凝灰岩石材の使用例. *高橋 直樹, 赤司 卓也

T3-P-6

山形県高島町の日向洞窟西地区の礫の岩石種. *大友 幸子, 鈴木 大輔

T8. 原子力と地質科学

T8-P-1

河川下刻による地形変化に関するデータ収集及び予察的な解析（統報）. *川村 淳, 西山 成哲, 賈 華, 石川 泰己, 小泉 由起子

T8-P-2

陸棚における1万-10万年オーダーでの地殻変動の傾向・量の確認方法：文献レビュー. *小松 哲也

T8-P-3

第四紀火山を対象とした地形解析による活動履歴推定手法の開発の試み. *西山 成哲, 加藤 由梨, 川村 淳, 梅田 浩司

T8-P-4

北海道幌延町に分布する新第三紀泥岩層における地震時の地下水圧変化から示唆される水みち構造. *宮川 和也, 大野 宏和, 石井 英一

T8-P-5

ユニバーサルステージの復刻：流体包有物配列面の方位測定による実用性の検証. *島田 耕史, 大江 隆, 竹下 徹

T10. テクトニクス

T10-P-1

関東山地西端部の四万十帯白亜紀付加体，「高登山層」の再検討. *山岡 健, 村上 大知, 青柳 朋希, 常盤 哲也, 森 宏, 志村 侑亮, 井上 梓, 浅原 良浩, 原 英俊, 鎌田 祥仁

T10-P-2 (エントリー)

足尾帯南西部に分布する白亜紀花崗岩類のジルコンU-Pb年代. *出口 琢磨 , 常盤 哲也, 森 宏

T10-P-3

U-Pb Zircon Geochronology of the Song Ba Basin: Implications for Magmatic and Tectonic Evolution of the Kon Tum Massif, Central Vietnam. DOAN Dinh Hung, *堤 之恭, PHAM Trung Hieu, 小松 俊文, NGUYEN Trung Minh, PHAM Minh,

※講演番号は，トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演，  ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

NGUYEN Thi Dung, AN Thi Thuy, NGUYEN Hoang

T10-P-4

2018年インドネシア中部スラウェシで発生したパル＝コロ断層地震の地震断層の変位分布とパル堆積盆の成因。*西川 治, パスピタリスカ

T10-P-5（エントリー）

太古代クラトン上に発生した2014年M5.5地震発生場の応力の空間分布：南アフリカ地下約3kmの掘削コアのカルサイト脈解析。*濱垣 貴也^{ECS}, 橋本 善孝, 細川 貴弘, 小笠原 宏, 藤田 蕉, 吉田 俊輔

T10-P-6

太平洋プレート海洋地殻の脱水フロントの地震学的な制約：火山フロントとの空間的一致。*宮崎 一希^{ECS}, 中島 淳一

T10-P-7（エントリー）

沖縄トラフ南部の海底地溝を繋ぐTransfer Zoneにおける変形様式の力学的な特徴。*山本 朱音^{ECS}, 大坪 誠, 三澤 文慶, 新井 隆太

T10-P-8（エントリー）

中央構造線沿いの安山岩の定置と熱的影響。*白井 大地, 中野 敬太, 濱田 洋平, 林 為人, 坂口 有人

T10-P-9

四国西部における中央構造線周辺のNNW-SSE方向の変形構造。*窪田 安打, 竹下 徹

T10-P-10

ボーリング調査及び断層露頭調査に基づく四国北西部の中央構造線の地質構造発達史。*宮脇 昌弘

T10-P-11

江若花崗岩江若岩体分布域における断層岩の化学組成及び集福寺断層の活動性評価。*千葉 響, 林 茉莉花

T10-P-12（エントリー）

新潟県中越鳥越断層における多重逆解法の適応。*菅 敦成, 小林 健太

T10-P-13（エントリー）

綿向山断層近傍の古琵琶湖層群を切る小断層群が示す第四紀のNW-SE圧縮応力。*豊留 一輝^{ECS}, 佐藤 活志

T10-P-14

斜め開き岩脈による駆動流体圧比の区間推定。*佐藤 活志

T10-P-15（エントリー）

造岩鉱物から成る固結粒状体の内部応力分布の可視化。*瀧本 秀男^{ECS}, 坂口 有人

T10-P-16

GIAモデリングによる最終間氷期の海水準変動と氷床量推定。

*奥野 淳一, 石輪 健樹, 入江 芳矢

T11. 都市地質学：自然と社会の融合領域^{ECS}

T11-P-1

一般市民の防災リテラシー向上に向けた地方公設試験研究機関の取り組み（その3）。*小田原 啓, 本多 亮, 安部 祐希, 石山 達也, 三宅 弘恵, 森川 信之, 松原 誠

T11-P-2（エントリー）

京都府京田辺市普賢寺川流域における降雨・水位応答の解析と防災評価に向けた3D可視化。*正田 陽宏, 横川 美和

T11-P-3

WebGLを用いた地下浅部3次元地質地盤モデル可視化ツール。

*野々垣 進, 藪田 桜子, 中澤 努

T11-P-4

八街市・富里市周辺に見られる地盤沈下の時空間変化。*荻津 達, 八武崎 寿史

T13. 地域地質・層序学：経過と集大成

T13-P-1

北西インド、インダス層群における古土壌の検討：アジア・インド衝突帯における古気候記録。吉田 孝紀, Kumar Subhadeep, 島田 誠明, *杉山 春来

T13-P-2

チベット高原南部タコーラ地域の中新統-更新統の堆積環境と古土壌が記録した古気候。島田 誠明, *葉田野 希, シルワル ビショウ, ギャワリ バブラム, 庄司 瑞輝, 吉田 孝紀

T13-P-3

タイ国中央部Phetchabun地域の三疊系石灰岩礫岩の堆積様式。*鎌田 祥仁, 丸山 直巳, 上野 勝美, CHAROENTITIRAT Thasinee, SARSDUD Apsorn

T13-P-4

ガーナ南西部Ashantiグリーンストーン帯南部におけるBirimian超層群の分布と岩相および堆積場の比較。*吉丸 慧^{ECS}, 清川 昌一, 伊藤 孝, Ibrahim Kwabina, Tetteh M. George, Nyame K. Frank

T13-P-5

南部北上帯南西部のベルム系砕屑岩から復元する後背地の変遷。*鈴木 敬介, 瀧川 浩気

T13-P-6（エントリー）

夜久野オフィオライト久米南岩体の全岩主要化学組成。*前 圭一郎, 能美 洋介, 土屋 裕太

T13-P-7

京都府北部舞鶴地域の舞鶴帯南帯市野瀬層群の再検討。*菅森 義見, 柳沢 真悠花

T13-P-8（エントリー）

熊本県泉町の下部石炭系柿迫層より大型化石群の発見。*関谷 優輝^{ECS}, 田中 源吾

T13-P-9

飛驒帯のジルコンU-Pb年代学：東アジア縁辺の大陸成長史。*山田 来樹, 長田 充弘, 沢田 輝, 仁木 創太, 小北 康弘, 大内 航, 青山 慎之介, 平田 岳史

T13-P-10

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県月出地域の例。*竹内 誠, 藪田 桜子, 李 琪, 浅原 良浩

T13-P-11（エントリー）

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県美杉地域南部における75 Ma苦鉄質岩～中間質岩類と花崗岩類の地質構造。*檜垣 悠斗, 竹内 誠, 李 琪, 浅原 良浩

T13-P-12（エントリー）

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県飯南地域の例。*李 琪, 竹内 誠, 浅原 良浩

T13-P-13

5万分の1地質図幅「川原河」に分布する四万十付加体の構造層序と構造発達史。*志村 侑亮

T13-P-14

北九州市門司区黒川地域、白亜系高津尾層（脇野亜層群）から見出された石灰岩礫の岩相と地質学的意義。*星木 勇作, 星木 美恵

T13-P-15（エントリー）

兵庫県東部に分布する下部白亜系大山下層の堆積環境と凝灰岩の研究。*辻 光彦^{ECS}, 澤田 順弘, 田中 公教, 実吉 玄貴

T13-P-16（エントリー）

牟婁層群・熊野層群の層序に基づく「サラシ首層」の成因と層序学的帰属の検討。*川並 仁美, 藤野 滋弘, 原田 駿介

T13-P-17

鹿児島県種子島中部に分布する熊毛層群の赤色泥岩及びゲーサイトコンクリーションから産出した放散虫化石と地質年代。

*菊川 照英^{ECS}, 古川 登, 相田 吉昭

T13-P-18

房総半島、5万分の1大多喜地域における前弧海盆堆積物の分布と層序。*宇都宮 正志, 小松原 琢, 中嶋 輝允, 徳橋 秀一

T13-P-19（エントリー）

アバタイト微量元素組成を用いた南東北に分布する中新世－第四紀の凝灰岩と海洋コアに挟在する凝灰岩との対比の試み。

*富樫 琴美, 高嶋 礼詩, 折橋 裕二, 浅原 良浩, 永橋 こう輝, 北見 匠, 黒柳 あずみ

T13-P-20（エントリー）

下北半島北東部に露出する中新統・蒲野沢層からの熊野カルデラ由来のテフラの発見。*辻本 大暉, 高嶋 礼詩, 星 博幸, 新正 裕尚, 黒柳 あずみ

T13-P-21（エントリー）

栃木県茂木地域における前期中新世珪質火山岩類の地質学・

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

岩石学的特徴. *小坂 日奈子^{ECS}, 細井 淳

T13-P-22

京都府舞鶴市 冠島(若狭湾)の中新統火山岩の年代と岩相. *辻野 匠

T13-P-23 (エントリー)

鳥取県中新統多里層の微化石と古環境. *中井 建琉, 入月 俊明, 辻本 彰, 林 広樹, 田中 裕一郎, 瀬戸 浩二

T13-P-24 (エントリー)

岡山県新見市哲西町における中新統備北層群の地質と微化石. *河田 圭太, 入月 俊明, 林 広樹, 辻本 彰, 田中 裕一郎

T13-P-25 (エントリー)

鳥根県松江市鹿島町の手結のスランブ褶曲とその形成過程. *堀田 大翔, 酒井 哲弥

T13-P-26 (エントリー)

松江市玉湯町の川合層砂岩に見られる不整合境界の特徴と堆積構造,およびそれらから推定される古環境. *上岡 竜貴, 酒井 哲弥

T13-P-27 (エントリー)

鳥根県大田市五十猛町周辺に分布する中新統川合・久利層砂岩の特徴の多様性. *日比野 翔吾, 酒井 哲弥

T13-P-28 (エントリー)

北部フォッサマグナ地域新第三系砂岩における供給源の検討. *橋本 周汰, 植田 勇人, 吉田 孝紀

T13-P-29 (エントリー)

鳥根県松江市東部, 和久羅山西方における構造地質学的研究. *泉 憲志郎, 向吉 秀樹

T13-P-30

兵庫県姫路市白浜町付近の上部第四系. *毛利 元紀

T13-P-31

岡山平野の沖積層下に伏在する地下更新統層序の予察的検討. *納谷 友規, 田辺 晋, 水野 清秀, 本郷 美佐緒, 小網 晴男, 鈴木 茂之

T13-P-32

20万分の1日本シームレス地質図 V2新ビューアの試験公開. *西岡 芳晴

G. ジェネラルサブセッション地球化学・応用地質

G-P-13

2025年4月に発生した長野県北部の被害地震と「揺れやすさマップ」の効用. *津金 達郎, 信州大学 震動調査グループ

G-P-14

原石山における定量的な材料評価の試み. *大河内 誠, 横田 崇之

G-P-15

白亜紀のハプト藻バイオマーカー・アルケノンC40:2Et: そのcis異性体の温度依存性と古環境学的意義. *長谷川 卓, 高橋

月香

G-P-16

地質・物理探査の若手技術者育成（基礎講座を通じて）. *山口 悠哉, 鎌田 弘己

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, ^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

T4. 岩石・鉱物の変形と反応

T4-P-1

蛇紋岩化反応に着目した九州の天然水素ポテンシャル評価：長崎・大分・熊本における露頭調査と初期分析 ***宍田 哲大**, 山田 泰広, 石須 慶一, 伊藤 茜

T4-P-2 (エントリー)

水の吸着能力が制御する地すべり土の摩擦挙動. ***大森 涼生** **ECS**, 高橋 美紀, 星住 英夫, 宮川 歩夢, 大熊 茂雄, 上原 真一

T4-P-3 (エントリー)

深部プレート境界岩の変形機構とレオロジー. ***山崎 悠翔** **ECS**, 氏家 恒太郎, イヨ トーマス

T4-P-4

地殻－マントル境界に発達した含水延性剪断帯における物質移動. ***夏目 樹**, 道林 克禎, 岡本 敦

T4-P-5

オマーンオフィオライト下部地殻－上部マントルの蛇紋石の局所酸素同位体分析. ***吉田 一貴** **ECS**, Scicchitano Maria Rosa, 岡本 敦

T4-P-6 (エントリー)

沈み込みプレート境界における歪速度と剪断応力の推定：石英の変形機構とレオロジー特性からの知見. ***駒木野 照太** **ECS**, 氏家 恒太郎, イヨ トーマス, 重松 紀生

T4-P-7 (エントリー)

緑泥石-アクチノ閃石片岩におけるアクチノ閃石の粒径に依存した変形機構の遷移. ***窪田 虎太郎**, 平内 健一, イヨ トーマス

T4-P-8 (エントリー)

地殻規模剪断帯の構造的特徴とテクトニクス —インド・ガダグ＝マンディヤ剪断帯を例として—. ***浦川 真登** **ECS**, スリハリ ラクシュマナン, 中村 佳博

T4-P-9 (エントリー)

北海道日高変成帯ウエンザルカンラン複合岩体における斜長石レルゾライトのマイロナイト化作用の再検討. ***井上 創** **ECS**, 道林 克禎

T4-P-10 (エントリー)

注水による有効法線応力変化が摩擦挙動に与える影響. ***岩田 琉空**, 北村 真奈美, 澤井 みち代, 上原 真一

T4-P-11

1995年兵庫県南部地震で活動した灘川断層（副次断層）の微細構造解析. ***相山 光太郎**, 末廣 匡基, 木村 一成

T4-P-12

熊本地震破壊端部の岩石摩擦特性と断層破壊停止メカニズムの実験的検証. 溝口 一生, ***飯田 高弘**, 谷口 友規, 飯塚 幸子

T4-P-13 (エントリー)

南部琉球弧および沖縄トラフに産する苦鉄質および珪長質火山

岩の岩石学. ***鶴澤 直己** **ECS**, 市山 祐司, 三澤 文慶, 石塚 治

T4-P-14

変質岩脈中に密に発達する小断層から推定される地殻浅部の応力状態. ***安邊 啓明** **ECS**, 中嶋 徹, 西山 成哲, 箱岩 寛晶, 石原 隆仙, 木田 福香, 小北 康弘, 丹羽 正和

T4-P-15

風化作用で等体積変化している安山岩での元素移動. ***中田 英二**

T4-P-16

上総層群泥岩の破壊基準とせん断帯の透水性の関係. ***松原 美友**, 上原 真一

T4-P-17

摩擦溶融を伴って繰り返す斑レイ岩質断層の地震性すべりに関する力学・エネルギー・微細構造の進化. ***サルカール デュティ ブラカシュ** **ECS**, 廣瀬 丈洋, 谷川 亘, 濱田 洋平, 奥田 花也

T4-P-18 (エントリー)

広範なすべり速度域での石英を含む岩石の すべり挙動に及ぼす湿度の影響. ***畑中 衛**, 堤 昭人

T5. 沈み込み帯・陸上付加体

T5-P-1

日本海溝プレート境界域の強度変化：掘削情報からのアプローチ. ***濱田 洋平**, Conin Marianne, 氏家 恒太郎, Kirkpatrick Jamie, 小平 秀一, Regalla Christine, Fulton Patrick, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, IODP Exp. 405 Scientist

T5-P-2

日本海溝に沈み込む太平洋プレートにおける粘土層の厚さ－JTRACK Site C0026におけるCore-Log-Seismic integrationから－. ***中村 恭之**, Ford Jonathan, Nicholson Uisdean, 宮川 歩夢, 濱田 洋平, Conin Marianne, Fulton Patrick, Kirkpatrick Jamie, Regalla Christine, 小平 秀一, 氏家 恒太郎, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, Toczko Sean, 国際深海科学掘削計画第405次航海乗船研究者

T5-P-3

IODP第405次航海（JTRACK）にて得られた日本海溝の物性測定結果. ***神谷 奈々**, Tamara N. Jeppson, Matt Ikari, Mai-Linh Doan, Jonathan Ford, Huiyun Guo, Ron Hackney, Maria Jose Jurado, 宮川 歩夢, Pei Pei, Srisharan Shreedharan, 小平 秀一, Marianne Conin, Patrick Fulton, Jamie Kirkpatrick, Christine Regalla, 氏家 恒太郎, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, IODP第405次航海 研究乗船者

T5-P-4 (エントリー)

走査型 SQUID 顕微鏡を用いた陸上付加体中の断層岩の岩石磁気特性解析と変形組織との比較. ***内田 泰蔵** **ECS**, 小田 啓邦, 川畑 博, 福興 直人, 橋本 善孝

T5-P-5

宮崎県延岡市北方地域における掘削・地表調査, 岩相解析速報. ***矢部 優**, 木口 努, 大坪 誠

T5-P-6 (エントリー)

碎屑性ジルコン複合化学分析に基づく根田茂帯綱取ユニット形成史と前期古生代テクトニクスの解明. ***中野 竜**, 青木 翔吾, 内野 隆之, 福山 繭子, 昆 慶明, 板野 敬太, 飯塚 毅

T5-P-7 (エントリー)

九州北部の秋吉帯の境界断層の地質構造とテクトニックセッティング. ***市澤 佑太** **ECS**, 下松 匠, 浜橋 真理, 坂口 有人

T5-P-8 (エントリー)

プレート沈み込み帯における鉱物脈の分布密度と測定方法. ***貞松 夏実**, 坂口 有人

T5-P-9 (エントリー)

黒瀬川帯における三滝花崗岩と三滝山周辺に産する礫岩との関係性. ***中村 領** **ECS**, 辻 智大

T5-P-10

北海道日高帯広尾町周辺における古第三紀付加体（中の川層群）の海洋プレート層序の復元. ***幡山 怜皇**, 岩井 大輝, 植田 勇人

T7. 堆積地質学の最新研究

T7-P-1

諏訪湖湖底遺跡の堆積物コアに基づく後期完新世の湖水位変動の復元. ***葉田野 希**, 公文 富士夫, 谷川 亘, 長谷川 直子, 三上 岳彦

T7-P-2 (エントリー)

沖縄県国頭郡に分布する名護層千枚岩の風化過程と赤色土壌への変遷：侵食と堆積およびREE挙動の検討. ***山口 季彩**, 歳島 聖二, 吉田 孝紀

T7-P-3

亜熱帯地域における岩石風化課程－上部白亜系名護層砂岩における希土類元素の挙動. ***歳島 聖二**, 吉田 孝紀, 山口 季彩

T7-P-4

北西太平洋の深海底に堆積する赤色粘土の元素分布とその特性. ***村山 雅史**, 波多野 泰成, 原田 尚美, 佐川 拓也, 堀川 恵司, 南 秀樹, 小畑 元

T7-P-5 (エントリー)

熊本県人吉盆地における人吉層化石林の発達史：土壌構造からの考察. ***杉山 春来** **ECS**, 吉田 孝紀

T7-P-6

高解像度デジタル露頭モデルを用いた不連続構造の自動抽出法の開発と三浦層群三崎層を対象とした三次元地質構造調査への適用. ***大川 真弘**, 大澤 幸太, 沖野 遼, Bui-Khuong Duy, Dinhkhac Dzung, 松尾 重明

T7-P-7 (エントリー)

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, **ECS**ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

Unreal Engine 5による3D露頭モデルを用いたVR地層観察システムの開発. *杉本 健人^{ECS}, 成瀬 元, 横川 美和
T7-P-8（エントリー）

多峰性を示す粒度分布のEMアルゴリズムを用いた分離と関数データ解析の応用. *吉田 雄博^{ECS}, 横川 美和

T7-P-9

不整合による侵食量の側方変化：富山県中部中新統八尾層群および砺波層群の例. *中山 雄介, 北沢 俊幸

T7-P-10（エントリー）

3次元量み込みニューラルネットワークを用いたCTスキャン画像からの岩相判別モデル. *菊池 凌太^{ECS}, 成瀬 元

T7-P-11

2011年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した混濁流の成因は何か：数値実験による検討. *成瀬 元, 中西 諒

T7-P-12

浅海域における津波による海底侵食量の検討 *横山 由香, 松中 哲也, 落合 伸也, 坂本 泉

T7-P-13

和歌山県那智勝浦町におけるイベント堆積物の堆積学的特徴.

*松本 弾, 澤井 祐紀, 行谷 佑一, 谷川 晃一朗, 嶋田 侑真

T7-P-14

2024年スペイン洪水に伴うクレパスプレー堆積物の現地調査. *山田 昌樹, 笹本 弦, DRAEGER Amy, KASSEM Hachem, VILLAFANE Patricio, DELLA VEDOVA Micaela, GARNIER Roland, 渡部 真史

T7-P-15（エントリー）

福島県中央部、磐梯火山南西麓に分布する岩層なだれ堆積物の特徴. *古庄 航輝, 小荒井 衛

T7-P-16（エントリー）

下原洞穴遺跡における堆積物の微細形態と堆積相. *大部 悦子^{ECS}, 具志堅 亮, 石原 与四郎

T7-P-17

インドネシア・Topogaro（トボガロ）洞窟遺跡における堆積物の特徴. *佐藤 碧海^{ECS}, 石原 与四郎, 藤田 祐樹, 小野 林太郎

T7-P-18

Unlocking Climate Signals in Japanese Deep-Sea Coral (*Corallium japonicum*) Using Non-Parametric Rhythmicity Analysis. *Ma, Marivic Capitle Pepino^{ECS}, Tomoyo Okumura

T7-P-19

シリカ温泉堆積物の縞状組織を構成する白色層と有色層の微細構造. *高島 千鶴, 渡部 日陽, 高橋 和敏, 出田 光太郎

T7-P-20

北中国山東省に分布するフロンギアン統微生物岩が示す生物多様性と海洋環境の変化. *足立 奈津子, 江崎 洋一, 前田 宗孝, 鳥谷 美来, Jianbo LIU, Yan Zhen

T7-P-21（エントリー）

インド古原生界Jhamarkotra層に見られるリン酸塩ストロマトライトの形成過程. *佐藤 久遠^{ECS}, バンディ アビシエク, チャクラボルティ パルタ, 狩野 彰宏, 白石 史人

T14. 九州の火山テクトニクス^{ECS}

T14-P-1

長崎市横尾から時津町南西部にかけての火山地質及び流れ山地形について. *西川 正

T14-P-2

阿蘇火山中央火口丘群西部に位置する烏帽子岳山体の構造.

*松藤 彬成, 宮緣 育夫, 星住 英夫

T14-P-3（エントリー）

多角的視点による玉来川溶岩の分類の再検討. *武富 真由^{ECS}, 辻 智大, 山本 裕二

T14-P-4（エントリー）

九州における西南日本弧と琉球弧のマグマ発生機構. *山中 壮馬^{ECS}, 柴田 知之

T14-P-5（エントリー）

获岳の火山岩と先阿蘇火山岩類の岩石学的特徴の比較. *福田 颯亮, 辻 智大

T14-P-6

九州中部金峰火山に分布する火山岩の全岩化学組成とSr同位体比. *新村 太郎, 山村 文太, 壺井 基裕, 下岡 和也, 荒川 洋二

T14-P-7

中期更新世, 九州の火山テクトニクスの転換期. *辻 智大

T14-P-8

トカラ列島悪石島～宝島にかけての2025年6月21日からの地震活動について. *川辺 孝幸

T15. 海域火山と漂流軽石

T15-P-1

静岡県中・西部沿岸で見られる暗褐色漂着軽石の特徴とその起源. 藤島 智希, 桶川 暁太郎, 竹内 凌真, 飯田 陸斗, 榛村 笑凜, 樽松 宏征, *青島 晃

T15-P-2

駿河湾伊豆西側斜面の地質岩石学的特徴. *長瀧 桃花, 坂本 泉, 古橋 皇, 柴尾 創士, 横山 由香, 森 光貴, 佐藤 悠介, 棚橋 道郎

T15-P-3

福岡県ノ場2021年噴火に伴う軽石ラフトの定量的評価の試み. *石毛 康介, 竹内 晋吾, 上澤 真平, 土志田 潔, 諏訪 由起子

G. ジェネラルサブセッション

海洋地質・地域地質・層序・堆積地質

G-P-17

沖縄トラフ南部に発達する魚釣長谷の地形学及び地質学的特徴. *三澤 文慶, 高下 裕章, 新井 隆太, Nishimoto Michelle, 山本 朱音, 桑野 太輔, 尾内 千花, 池原 実, 大坪 誠

G-P-18

「しんかい6500」に構築した音響探査システムと観察・サンプリングを組み合わせたハイブリッド潜航調査. *飯島 耕一, 金子 純二

G-P-19（エントリー）

山口県下関市吉母港の脇野垂層群におけるデュープレックス構造とその意義. *川口 昂大, 川村 喜一郎

G-P-20

中央北西太平洋ODPサイト1208堆積物に基づく放散虫生層序の構築と気候駆動型動物相転換. *松崎 賢史, 上栗 伸一

G-P-21

琉球弧北部から採取した鮮新世－前期更新世の堆積岩および珪質微化石群集. *石野 沙季^{ECS}, 板木 拓也, 有元 純, 石塚 治, 針金 由美子, 田中 裕一郎

G-P-22

田辺湾における現生底生有孔虫群集の分布と海洋環境との関係. *辻本 彰, 小林 哉太, 入月 俊明

G-P-23（エントリー）

東シナ海における現生貝形虫相の空間分布. *中藤 草汰^{ECS}, 岩谷 北斗, 齋藤 京太, 田寺 優香, 板木 拓也

G-P-24

九州北西方海域における表層堆積物中の5mm以上のプラスチック分布. *飯塚 睦, 天野 敦子, 板木 拓也, 鈴木 克明, 清家 弘治

G-P-25

沖ノ島島周辺海域における海底地形既存データの統合とその特徴. *古山 精史朗, 木川 栄一, 高月 直樹, 中東 和夫

G-P-26

房総半島九十九里浜におけるガス湧出スポットの形状変化. *吉田 剛, 風岡 修

G-P-27

中部中新－下部鮮新統アイダホ層群の浮遊性珪藻化石の重要性. *林 辰弥, 齋藤 めぐみ, 羽田 裕貴, KREBS William

G-P-28（エントリー）

南部沖縄トラフ中軸部における深海生底生有孔虫の分布と規制要因の検討. *尾内 千花^{ECS}, 亀尾 浩司, 桑野 太輔, 大坪 誠, 木下 正高, KH- 乗船研究者一同

G-P-29（エントリー）

紀伊半島沖に分布する後期新生代の浮遊性有孔虫生層序の有効性の評価. *高山 佳奈子, 林 広樹

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, ^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

G-P-30

小松島市営グラウンド遺跡の海成層から産出した貝類－その古環境とAMS 14C年代. *中尾 賢一, 西山 賢一

G-P-31

最終間氷期の海成段丘堆積物における光ルミネッセンス年代測定法の適用性検討-北海道根室市ヒキウス露頭での測定事例. *林崎 涼, 相山 光太郎, 中田 英二

G-P-32

琵琶湖湖底段丘の深度. *里口 保文

G-P-33

神奈川県中央部, 鮮新-更新統中津層群神沢層の砂岩礫のモード組成. *河尻 清和

G-P-34

山岳トンネル工事における岩相・変質区分マッピング: 熱水変質帯を対象として. *金澤 安蓮, 吉河 秀郎, 長谷 陵平, 浅海 綾一, 安達 健一

G-P-35

阿蘇2/1溶岩から得た古地磁気方位・古地磁気強度: 層序関係と年代スケール制約への活用. *望月 伸竜, 外間 美羽, 大西 優輝, 石丸 聡子

G-P-36 (エントリー)

茨城県ひたちなか市に分布する上部白亜系那珂湊層群平磯層の磁気層序. *佐藤 碧人, 岡田 誠

G-P-37

和歌山県白浜町に分布する塔島礫岩層の堆積相と碎屑性ジルコンU-Pb年代. *別所 孝範, 山本 俊哉, 小倉 徹也, 後 誠介

G-P-38

10万分の1 徳島県及び周辺地域の地質図. *村田 明広

G-P-39

秋田県矢島地域の中新統女川層のジルコンU-Pb年代による年代層序の高精度化とその日本海古海洋環境変遷史における意義. *中嶋 健, 岩野 英樹, 檀原 徹, 平田 岳史, 朝比奈 健太

G-P-40

石川県珠洲市の法住寺層から得られた石灰質微化石と中期中新世温暖期の古海洋環境. *飯島 賢士, 林 広樹, 関 有沙, 吉岡 純平, 山田 桂

G-P-41 (エントリー)

鳥根県東部中新統古浦層・成相寺層に見られる黒色泥からなるインジェクタイトの特徴と成因. *波多野 瑞姫, 酒井 哲弥, 三瓶 良和

G-P-42

山陰東部, 浜坂地域の鮮新統層序の改訂. *羽地 俊樹, 工藤 崇

G-P-43

山陰東部, 浜坂地域の古第三系火成岩の地質と年代. *佐藤 大介, 羽地 俊樹, 仁木 創太, 平田 岳史

G-P-44

飛騨外縁帯早稲谷地域（福井県大野市東部）におけるベルム系小椋谷層の岩相層序と碎屑性ジルコンU-Pb年代. 多田 陸, 鈴

木 敬介, *栗原 敏之

G-P-45

陸中大原地域東部における前期白亜紀貫入岩類のジルコンU-Pb年代. *鈴木 敬介

G-P-46

北海道士別市温根別に分布する蝦夷層群温根別層の地質調査結果（速報）. *久保見 幸, 成田 敦史, 圓谷 昂史, 本部 哲矢, 水田 一彦

G-P-47 (エントリー)

東南極リュツォ・ホルム湾における貝形虫群集の経時変化. *中里 政貴, 岩谷 北斗, 床平 晃一, 松井 浩紀, 徳田 悠希, 自見 直人, 佐々木 聡史, 石輪 健樹, 藤井 昌和, 鈴木 克明, 板木 拓也, 菅沼 悠介

G-P-48

東シナ海奄美大島付近の黒潮流域における有孔虫を用いた堆積作用の検討. *山崎 誠, 藤澤 優月, 青木 翔吾, 長谷川 四郎, 天野 敦子

G-P-49

東シナ海北部における表層堆積物粒度分布の統計学的な解析に基づく空間変動とその意義. *齋藤 京太

G-P-50

紀伊水道における粒度, 元素による完新世の時空間的な堆積環境の変化. *天野 敦子, 清家 弘治

G-P-51 (エントリー)

Sedimentological and geochemical characteristics of seismogenic event deposits in the outer rise of the Japan Trench. *Yang ZHAO , Rina FUKUCHI, Asuka YAMAGUCHI

※講演番号は, トピックセッション (T), ジェネラルセッション (G) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※ * 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演,  ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

地質情報展 2025 くまもと

火の国・水の国！ 大地のカルデラ

2025
9/13～15 祝

楽しく地球を学べる3日間！

時間

13日 13:00～17:00
14日 9:30～17:00
15日 9:30～16:00
※最終入場は終了時刻の30分前

入場無料

Webをチェック→



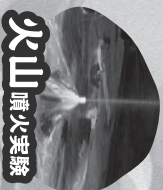
会場

熊本城ホール(1階 展示ホールA)
市電：幸島町 電停より徒歩2分 近隣に駐車場(有料)あり

展示

熊本の地質や地下水・資源、
地震・活断層・火山・斜面災害などのパネルと解説

実験・
体験



化石のカルデア

石割り体験

火山噴火実験ほか



9/13・14

研究者による
熊本城、火山、活断層、地下水のお話
① 1階 展示ホールA 14:00～16:00 事前申込不要

日本地質学会
市民講演会

9/15

九州の恐竜のお話
② 3階 大会議室A1 14:00～16:00 事前申込不要

国立研究開発法人産業技術総合研究所

主催：地質調査総合センター・九州センター、
一般社団法人

日本地質学会

共催：阿蘇ジオパーク推進協議会

後援：熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、
特定非営利活動法人

九州地質調査業協会、日本応用地質学会九州支部、熊本日日新聞社

お問い合わせ
事務局

TEL：029-861-3540(平日昼のみ)
Email：M-johoten2025-m@aist.go.jp
URL：https://www.gsj.jp/event/johoten/

「地質情報展2025くまもと」は、JSPS科研費(課題番号25H0007)及びユコム科学技術振興財団(助成番号：R061215)の助成を受けたものです。

写真：阿蘇市

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟 1-2階）

T1. 変成岩とテクトニクス

T1-P-1

九州中部肥後変成帯に産する高度変成岩のシェードセクション解析による変成温度圧力見積もり。***小林 記之**

T1-P-2

Structural evolution of the Instekleppane, Lutzow-Holm Complex: Deformation patterns in high-grade zones of east Antarctica. ***Sreehari Lakshmanan**, Tatsuro Adachi, Yuki Mori, Tomokazu Hokada

T1-P-3

東南極・リュツォ-ホルム岩体西部に分布する太古代末期TTG地塊の分布とテクトニクス。***中野 伸彦**, 馬場 壮太郎, 加々島 慎一, Wahyuandari Fransiska A.C.

T1-P-4

関東山地, 金峰山花崗岩の周囲に発達する接触変成帯の熱構造。***山岡 健**, 村上 大知, 中澤 明子, 延原 香穂, 森 宏

T1-P-5

東南極リュツォ・ホルム岩体, 西オングル島のミグマタイトの年代論。***加々島 慎一**, 馬場 壮太郎, 中野 伸彦, 谷 健一郎

T1-P-6 (エントリー)

下部地殻変形における地震サイクルと溶質移動の役割: 東南極, ナビア岩体での観察から。***村山 燎**, スリハリ ラクシュマナン

T1-P-7 (エントリー)

山口県柳井地域領家変成帯の石灰岩に伴う反応帯の交代反応。***長岡 魁人**, 池田 剛

T1-P-8

北海道えりも町の日高変成帯上部層における変成作用と碎屑性ジルコンU-Pb年代。***高見 柊二**, 植田 勇人, 豊島 剛志, 高橋 千絢

T1-P-9

東南極リュツォ・ホルム岩体スカレンのざくろ石片麻岩中のナノ花崗岩包有物。***松本 祐門**, 池田 剛

T1-P-10

愛媛県高縄半島, 領家変成岩類中に産するスピネル-コランダム片岩。***椿 陽仁**, 澁谷 奨

T2. マグマソース・マグマ供給系から 火山体形成・熱水変質まで

T2-P-1 (エントリー)

屋久島花崗岩に含まれる正長石巨晶の成長過程。***垣内 拓馬**, 下司 信夫, 寅丸 敦志

T2-P-2

九州中部の白石野花崗閃緑岩体の石英のカソードルミネッセ

ンスパターンとTi濃度: マグマ溜り内での石英の結晶化プロセスの解明。***小北 康弘**, 城崎 陽太, 加藤 文典, 湯口 貴史

T2-P-3 (エントリー)

九州中部の白石野花崗閃緑岩のジルコンU-Pb年代, Ti濃度およびTh/Uの同時定量分析: 花崗岩質マグマの冷却プロセスの解明。***坂元 翔**, 小北 康弘, 坂田 周平, 井村 匠, 横山 立憲, 大野 剛, 湯口 貴史

T2-P-4

マグマ溜り内でのジルコン成長: 内部構造とU-Pb年代, チタン濃度, Th/Uの関係。***湯口 貴史**, 遠藤 京香, 鈴木 哲士, 小北 康弘, 坂田 周平, 横山 立憲, 井村 匠, 大野 剛, 笹尾 英嗣

T2-P-5 (エントリー)

第四紀黒部川花崗岩のジルコン中メルト包有物記載。***田口 湧一**, 齊藤 哲

T2-P-6 (エントリー)

ジルコン中メルト包有物を用いた山陽帯土生花崗岩質岩体のマグマ固結深度見積もり。***熊谷 汐莉**, 齊藤 哲

T2-P-7

熊野灘で観測された局所海底圧変動の力学モデルの考察。***有吉 慶介**, 永野 憲, 長谷川 拓也, 中野 優, 松本 浩幸, 高橋 成実, 堀 高峰

T2-P-8

放射状岩脈の中心近傍の低い流体圧比: 天草下島, 富岡半島の例。***牛丸 健太郎**

T2-P-9 (エントリー)

東北日本, 秋田駒ヶ岳火山の山体発達史。***田次 将太**, 中川 光弘, 和知 剛, 松本 亜希子, 栗谷 豪

T2-P-10

兵庫県姫路市南東部に分布する白亜紀火山岩類の岩相と層序。***毛利 元紀**, 原田 正信

T2-P-11

秋田県八峰町, 泊海岸の上部中新統~鮮新統「素波里安山岩」にみられる枕状溶岩と偽枕状溶岩の岩石記載と粘性。***相澤 正隆**, 安井 光大, 井村 匠, 星出 隆志, 橋本 純, 澤藤 凌太, 今井 遼, 畠山 富昌, 児玉 重樹, 浅川 敬公, 伴 雅雄, 林 信太郎

T2-P-12 (エントリー)

番川かんらん岩捕獲岩の構造岩石学的研究。***平田 悠馬**, 道林 克禎, 田村 明宏, 森下 知見, 荒井 章司

T2-P-13 (エントリー)

オマーン・オフィオライト南部, 新期拡大セグメント地殻セクションの地球化学的特徴とその意義。***荒岡 柊二郎**, 錦蛇 真理

T2-P-14 (エントリー)

カメルーン中央西部, マヌーン湖マール噴出物に捕獲されたパンアフリカン花崗岩片のジルコンU-Pb年代。***中屋敷 実春**, 長谷川 健, 伊藤 久敏, AKA Festus

T2-P-15

西南日本内帯中国・四国地域に分布する深成岩類の定置圧力解析 ~角閃石の高温高压実験データの多変量解析に基づく地質

温度圧力計を用いて~。***中橋 甲斐**, 齊藤 哲

T2-P-16

愛媛県芸予諸島大島に分布する白亜紀花崗岩類の酸化還元状態の推定。***下岡 和也**, 齊藤 哲, 壺井 基裕

T2-P-17

山口県萩市須佐地域に産する高山斑れい岩体の形成過程。***嶋田 翔**, 江島 圭祐

T2-P-18

隠岐島前の大山石英閃長岩の岩相区分: 多世代マグマ活動の示唆。***中山 瀬那**, 遠藤 俊祐

T2-P-19 (エントリー)

中国山地東部沖ノ山・波賀累帯深成岩体の地球化学研究。***木内 翔太**, 下岡 和也, 壺井 基裕

T2-P-20 (エントリー)

鳥取県溝口地域の花崗岩類の岩相区分と対比。***磯山 未遊**, 遠藤 俊祐

T2-P-21 (エントリー)

琵琶湖南部に分布する後期白亜紀野洲花崗岩体の地球化学的研究。***中村 一喜**, 下岡 和也, 壺井 基裕

T2-P-22

九州中央山地に産する市房山花崗閃緑岩体の岩石学的特徴。***坂元 伸晟**, 江島 圭祐

T2-P-23 (エントリー)

北部九州, 朝倉花崗閃緑岩の南北縦断組成変化と岩体成長過程。***濱野 裕大**, 江島 圭祐, 山田 来樹, 横山 立憲, 小北 康弘

T2-P-24

溶岩組成の多変量統計解析に基づく箱根火山のマグマ多様性。***廖 鑫**, 岩森 光, 坂田 周平, 高橋 正樹, 長井 雅史

T2-P-25

FAIR原則に準ずる地球化学データの統合基盤構築およびデータ駆動型解析への展開。***山口 純平**, 江島 圭祐

T9. 大地と人間活動を楽しみながら学ぶジオパーク

T9-P-1

阿蘇火砕流だけじゃない! - おおいた豊後大野ジオパークの地質の多様性。***吉岡 敏和**

T9-P-2

考古資料館の展示で表現する火山と人と自然の共生 | 桜島・錦江湾ジオパークの取り組み。***吉瀬 毅**

T9-P-3

GEO PARK magazineにおける地球科学的情報の効果や意義の検討。***山崎 由貴子**, 古澤 加奈, 本田 泰平, 長谷川 唯

※講演番号は、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※* 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演, ECS ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

T12. 地球史

T12-P-1

南極沿岸域堆積物コア試料のCT画像の特性と古環境学的意義。*石輪 健樹, 菅沼 悠介, 梶田 展人, 柴田 大輔, 香月 興太, 川又 基人, 池原 実

T12-P-2

銚子地域に分布する犬吠層群の酸素同位体層序に基づく北西太平洋海域の下部－中部更新統年代モデル。*桑野 太輔 , 小杉 裕樹, 原井 優里, 羽田 裕貴, 久保田 好美, Saeidi Ortakand Mahsa, 亀尾 浩司, 岡田 誠

T12-P-3

日本海沿岸地域の鮮新統－更新統に産する浮遊性有孔虫化石 Globoconella inflata 系列種の形態的特徴。*山崎 誠, 高尾 健汰, 松井 浩紀, 西川 治, 鹿納 晴尚, 長谷川 四郎

T12-P-4

房総半島南端における浮遊性有孔虫化石群集に基づく鮮新-更新世寒冷化イベント時の古環境復元。*山本 秀忠, 林 広樹, 岡田 誠, 長谷川 大輔

T12-P-5

鮮新世末の北大西洋亜極域における気候変化と海洋循環。*林 辰弥, 桑原 義博, 大野 正夫

T12-P-6 (エントリー)

カゲロウ幼虫化石から検出された有機物とその意義。*板倉 義空, 田中 源吾, 菊地 理佳

T12-P-7 (エントリー)

日本海堆積物コアのバイオマーカー分析による後期中新世の高解像度海洋環境変動の復元。*星 恒太郎 , 沢田 健, 関 有沙, 多田 隆治

T12-P-8

日本海堆積物コアの中新世テフラの対比：古海洋環境の三次元的復元を目指して。*関 有沙, 長橋 良隆, 入野 智久, 多田 隆治, 松崎 賢史, 吉岡 純平

T12-P-9 (エントリー)

インドメガラヤ州 Um Sohryngkew 川セクションにおける K/Pg 境界近傍の古環境復元。*俵 直弥 , PHUKAN Sarat, BORGOHAIN Dipima, 狩野 彰宏

T12-P-10 (エントリー)

モンゴル国ゴビ砂漠に分布する脊椎動物化石産出層の堆積年代制約に向けた土壌性炭酸塩岩の U-Pb 直接年代測定。*藤井 雄大 , 竹谷 勇人, 青木 一勝, 千葉 謙太郎, Khishigjav TSOGTBAATAR, Buuvei MAINBAYAR, Batsaikhan BUYANTEGSH, 実吉 玄貴

T12-P-11 (エントリー)

豊浦層群西中山層からの豊富な MISS の発見と、新たな研究可能性について。*河端 康佑, 齊藤 諒介

T12-P-12

ネバダ州北東部に分布する下部三畳系ディンウッドデー層から

産出したコノドント化石とアンモノイド化石。*前川 匠, ジェンクス ジェームス, 重田 康成

T12-P-13 (エントリー)

宮城県北部に分布する下部－中部三畳系稲井層群の岩相層序と生痕化石相。*遠藤 悠一 , 重田 康成

G. ジェネラルサブセッション 古生物・地学教育・岩石鉱物・火山・第四紀

G-P-1

飛騨帯宇奈月地域に産するインド石-十字石含有複變成ホルンフェルスのジルコン年代学及び地球化学。*竹原 真美, 堀江 憲路, 廣井 美邦, 足立 達郎, 外田 智千

G-P-2 (エントリー)

黒瀬川帯蛇紋岩メランジュ中に産出する輝岩の岩石学的記載と形成過程の考察：高知県中央部を例に。*土田 和輝 , 沢田 輝

G-P-3

能登半島に産する漸新世・前期中新世苦鉄質岩の岩石学的・地球化学的研究。*橋本 優生, 高橋 俊郎, 柴野 暉崇

G-P-4

三重県の古琵琶湖層群および東海層群の鮮新統湖成堆積物における Praestephanos 属珪藻の形態学的進化と生層序。*小島 隆宏, 齋藤 めぐみ, 大塚 泰介

G-P-5

SEM-EDX による砂中の重鉱物の自動分析。*杉田 律子

G-P-6

山梨県韮崎市に分布する土壌の磁気分析 - 法地質学への応用。*川村 紀子, 杉田 律子, 組坂 健人

G-P-7 (エントリー)

後背地地質が微小碎屑物の組成に与える影響に関する法地質学的検討～ハイパースペクトルカメラによる客観性・定量性の確保～。*渡邊 美紀 , 秋葉 教充, 角田 英俊, 杉田 律子, 組坂 健人, 竹内 真司

G-P-8

2018年9月11日北海道胆振東部地震における支笏湖周辺の崩壊。*廣瀬 亘

G-P-9

長野県北部、野尻湖立が鼻遺跡における約5万～4.3万年前の堆積環境。*竹下 欣宏, 花岡 邦明, 趙 哲済, 川辺 孝幸, 中川 知津子, 小林 雅弘, 小林 和宏, 関 めぐみ, 野尻湖 地質グループ

G-P-10

第四紀における閉鎖的内湾性 Bicornucythere 属（甲殻類、貝形虫）の形態と古生物地理。*入月 俊明, 長田 晴樹

G-P-11

背斜と向斜の教え方。*星 博幸

G-P-12

学生のヒマラヤ野外実習プログラム13年間。*吉田 勝, 学生のヒマラヤ野外実習 プロジェクト

Jr. ジュニアセッション

J-P-1

七滝周辺の地層の重なりおよび分布の調査。*熊本市立月出小学校

J-P-2

生痕化石と統計学的新手法から明らかにする、8500万年前のスフェノセラムスの生態。*熊本県立天草高等学校

J-P-3

えっ！？鳥が浮いてる？浮島現象を科学するⅢ～視程から解き明かす蜃気楼の謎～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-4

知らない現象（不知火現象）を科学する6～ついに観測に成功！不知火の正体に迫る～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-5

知らない現象（不知火現象）を科学する6～不知火はなぜ、八朔の晩にしか見られないのか？～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-6

馬門石の赤色はヘマタイトか？3。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-7

島原大変肥後迷惑による津波被害～実態把握、効果的な伝承方法の開発、津波の科学的特性とその検証～。*熊本県立宇土高等学校科学部地学班

J-P-8

2つの日記をつなぎわかったダルトン及びマウンダー極小期の降水出現率。*池田学園池田高等学校 科学思考班

J-P-9

江戸幕府の公式天文観測「靈驗候簿」を使って「石川日記」の降水出現率や「弘前藩江戸日記」の7月の気温を検証する。*池田学園池田高等学校科学思考班

J-P-10

指宿火山群での噴気観測による地下モデルの提唱。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-11

2025年5月の桜島連続噴火における温泉水の成分変化。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-12

動画解析プログラムを用いた桜島の火山雷解析。*池田学園池田高等学校SSH地球科学班

J-P-13

※講演番号は、トピックセッション (T)、ジェネラルセッション (G) のそれぞれに、ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演,  ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（日） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

沖縄の島々の粟石に含まれる有孔虫化石の比較とできた環境の違い. *豊見城市立豊見城中学校／琉大ハカセ塾

J-P-14

四国中央市や新居浜市の河川に産する蛇紋岩の供給源の推定～蛇紋岩転石を用いた比較を通して～. *愛媛大学附属高等学校

J-P-15

豪州NSW州南東部Bingi Bingi Point複合深成岩体のマグマ分化末期熱水循環の温度・圧力環境. *兵庫県立姫路東高等学校

J-P-16

2024年7月、紀南の海岸に漂着したスコリア. *和歌山県立田辺高等学校

J-P-17

愛知県知多半島内海断層近くの師崎層群の古流向と古傾斜の関係. *名古屋高等学校・名古屋中学校

J-P-18

彩雲と光環の再現実験の検証～光源と雲生成条件の変化～. *中央大学附属高等学校

J-P-19

偏西風波動のモデル実験の簡易化～サーモグラフィの活用～. *中央大学附属高等学校

J-P-20

変圧器を利用した水槽実験による皿状構造の再現と形成過程の考察—地層の固結度と水圧の違いから考える堆積構造の形成条件—. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-21

使い捨てライターから解明する日本沿岸の海流. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-22

海岸砂中のマイクロプラスチックの空間分布・時間分布の解明～マイクロプラスチック問題を自分ごとにする教材の開発～. *東京学芸大学附属高等学校

J-P-23

模型実験によるスラブ内二重地震面の再現. *市川高等学校

J-P-24

アウターライズ領域における地磁気の縞模様に対応する震源分布の再現実験. *市川高等学校

J-P-25

手取層群伊月層から産出した植物化石の分類と堆積環境の考察. *市川高等学校

J-P-26

北海道南西部小樽西部海岸忍路地域～桃内地域の後期中新世～鮮新世における水中火山の噴火活動史とテクトニクスについて. *北海道龍谷学園小樽双葉高等学校科学同好会

J-P-27

小樽運河周辺の歴史的建造物や倉庫を作っている石材の特徴とその由来について、特に小樽軟石と札幌軟石についての文化地質学的検討. *北海道龍谷学園小樽双葉高等学校科学同好会

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ *太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

T1. 変成岩とテクトニクス

T1-P-11

九州東部佐賀関半島三波川コンプレックス二重帯構造ごくろ石と前弧から三波川沈み込みへの移流の可能性. *宮崎 一博, 中村 佳博, 長田 充弘

T1-P-12 (エントリー)

三波川変成帯長瀬地域における石英脈中の粗粒ザクロ石. *加藤 将人, 乾 睦子, 道林 克禎

T1-P-13

フィリピン海四国海盆土佐メガマリオンにおける超苦鉄質岩の変質作用の進行. *大柳 良介, 小原 泰彦

T1-P-14 (エントリー)

マントル炭酸塩化反応を伴う地殻-マントル境界での交代変成作用：四国中央部三波川変成帯猿田川における例. *沖野 峻也 , 岡本 敦, マドスーダン サティッシュク マール

T1-P-15 (エントリー)

接触変成作用に伴う超苦鉄質岩類の熱変成反応と流体活動：赤石山地北部・三波川帯の例. *延原 香穂 , 森 宏, 築島 由理恵, 永治 方敬, 新屋 貴史, 早川 由帆, 山岡 健, 藤本 光一郎, 常盤 哲也

T1-P-16 (エントリー)

三波川変成帯の超苦鉄質岩体の分布と産状. *會田 幸樹 , ウォリス サイモン

T1-P-17 (エントリー)

大阪府岸和田地域・河合マイロナイトのラマン分光分析. *荒木 悠 , 下岡 和也, 壺井 基裕

T1-P-18 (エントリー)

天竜三波川帯泥質片岩の最高被熱温度と石墨化度の関係，そして石英・曹長石の微細構造発達過程. *原田 藍生 , 瀬瀬 佑衣, 道林 克禎

T1-P-19 (エントリー)

マリアナ海溝南部マリアナ前弧海嶺に産出する2種類の溶け残りかんらん岩の鉱物化学組成と結晶方位ファブリックの特徴.

*宮田 佳奈 , 上原 茂樹, 小原 泰彦, 道林 克禎

T1-P-20

有限変形のMohr-cyclideの構築—実用的な3次元有限変形解析に向けて—. *副島 祥吾 

T1-P-21

電子線後方散乱回折法（EBSD）で認識される柳井領家のザクロ石合体粒子の成長機構. *林 里沙, 池田 剛, 中村 佳博, 針金 由美子

T1-P-22

ベトナム北部Day Nui Con Voi変成岩体最東端部，ナムディン地域に産する変成岩の温度圧力進化とテクトニクスの意義.

*北野 一平, Bui Thi Sinh Vuong

T1-P-23

飛騨帯神岡地域の斑れい岩-閃緑岩質変成岩の地球化学的多様性：部分溶融モデルの検討. *水上 知行, 菅原 千織, 三上 航大, 秋澤 紀克, 田村 明弘, 森下 知晃

T1-P-24

関東山地・吉見丘陵に産する異なる変成履歴を示す変成岩類. *足立 達朗, 岩崎 一郎

T1-P-25

西彼栲変成岩類の変形史. *重野 未来, 森 康, 井上 和男

T1-P-26 (エントリー)

北海道むかわ町穂別福山地域に分布する神居古潭変成岩の岩石記載と温度圧力条件の推定. *皆川 泰輝, 北野 一平

T1-P-27

北海道神居古潭帯のひすい輝石-石英 変花崗質岩における，ひすい輝石と藍閃石の形成過程の予察. *植田 勇人, 中野 滋喜

T1-P-28 (エントリー)

変成温度解析と炭素量分析に基づく，接触変成作用に伴う泥質岩中炭質物の減少プロセスの検討：赤石山地北部・三波川帯の例. *中澤 明子 , 堀場 汐莉, 松林 直亮, 森 宏, 延原 香穂, 三村 耕一, 土肥 陽菜, 山岡 健, 常盤 哲也

T1-P-29

新潟県糸魚川市周辺における曹長岩のジルコンU-Pb年代とひすい輝石岩との成因関係. *西澤 ひなた, 岡田 花, 植田 勇人

T1-P-30

糸魚川市山之坊地域における角閃石岩類の起源とコスモクロア輝石との成因関係. *岡田 花, 西澤 ひなた, 植田 勇人

T1-P-31 (エントリー)

岩石中で著しく粗大化した単結晶の形成メカニズムとシミュレーション：高島マントルゼノリスを例に. *古川 旦 , 辻森 樹

T1-P-32 (エントリー)

沈み込み帯ジオダイナミックモデリングの解像度検証：グリッドサイズと地質現象スケールの整合性. *志関 弘平 , 辻森 樹

T3. 文化地質学

T3-P-1

紫外線発光する紅柱石含有御岩山変成流紋岩類と御岩山の文化地質学. *田切 美智雄, 鈴木 保光, 島崎 純生, 門馬 綱一, 柴田 翔平, 長谷川 健

T3-P-2

地中に埋没したテクノ化石に記録されている続成過程と周囲環境への影響：ポリ塩化ビニル製玩具を例に. *谷川 亘, 多田 井修, 山本 哲也, 野口 拓郎, 中島 亮太, 山口 飛鳥, 松崎 琢也

T3-P-3

アプリ「ポケット学芸員」を用いた龍河洞の新しい解説書. *公文 富士夫

T3-P-4

中四国-近畿の弥生時代の遺跡に分布する青色片岩製磨製石器（片刃石斧）の原産地推定：地質学的なアプローチ（経過報告）. *青矢 睦月, 中村 豊, 遠藤 俊祐, 端野 晋平, 山岡 邦章

T3-P-5

首都圏における北関東産凝灰岩石材の使用例. *高橋 直樹, 赤司 卓也

T3-P-6

山形県高島町の日向洞窟西地区の礫の岩石種. *大友 幸子, 鈴木 大輔

T8. 原子力と地質科学

T8-P-1

河川下刻による地形変化に関するデータ収集及び予察的な解析（統報）. *川村 淳, 西山 成哲, 賈 華, 石川 泰己, 小泉 由起子

T8-P-2

陸棚における1万-10万年オーダーでの地殻変動の傾向・量の確認方法：文献レビュー. *小松 哲也

T8-P-3

第四紀火山を対象とした地形解析による活動履歴推定手法の開発の試み. *西山 成哲, 加藤 由梨, 川村 淳, 梅田 浩司

T8-P-4

北海道幌延町に分布する新第三紀泥岩層における地震時の地下水圧変化から示唆される水みち構造. *宮川 和也, 大野 宏和, 石井 英一

T8-P-5

ユニバーサルステージの復刻：流体包有物配列面の方位測定による実用性の検証. *島田 耕史, 大江 隆, 竹下 徹

T10. テクトニクス

T10-P-1

関東山地西端部の四万十帯白亜紀付加体，「高登山層」の再検討. *山岡 健, 村上 大知, 青柳 朋希, 常盤 哲也, 森 宏, 志村 侑亮, 井上 梓, 浅原 良浩, 原 英俊, 鎌田 祥仁

T10-P-2 (エントリー)

足尾帯南西部に分布する白亜紀花崗岩類のジルコンU-Pb年代. *出口 琢磨 , 常盤 哲也, 森 宏

T10-P-3

U-Pb Zircon Geochronology of the Song Ba Basin: Implications for Magmatic and Tectonic Evolution of the Kon Tum Massif, Central Vietnam. DOAN Dinh Hung, *堤 之恭, PHAM Trung Hieu, 小松 俊文, NGUYEN Trung Minh, PHAM Minh,

※講演番号は，トピックセッション（T），ジェネラルセッション（G）のそれぞれに，ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合，講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者，（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演，ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

NGUYEN Thi Dung, AN Thi Thuy, NGUYEN Hoang

T10-P-4

2018年インドネシア中部スラウェシで発生したパル＝コロ断層地震の地震断層の変位分布とパル堆積盆の成因。*西川 治, パスピタリスカ

T10-P-5（エントリー）

太古代クラトン上に発生した2014年M5.5地震発生場の応力の空間分布：南アフリカ地下約3kmの掘削コアのカルサイト脈解析。*濱垣 貴也^{ECS}, 橋本 善孝, 細川 貴弘, 小笠原 宏, 藤田 蕉, 吉田 俊輔

T10-P-6

太平洋プレート海洋地殻の脱水フロントの地震学的な制約：火山フロントとの空間的一致。*宮崎 一希^{ECS}, 中島 淳一

T10-P-7（エントリー）

沖縄トラフ南部の海底地溝を繋ぐTransfer Zoneにおける変形様式の力学的な特徴。*山本 朱音^{ECS}, 大坪 誠, 三澤 文慶, 新井 隆太

T10-P-8（エントリー）

中央構造線沿いの安山岩の定置と熱的影響。*白井 大地, 中野 敬太, 濱田 洋平, 林 為人, 坂口 有人

T10-P-9

四国西部における中央構造線周辺のNNW-SSE方向の変形構造。*窪田 安打, 竹下 徹

T10-P-10

ボーリング調査及び断層露頭調査に基づく四国北西部の中央構造線の地質構造発達史。*宮脇 昌弘

T10-P-11

江若花崗岩江若岩体分布域における断層岩の化学組成及び集福寺断層の活動性評価。*千葉 響, 林 茉莉花

T10-P-12（エントリー）

新潟県中越鳥越断層における多重逆解法の適応。*菅 敦成, 小林 健太

T10-P-13（エントリー）

綿向山断層近傍の古琵琶湖層群を切る小断層群が示す第四紀のNW-SE圧縮応力。*豊留 一輝^{ECS}, 佐藤 活志

T10-P-14

斜め開き岩脈による駆動流体圧比の区間推定。*佐藤 活志

T10-P-15（エントリー）

造岩鉱物から成る固結粒状体の内部応力分布の可視化。*瀧本 秀男^{ECS}, 坂口 有人

T10-P-16

GIAモデリングによる最終間氷期の海水準変動と氷床量推定。

*奥野 淳一, 石輪 健樹, 入江 芳矢

T11. 都市地質学：自然と社会の融合領域^{ECS}

T11-P-1

一般市民の防災リテラシー向上に向けた地方公設試験研究機関の取り組み（その3）。*小田原 啓, 本多 亮, 安部 祐希, 石山 達也, 三宅 弘恵, 森川 信之, 松原 誠

T11-P-2（エントリー）

京都府京田辺市普賢寺川流域における降雨・水位応答の解析と防災評価に向けた3D可視化。*正田 陽宏, 横川 美和

T11-P-3

WebGLを用いた地下浅部3次元地質地盤モデル可視化ツール。

*野々垣 進, 藪田 桜子, 中澤 努

T11-P-4

八街市・富里市周辺に見られる地盤沈下の時空間変化。*荻津 達, 八武崎 寿史

T13. 地域地質・層序学：経過と集大成

T13-P-1

北西インド、インダス層群における古土壌の検討：アジア・インド衝突帯における古気候記録。吉田 孝紀, Kumar Subhadeep, 島田 誠明, *杉山 春来

T13-P-2

チベット高原南部タコーラ地域の中新統-更新統の堆積環境と古土壌が記録した古気候。島田 誠明, *葉田野 希, シルワル ビショウ, ギャワリ バブラム, 庄司 瑞輝, 吉田 孝紀

T13-P-3

タイ国中央部Phetchabun地域の三疊系石灰岩礫岩の堆積様式。*鎌田 祥仁, 丸山 直巳, 上野 勝美, CHAROENTITIRAT Thasinee, SARSDUD Apsorn

T13-P-4

ガーナ南西部Ashantiグリーンストーン帯南部におけるBirimian超層群の分布と岩相および堆積場の比較。*吉丸 慧^{ECS}, 清川 昌一, 伊藤 孝, Ibrahim Kwabina, Tetteh M. George, Nyame K. Frank

T13-P-5

南部北上帯南西部のベルム系砕屑岩から復元する後背地の変遷。*鈴木 敬介, 瀧川 浩気

T13-P-6（エントリー）

夜久野オフィオライト久米南岩体の全岩主要化学組成。*前 圭一郎, 能美 洋介, 土屋 裕太

T13-P-7

京都府北部舞鶴地域の舞鶴帯南帯市野瀬層群の再検討。*菅森 義見, 柳沢 真悠花

T13-P-8（エントリー）

熊本県泉町の下部石炭系柿迫層より大型化石群の発見。*関谷 優輝^{ECS}, 田中 源吾

T13-P-9

飛驒帯のジルコンU-Pb年代学：東アジア縁辺の大陸成長史。*山田 来樹, 長田 充弘, 沢田 輝, 仁木 創太, 小北 康弘, 大内 航, 青山 慎之介, 平田 岳史

T13-P-10

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県月出地域の例。*竹内 誠, 藪田 桜子, 李 琪, 浅原 良浩

T13-P-11（エントリー）

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県美杉地域南部における75 Ma苦鉄質岩～中間質岩類と花崗岩類の地質構造。*檜垣 悠斗, 竹内 誠, 李 琪, 浅原 良浩

T13-P-12（エントリー）

紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県飯南地域の例。*李 琪, 竹内 誠, 浅原 良浩

T13-P-13

5万分の1地質図幅「川原河」に分布する四万十付加体の構造層序と構造発達史。*志村 侑亮

T13-P-14

北九州市門司区黒川地域、白亜系高津尾層（脇野亜層群）から見出された石灰岩礫の岩相と地質学的意義。*星木 勇作, 星木 美恵

T13-P-15（エントリー）

兵庫県東部に分布する下部白亜系大山下層の堆積環境と凝灰岩の研究。*辻 光彦^{ECS}, 澤田 順弘, 田中 公教, 実吉 玄貴

T13-P-16（エントリー）

牟婁層群・熊野層群の層序に基づく「サラシ首層」の成因と層序学的帰属の検討。*川並 仁美, 藤野 滋弘, 原田 駿介

T13-P-17

鹿児島県種子島中部に分布する熊毛層群の赤色泥岩及びゲーサイトコンクリーションから産出した放散虫化石と地質年代。

*菊川 照英^{ECS}, 古川 登, 相田 吉昭

T13-P-18

房総半島、5万分の1大多喜地域における前弧海盆堆積物の分布と層序。*宇都宮 正志, 小松原 琢, 中嶋 輝允, 徳橋 秀一

T13-P-19（エントリー）

アバタイト微量元素組成を用いた南東北に分布する中新世－第四紀の凝灰岩と海洋コアに挟在する凝灰岩との対比の試み。*富樫 琴美, 高嶋 礼詩, 折橋 裕二, 浅原 良浩, 永橋 こう輝, 北見 匠, 黒柳 あずみ

T13-P-20（エントリー）

下北半島北東部に露出する中新統・蒲野沢層からの熊野カルデラ由来のテフラの発見。*辻本 大暉, 高嶋 礼詩, 星 博幸, 新正 裕尚, 黒柳 あずみ

T13-P-21（エントリー）

栃木県茂木地域における前期中新世珪質火山岩類の地質学・

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者、（エントリー）：学生優秀発表賞エントリー講演、^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月15日（月・祝） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

岩石学的特徴. *小坂 日奈子^{ECS}, 細井 淳

T13-P-22

京都府舞鶴市 冠島(若狭湾)の中新統火山岩の年代と岩相. *辻野 匠

T13-P-23 (エントリー)

鳥取県中新統多里層の微化石と古環境. *中井 建琉, 入月 俊明, 辻本 彰, 林 広樹, 田中 裕一郎, 瀬戸 浩二

T13-P-24 (エントリー)

岡山県新見市哲西町における中新統備北層群の地質と微化石. *河田 圭太, 入月 俊明, 林 広樹, 辻本 彰, 田中 裕一郎

T13-P-25 (エントリー)

鳥根県松江市鹿島町の手結のスランブ褶曲とその形成過程. *堀田 大翔, 酒井 哲弥

T13-P-26 (エントリー)

松江市玉湯町の川合層砂岩に見られる不整合境界の特徴と堆積構造,およびそれらから推定される古環境. *上岡 竜貴, 酒井 哲弥

T13-P-27 (エントリー)

鳥根県大田市五十猛町周辺に分布する中新統川合・久利層砂岩の特徴の多様性. *日比野 翔吾, 酒井 哲弥

T13-P-28 (エントリー)

北部フォッサマグナ地域新第三系砂岩における供給源の検討. *橋本 周汰, 植田 勇人, 吉田 孝紀

T13-P-29 (エントリー)

鳥根県松江市東部, 和久羅山西方における構造地質学的研究. *泉 憲志郎, 向吉 秀樹

T13-P-30

兵庫県姫路市白浜町付近の上部第四系. *毛利 元紀

T13-P-31

岡山平野の沖積層下に伏在する地下更新統層序の予察的検討. *納谷 友規, 田辺 晋, 水野 清秀, 本郷 美佐緒, 小網 晴男, 鈴木 茂之

T13-P-32

20万分の1日本シームレス地質図 V2新ビューアの試験公開. *西岡 芳晴

G. ジェネラルサブセッション地球化学・応用地質

G-P-13

2025年4月に発生した長野県北部の被害地震と「揺れやすさマップ」の効用. *津金 達郎, 信州大学 震動調査グループ

G-P-14

原石山における定量的な材料評価の試み. *大河内 誠, 横田 崇之

G-P-15

白亜紀のハプト藻バイオマーカー・アルケノンC40:2Et: そのcis異性体の温度依存性と古環境学的意義. *長谷川 卓, 高橋

月香

G-P-16

地質・物理探査の若手技術者育成（基礎講座を通じて）. *山口 悠哉, 鎌田 弘己

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※*太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, ^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟C棟1-2階）

T4. 岩石・鉱物の変形と反応

T4-P-1

蛇紋岩化反応に着目した九州の天然水素ポテンシャル評価：長崎・大分・熊本における露頭調査と初期分析 ***宍田 哲大**, 山田 泰広, 石須 慶一, 伊藤 茜

T4-P-2 (エントリー)

水の吸着能力が制御する地すべり土の摩擦挙動. ***大森 涼生** **ECS**, 高橋 美紀, 星住 英夫, 宮川 歩夢, 大熊 茂雄, 上原 真一

T4-P-3 (エントリー)

深部プレート境界岩の変形機構とレオロジー. ***山崎 悠翔** **ECS**, 氏家 恒太郎, イヨ トーマス

T4-P-4

地殻－マントル境界に発達した含水延性剪断帯における物質移動. ***夏目 樹**, 道林 克禎, 岡本 敦

T4-P-5

オマーンオフィオライト下部地殻－上部マントルの蛇紋石の局所酸素同位体分析. ***吉田 一貴** **ECS**, Scicchitano Maria Rosa, 岡本 敦

T4-P-6 (エントリー)

沈み込みプレート境界における歪速度と剪断応力の推定：石英の変形機構とレオロジー特性からの知見. ***駒木野 照太** **ECS**, 氏家 恒太郎, イヨ トーマス, 重松 紀生

T4-P-7 (エントリー)

緑泥石-アクチノ閃石片岩におけるアクチノ閃石の粒径に依存した変形機構の遷移. ***窪田 虎太郎**, 平内 健一, イヨ トーマス

T4-P-8 (エントリー)

地殻規模剪断帯の構造的特徴とテクトニクス —インド・ガダグ＝マンディヤ剪断帯を例として—. ***浦川 真登** **ECS**, スリハリ ラクシュマナン, 中村 佳博

T4-P-9 (エントリー)

北海道日高変成帯ウエンザルカンラン複合岩体における斜長石レルゾライトのマイロナイト化作用の再検討. ***井上 創** **ECS**, 道林 克禎

T4-P-10 (エントリー)

注水による有効法線応力変化が摩擦挙動に与える影響. ***岩田 琉空**, 北村 真奈美, 澤井 みち代, 上原 真一

T4-P-11

1995年兵庫県南部地震で活動した灘川断層（副次断層）の微細構造解析. ***相山 光太郎**, 末廣 匡基, 木村 一成

T4-P-12

熊本地震破壊端部の岩石摩擦特性と断層破壊停止メカニズムの実験的検証. 溝口 一生, ***飯田 高弘**, 谷口 友規, 飯塚 幸子

T4-P-13 (エントリー)

南部琉球弧および沖縄トラフに産する苦鉄質および珪長質火山

岩の岩石学. ***鶴澤 直己** **ECS**, 市山 祐司, 三澤 文慶, 石塚 治

T4-P-14

変質岩脈中に密に発達する小断層から推定される地殻浅部の応力状態. ***安邊 啓明** **ECS**, 中嶋 徹, 西山 成哲, 箱岩 寛晶, 石原 隆仙, 木田 福香, 小北 康弘, 丹羽 正和

T4-P-15

風化作用で等体積変化している安山岩での元素移動. ***中田 英二**

T4-P-16

上総層群泥岩の破壊基準とせん断帯の透水性の関係. ***松原 美友**, 上原 真一

T4-P-17

摩擦溶融を伴って繰り返す斑レイ岩質断層の地震性すべりに関する力学・エネルギー・微細構造の進化. ***サルカール デュティ ブラカシュ** **ECS**, 廣瀬 丈洋, 谷川 亘, 濱田 洋平, 奥田 花也

T4-P-18 (エントリー)

広範なすべり速度域での石英を含む岩石の すべり挙動に及ぼす湿度の影響. ***畑中 衛**, 堤 昭人

T5. 沈み込み帯・陸上付加体

T5-P-1

日本海溝プレート境界域の強度変化：掘削情報からのアプローチ. ***濱田 洋平**, Conin Marianne, 氏家 恒太郎, Kirkpatrick Jamie, 小平 秀一, Regalla Christine, Fulton Patrick, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, IODP Exp. 405 Scientist

T5-P-2

日本海溝に沈み込む太平洋プレートにおける粘土層の厚さ－JTRACK Site C0026におけるCore-Log-Seismic integrationから－. ***中村 恭之**, Ford Jonathan, Nicholson Uisdean, 宮川 歩夢, 濱田 洋平, Conin Marianne, Fulton Patrick, Kirkpatrick Jamie, Regalla Christine, 小平 秀一, 氏家 恒太郎, 江口 暢久, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, Toczko Sean, 国際深海科学掘削計画第405次航海乗船研究者

T5-P-3

IODP第405次航海（JTRACK）にて得られた日本海溝の物性測定結果. ***神谷 奈々**, Tamara N. Jeppson, Matt Ikari, Mai-Linh Doan, Jonathan Ford, Huiyun Guo, Ron Hackney, Maria Jose Jurado, 宮川 歩夢, Pei Pei, Srisharan Shreedharan, 小平 秀一, Marianne Conin, Patrick Fulton, Jamie Kirkpatrick, Christine Regalla, 氏家 恒太郎, 前田 玲奈, 奥津 なつみ, IODP第405次航海 研究乗船者

T5-P-4 (エントリー)

走査型 SQUID 顕微鏡を用いた陸上付加体中の断層岩の岩石磁気特性解析と変形組織との比較. ***内田 泰蔵** **ECS**, 小田 啓邦, 川畑 博, 福興 直人, 橋本 善孝

T5-P-5

宮崎県延岡市北方地域における掘削・地表調査, 岩相解析速報. ***矢部 優**, 木口 努, 大坪 誠

T5-P-6 (エントリー)

砕屑性ジルコン複合化学分析に基づく根田茂帯綱取ユニット形成史と前期古生代テクトニクスの解明. ***中野 竜**, 青木 翔吾, 内野 隆之, 福山 繭子, 昆 慶明, 板野 敬太, 飯塚 毅

T5-P-7 (エントリー)

九州北部の秋吉帯の境界断層の地質構造とテクトニックセッティング. ***市澤 佑太** **ECS**, 下松 匠, 浜橋 真理, 坂口 有人

T5-P-8 (エントリー)

プレート沈み込み帯における鉱物脈の分布密度と測定方法. ***貞松 夏実**, 坂口 有人

T5-P-9 (エントリー)

黒瀬川帯における三滝花崗岩と三滝山周辺に産する礫岩との関係性. ***中村 領** **ECS**, 辻 智大

T5-P-10

北海道日高帯広尾町周辺における古第三紀付加体（中の川層群）の海洋プレート層序の復元. ***幡山 怜皇**, 岩井 大輝, 植田 勇人

T7. 堆積地質学の最新研究

T7-P-1

諏訪湖湖底遺跡の堆積物コアに基づく後期完新世の湖水位変動の復元. ***葉田野 希**, 公文 富士夫, 谷川 亘, 長谷川 直子, 三上 岳彦

T7-P-2 (エントリー)

沖縄県国頭郡に分布する名護層千枚岩の風化過程と赤色土壌への変遷：侵食と堆積およびREE挙動の検討. ***山口 季彩**, 歳島 聖二, 吉田 孝紀

T7-P-3

亜熱帯地域における岩石風化課程－上部白亜系名護層砂岩における希土類元素の挙動. ***歳島 聖二**, 吉田 孝紀, 山口 季彩

T7-P-4

北西太平洋の深海底に堆積する赤色粘土の元素分布とその特性. ***村山 雅史**, 波多野 泰成, 原田 尚美, 佐川 拓也, 堀川 恵司, 南 秀樹, 小畑 元

T7-P-5 (エントリー)

熊本県人吉盆地における人吉層化石林の発達史：土壌構造からの考察. ***杉山 春来** **ECS**, 吉田 孝紀

T7-P-6

高解像度デジタル露頭モデルを用いた不連続構造の自動抽出法の開発と三浦層群三崎層を対象とした三次元地質構造調査への適用. ***大川 真弘**, 大澤 幸太, 沖野 遼, Bui-Khuong Duy, Dinhkhac Dzung, 松尾 重明

T7-P-7 (エントリー)

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ * 太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, **ECS**ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

Unreal Engine 5による3D露頭モデルを用いたVR地層観察システムの開発. *杉本 健人^{ECS}, 成瀬 元, 横川 美和
T7-P-8（エントリー）

多峰性を示す粒度分布のEMアルゴリズムを用いた分離と関数データ解析の応用. *吉田 雄博^{ECS}, 横川 美和

T7-P-9

不整合による侵食量の側方変化：富山県中部中新統八尾層群および砺波層群の例. *中山 雄介, 北沢 俊幸

T7-P-10（エントリー）

3次元量み込みニューラルネットワークを用いたCTスキャン画像からの岩相判別モデル. *菊池 凌太^{ECS}, 成瀬 元

T7-P-11

2011年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した混濁流の成因は何か：数値実験による検討. *成瀬 元, 中西 諒

T7-P-12

浅海域における津波による海底侵食量の検討 *横山 由香, 松中 哲也, 落合 伸也, 坂本 泉

T7-P-13

和歌山県那智勝浦町におけるイベント堆積物の堆積学的特徴.

*松本 弾, 澤井 祐紀, 行谷 佑一, 谷川 晃一朗, 嶋田 侑真

T7-P-14

2024年スペイン洪水に伴うクレバースプレー堆積物の現地調査. *山田 昌樹, 笹本 弦, DRAEGER Amy, KASSEM Hachem, VILLAFANE Patricio, DELLA VEDOVA Micaela, GARNIER Roland, 渡部 真史

T7-P-15（エントリー）

福島県中央部、磐梯火山南西麓に分布する岩層なだれ堆積物の特徴. *古庄 航輝, 小荒井 衛

T7-P-16（エントリー）

下原洞穴遺跡における堆積物の微細形態と堆積相. *大部 悦子^{ECS}, 具志堅 亮, 石原 与四郎

T7-P-17

インドネシア・Topogaro（トボガロ）洞窟遺跡における堆積物の特徴. *佐藤 碧海^{ECS}, 石原 与四郎, 藤田 祐樹, 小野 林太郎

T7-P-18

Unlocking Climate Signals in Japanese Deep-Sea Coral (*Corallium japonicum*) Using Non-Parametric Rhythmicity Analysis. *Ma, Marivic Capitle Pepino^{ECS}, Tomoyo Okumura

T7-P-19

シリカ温泉堆積物の縞状組織を構成する白色層と有色層の微細構造. *高島 千鶴, 渡部 日陽, 高橋 和敏, 出田 光太郎

T7-P-20

北中国山東省に分布するフロンギアン統微生物岩が示す生物多様性と海洋環境の変化. *足立 奈津子, 江崎 洋一, 前田 宗孝, 鳥谷 美来, Jianbo LIU, Yan Zhen

T7-P-21（エントリー）

インド古原生界Jhamarkotra層に見られるリン酸塩ストロマトライトの形成過程. *佐藤 久遠^{ECS}, バンディ アビシエク, チャクラボルティ パルタ, 狩野 彰宏, 白石 史人

T14. 九州の火山テクトニクス^{ECS}

T14-P-1

長崎市横尾から時津町南西部にかけての火山地質及び流れ山地形について. *西川 正

T14-P-2

阿蘇火山中央火口丘群西部に位置する烏帽子岳山体の構造.

*松藤 彬成, 宮緣 育夫, 星住 英夫

T14-P-3（エントリー）

多角的視点による玉来川溶岩の分類の再検討. *武富 真由^{ECS}, 辻 智大, 山本 裕二

T14-P-4（エントリー）

九州における西南日本弧と琉球弧のマグマ発生機構. *山中 壮馬^{ECS}, 柴田 知之

T14-P-5（エントリー）

获岳の火山岩と先阿蘇火山岩類の岩石学的特徴の比較. *福田 颯亮, 辻 智大

T14-P-6

九州中部金峰火山に分布する火山岩の全岩化学組成とSr同位体比. *新村 太郎, 山村 文太, 壺井 基裕, 下岡 和也, 荒川 洋二

T14-P-7

中期更新世, 九州の火山テクトニクスの転換期. *辻 智大

T14-P-8

トカラ列島悪石島～宝島にかけての2025年6月21日からの地震活動について. *川辺 孝幸

T15. 海域火山と漂流軽石

T15-P-1

静岡県中・西部沿岸で見られる暗褐色漂着軽石の特徴とその起源. 藤島 智希, 桶川 暁太郎, 竹内 凌真, 飯田 陸斗, 榛村 笑凜, 樽松 宏征, *青島 晃

T15-P-2

駿河湾伊豆西側斜面の地質岩石学的特徴. *長瀧 桃花, 坂本 泉, 古橋 皇, 柴尾 創士, 横山 由香, 森 光貴, 佐藤 悠介, 棚橋 道郎

T15-P-3

福岡県ノ場2021年噴火に伴う軽石ラフトの定量的評価の試み. *石毛 康介, 竹内 晋吾, 上澤 真平, 土志田 潔, 諏訪 由起子

G. ジェネラルサブセッション

海洋地質・地域地質・層序・堆積地質

G-P-17

沖縄トラフ南部に発達する魚釣長谷の地形学及び地質学的特徴. *三澤 文慶, 高下 裕章, 新井 隆太, Nishimoto Michelle, 山本 朱音, 桑野 太輔, 尾内 千花, 池原 実, 大坪 誠

G-P-18

「しんかい6500」に構築した音響探査システムと観察・サンプリングを組み合わせたハイブリッド潜航調査. *飯島 耕一, 金子 純二

G-P-19（エントリー）

山口県下関市吉母港の脇野垂層群におけるデュープレックス構造とその意義. *川口 昂大, 川村 喜一郎

G-P-20

中央北西太平洋ODPサイト1208堆積物に基づく放散虫生層序の構築と気候駆動型動物相転換. *松崎 賢史, 上栗 伸一

G-P-21

琉球弧北部から採取した鮮新世一前期更新世の堆積岩および珪質微化石群集. *石野 沙季^{ECS}, 板木 拓也, 有元 純, 石塚 治, 針金 由美子, 田中 裕一郎

G-P-22

田辺湾における現生底生有孔虫群集の分布と海洋環境との関係. *辻本 彰, 小林 哉太, 入月 俊明

G-P-23（エントリー）

東シナ海における現生貝形虫相の空間分布. *中藤 草汰^{ECS}, 岩谷 北斗, 齋藤 京太, 田寺 優香, 板木 拓也

G-P-24

九州北西方海域における表層堆積物中の5mm以上のプラスチック分布. *飯塚 睦, 天野 敦子, 板木 拓也, 鈴木 克明, 清家 弘治

G-P-25

沖ノ島島周辺海域における海底地形既存データの統合とその特徴. *古山 精史朗, 木川 栄一, 高月 直樹, 中東 和夫

G-P-26

房総半島九十九里浜におけるガス湧出スポットの形状変化. *吉田 剛, 風岡 修

G-P-27

中部中新一下部鮮新統アイダホ層群の浮遊性珪藻化石の重要性. *林 辰弥, 齋藤 めぐみ, 羽田 裕貴, KREBS William

G-P-28（エントリー）

南部沖縄トラフ中軸部における深海生底生有孔虫の分布と規制要因の検討. *尾内 千花^{ECS}, 亀尾 浩司, 桑野 太輔, 大坪 誠, 木下 正高, KH- 乗船研究者一同

G-P-29（エントリー）

紀伊半島沖に分布する後期新生代の浮遊性有孔虫生層序の有効性の評価. *高山 佳奈子, 林 広樹

※講演番号は、トピックセッション（T）、ジェネラルセッション（G）のそれぞれに、ポスター（P）／口頭（O）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。

※ *太字氏名：代表発表者, (エントリー)：学生優秀発表賞エントリー講演, ^{ECS}ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

第132年学術大会（2025熊本大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月16日（火） コアタイム 13:30-15:00 会場：ポスター会場（全学教育棟 C 棟 1-2 階）

G-P-30

小松島市営グラウンド遺跡の海成層から産出した貝類－その古環境とAMS 14C年代. *中尾 賢一, 西山 賢一

G-P-31

最終間氷期の海成段丘堆積物における光ルミネッセンス年代測定法の適用性検討-北海道根室市ヒキウス露頭での測定事例. *林崎 涼, 相山 光太郎, 中田 英二

G-P-32

琵琶湖湖底段丘の深度. *里口 保文

G-P-33

神奈川県中央部, 鮮新-更新統中津層群神沢層の砂岩礫のモード組成. *河尻 清和

G-P-34

山岳トンネル工事における岩相・変質区分マッピング: 熱水変質帯を対象として. *金澤 安蓮, 吉河 秀郎, 長谷 陵平, 浅海 綾一, 安達 健一

G-P-35

阿蘇2/1溶岩から得た古地磁気方位・古地磁気強度: 層序関係と年代スケール制約への活用. *望月 伸竜, 外間 美羽, 大西 優輝, 石丸 聡子

G-P-36 (エントリー)

茨城県ひたちなか市に分布する上部白亜系那珂湊層群平磯層の磁気層序. *佐藤 碧人, 岡田 誠

G-P-37

和歌山県白浜町に分布する塔島礫岩層の堆積相と碎屑性ジルコンU-Pb年代. *別所 孝範, 山本 俊哉, 小倉 徹也, 後 誠介

G-P-38

10万分の1 徳島県及び周辺地域の地質図. *村田 明広

G-P-39

秋田県矢島地域の中新統女川層のジルコンU-Pb年代による年代層序の高精度化とその日本海古海洋環境変遷史における意義. *中嶋 健, 岩野 英樹, 檀原 徹, 平田 岳史, 朝比奈 健太

G-P-40

石川県珠洲市の法住寺層から得られた石灰質微化石と中期中新世温暖期の古海洋環境. *飯島 賢士, 林 広樹, 関 有沙, 吉岡 純平, 山田 桂

G-P-41 (エントリー)

鳥根県東部中新統古浦層・成相寺層に見られる黒色泥からなるインジェクタイトの特徴と成因. *波多野 瑞姫, 酒井 哲弥, 三瓶 良和

G-P-42

山陰東部, 浜坂地域の鮮新統層序の改訂. *羽地 俊樹, 工藤 崇

G-P-43

山陰東部, 浜坂地域の古第三系火成岩の地質と年代. *佐藤 大介, 羽地 俊樹, 仁木 創太, 平田 岳史

G-P-44

飛騨外縁帯早稲谷地域（福井県大野市東部）におけるベルム系小椋谷層の岩相層序と碎屑性ジルコンU-Pb年代. 多田 陸, 鈴

木 敬介, *栗原 敏之

G-P-45

陸中大原地域東部における前期白亜紀貫入岩類のジルコンU-Pb年代. *鈴木 敬介

G-P-46

北海道士別市温根別に分布する蝦夷層群温根別層の地質調査結果（速報）. *久保見 幸, 成田 敦史, 圓谷 昂史, 本部 哲矢, 水田 一彦

G-P-47 (エントリー)

東南極リュツォ・ホルム湾における貝形虫群集の経時変化. *中里 政貴, 岩谷 北斗, 床平 晃一, 松井 浩紀, 徳田 悠希, 自見 直人, 佐々木 聡史, 石輪 健樹, 藤井 昌和, 鈴木 克明, 板木 拓也, 菅沼 悠介

G-P-48

東シナ海奄美大島付近の黒潮流域における有孔虫を用いた堆積作用の検討. *山崎 誠, 藤澤 優月, 青木 翔吾, 長谷川 四郎, 天野 敦子

G-P-49

東シナ海北部における表層堆積物粒度分布の統計学的な解析に基づく空間変動とその意義. *齋藤 京太

G-P-50

紀伊水道における粒度, 元素による完新世の時空間的な堆積環境の変化. *天野 敦子, 清家 弘治

G-P-51 (エントリー)

Sedimentological and geochemical characteristics of seismogenic event deposits in the outer rise of the Japan Trench. *Yang ZHAO , Rina FUKUCHI, Asuka YAMAGUCHI

※講演番号は, トピックセッション (T), ジェネラルセッション (G) のそれぞれに, ポスター (P) / 口頭 (O) の記号と各セッション内での通し番号を付与しています.

※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合, 講演要旨を正しいものとします.

※ * 太字氏名: 代表発表者, (エントリー): 学生優秀発表賞エントリー講演,  ダイバーシティ認定ロゴ [Early Career Scientist]

地質情報展 2025 くまもと

火の国・水の国！ 大地球の不思議

2025
9/13～15 土 祝

楽しく地球を学べる3日間！

時間

13日 13:00～17:00
14日 9:30～17:00
15日 9:30～16:00
※最終入場は終了時刻の30分前

入場無料

Webをチェック→



会場

熊本城ホール(1階 展示ホールA)
市電：幸島町 電停より徒歩2分 近隣に駐車場(有料)あり

展示

熊本の地質や地下水・資源、
地震・活断層・火山・斜面災害などのパネルと解説

実験・
体験



化石のツカサツカ

石割り体験

火山 噴火実験 ほか

ミニ
講演会

9/13⑤・14⑥

研究者による
熊本城、火山、活断層、地下水のお話
1階 展示ホールA 14:00～16:00 事前申込不要

日本地質学会
市民講演会

9/15 ⑦

九州の恐竜のお話
3階 大会議室A1 14:00～16:00 事前申込不要

国立研究開発法人産業技術総合研究所

主催：地質調査総合センター・九州センター、
一般社団法人

日本地質学会

共催：阿蘇ジオパーク推進協議会

後援：熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、
特定非営利活動法人

九州地質調査業協会、日本応用地質学会九州支部、熊本日日新聞社

お問い合わせ
事務局

TEL：029-861-8540(平日昼のみ)
Email：M-johoten2025-m@aist.go.jp
URL：https://www.gsi.jp/event/johoten/

「地質情報展2025くまもと」は、JSPS科研費(課題番号25H0007)及びセコム科学技術振興財団(助成番号：R061215)の助成を受けたものです。

写真：阿蘇市

今年は選挙の年です！

日本地質学会では2年に一度代議員選挙と理事選挙を、4年に一度監事選挙を行っていますが、今年は代議員選挙と理事選挙を行う年です。併せて、会長・副会長立候補意思表明者への意向調査も行います。このうち、正会員の皆さんには、12月頃に代議員選挙と会長・副会長立候補意思表明者への意向調査の投票を行っていただきます。

例年どおりの場合、大まかなスケジュールは以下のとおりです。

1) 代議員選挙、会長・副会長立候補意思表明者への意向調査

告示：9月下旬

立候補届出期間：10月下旬～11月中旬

投票期間：12月中旬～1月上旬

2) 理事選挙（※選挙人は上記の代議員当選者のみ）

告示：1月中旬

立候補届出期間：1月下旬～2月上旬

投票期間：2月下旬～3月中旬



前回の選挙から、投票は原則として会員システムを用いた電子投票で行っています。今一度、会員システムにログインできるかご確認ください。

会員システム ログインページ：

<https://www.geosoc-member.jp/Member/login.php>



最初にログインする時やパスワードを忘れてしまった場合には、個人情報の入力と事務局の認証が必要です。パスワードを設定し直せば、以降は自分で設定したパスワードを用いてログインすることができます。以下のページに詳しい説明があります。

新しい会員システムの公開・利用について：

<https://geosociety.jp/news/n176.html>

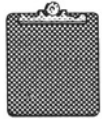
電子投票ができない環境の会員には、事務局から投票用紙をお配りします。事務局まで事前にお問い合わせください。

問い合わせ先：日本地質学会 事務局

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F

電話：03-5823-1150 FAX：03-5823-1156

E-mail：main@geosociety.jp



ご案内

国会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

シンポジウム「複合災害に 立ち向かう防災の知恵 —新潟と能登の経験から—」

新潟県およびその周辺地域で過去に発生した地震、豪雪、豪雨などの災害を振り返るとともに、2024年に発生した能登半島地震の教訓を共有します。これらの災害が複合的に発生するリスクを踏まえ、防災に関する最新の知見や情報を、関連する学術分野の専門家が発信します。そして、正しい自助・共助の行動へとつなげていくことを目的とします。本セッションでは、関連する分野の専門家をパネリストに迎え、一般の方にも分かりやすく防災につながるお話をいただく予定です。

日時：2025年9月7日（日）10:30～12:00

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催 無料 定員：1000名

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

申込方法：次のフォームからお申し込みください

<https://ws.formzu.net/fgen/S2178437/>

プログラム

10:30 開会挨拶

竹内 徹（日本学術会議防災減災学術連携委員会委員長、東京科学大学名誉教授）

10:32 趣旨説明

渦岡良介（防災学術連携体代表幹事、地盤工学会会長、京都大学教授）

10:34 複合災害の考え方とやるべき事

北田奈緒子（日本応用地質学会副会長、GRI財団理事）

10:49 災害現象を知り、いまできる備えを考える

溝口敦子（名城大学教授）

11:04 地震後の生活ライフラインを守る

鎌田泰子（神戸大学教授）

11:19 住宅地における液状化被害の実態と対応

安田 進（東京電機大学名誉教授）

11:34 能登半島地震における復興アクション

木村一幸（国土交通省北陸地方整備局企画部事業調整官）

11:49 質疑応答

11:57 閉会挨拶

米田雅子（防災学術連携体代表幹事、防災推進国民会議議員、宇都宮大学理事）

https://janet-dr.com/060_event/20250907.html

※当日の発表資料は、防災学術連携体のホームページに掲載いたします

（問合せ先）一般社団法人 防災学術連携体

電話：03-3830-0188

email：office@janet-dr.com（中川寛子）

AOGS2026福岡へのお誘い

アジア大洋州地球科学学会 Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)の第23回年会が来夏、日本の福岡市にて下記のとおり開催されます。

日程：2026年8月2日（日）～7日（金）

会場：福岡国際会議場 + マリンメッセ福岡B館

<https://www.asiaoceania.org/aogs2026/public.asp?page=home.asp>

2014年に第11回AOGS年会を札幌で開催して以来、12年ぶりの日本開催となります。今年の年会（シンガポールにて7月27日～8月1日）は3,900名に迫る参加者で、過去最大のものでした。AOGS2025の様子（セッション風景や各種イベントなど）をこちらからご覧頂けます。

<https://photos.app.goo.gl/DK4nMBSZW7XXrNAq7>

今年の役員選挙ではSecretary Generalと、ASおよびSTの2セクションに日本人が当選し、日本の存在感が示されました。その日本で開催される来年2026年の福岡年会をさらに盛り上げたいと、運営メンバーも準備を加速しているところです。現在、セッション提案を広く募集中です。

セッション提案期間：2025年10月11日（土）24:55 JSTまで

8つの科学セクション（Atmospheric, Biogeosciences, Hydrological, Interdisciplinary, Ocean, Planetary, Solar & Terrestrial, Solid Earth）が地球惑星科学の全分野をカバーして、皆さまご専門分野でのセッション提案をお待ちしております。

AOGSは「年会費を直接には課さず」、いちど年会に参加すると「向こう3年間はメンバー・レートで年会参加できる」というシステムとなっています。日本で開催されるこの機会にぜひAOGSに参加し、研究発表と活発な議論の場、そして幅広いネットワーク構築へとお役立て下さい。皆さまのAOGSへのご参加を、心よりお待ちしております。

AOGS現会長 佐藤 毅彦（JAXA宇宙科学研究所）

代理投稿 後藤 和久（東京大学）

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけますようお願い致します。



高知大学技術職員募集

募集人員：常勤職員1名

採用日：令和8年4月1日

所属：総合研究センター設備・施設サポート部門（変更範囲：本学の定める範囲で変更の可能性有り）

勤務場所：海洋コア国際研究所（高知大学物部キャンパス内：南国市物部乙200）

職務内容：

総合研究センター設備・施設サポート部門及び海洋コア国際研究所において、主として以下の業務を行う。

1) 地球掘削科学研究および地球環境変動研究のための分析装置（非破壊計測機器、質量分析計、X線分析装置、走査型電子顕微鏡、超伝導磁力計、等）の維持管理

2) 1)で取得した分析データの処理・解析や高精度化や迅速化のための分析法の検討

3) 共同利用研究者・学内利用者等への装置使用法の指導・講習

4) 大学院生等学生の実習補助

5) 研究所内の安全衛生業務（薬品管理、放射線・X線管理等）や施設維持管理業務（空調、実験設備、ネットワークなど）。

6) 設備・施設サポート部門が管理する施設整備と研究機器類の維持管理

採用された者は、研究所内設置の各種分析装置の習熟に努めるとともに、分析データの精度や正確さについて、主体的に検討を行える能力が求められる。また、共同利用研究者が要求するデータの高精度化や迅速化等、新たな分析の要望に応え、研究目的に対応した分析ルーチンを開発する意欲と能力を持つ者を望む。

なお、業務関連の資格を取得するための受験料やテキスト代等の費用を大学が負担するとともに、必要に応じて指導も行う。

応募資格：

1) 4年制理工系大学卒業以上の学歴を有し、大学や国・自治体・企業等の研究機関等で質量分析計やX線機器等の機器分析の経験を2年以上有すること。ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含む。

2) 国際力強化のため、英語によるコミュニケーション力を有することが望ましい。

応募期限：令和7年9月17日（水）15時（必着）

本件に関する問い合わせ先

海洋コア国際研究所海洋コア室

電話：088-864-6712
e-mail：kk21@kochi-u.ac.jp
応募書類、選考等公募の詳細は、下記を参照してください。
https://www.kochi-u.ac.jp/_files/00542470/20250715saiyou.pdf

名古屋大学大学院環境学研究科・ 准教授または講師 公募

募集人員：准教授または講師（任期なし）1名

担当授業科目：

(1) 大学院（環境学研究科）

博士前期課程：地質学に関する講義、地質・地球生物学セミナー

博士後期課程：地質・地球生物学セミナー

(2) 学部（理学部）

地球惑星科学特別研究（卒業研究）、構造地質学、堆積地質学、地質調査法（地質図学を含む）、地質調査（野外実習）

(3) 全学教育

地球科学基礎Ⅱ、地球科学実験

<その他>

当系の教務・庶務等に関する業務の担当、勤務地：

（雇入れ直後）愛知県名古屋市千種区（変更の範囲）東海国立大学機構が指定する就業場所

着任時期：2026年2月1日以降のできるだけ早い時期

勤務形態：常勤、契約期間：期間の定めなし
応募資格：

- ・博士あるいはPh.Dの学位を有すること（2026年3月末までに取得見込みも可）。
- ・特にフィールドワークに基づく地質学およびそれらに関連する学問分野における優れた研究実績を有し、当研究科の教員と連携し、分野横断的研究の推進ができること。
- ・運転免許証（普通）を持っていること（野外実習で必須のため）。
- ・当研究科の中長期ビジョンである地球規模課題への対応と新たな知の創造に貢献する研究を行えること。
- ・環境学研究科と理学部において教育・研究指導を担当できること。
- ・日本語で教育・研究指導を行える能力を有すること。ただし、応募した時点で有していなくても、そのレベルに5年程度で達することができること。

応募締切：2025年9月22日（月）（必着）

公募の詳細は大学WEBサイトをご参照ください。

https://www.env.nagoya-u.ac.jp/jobs/file/job_20250922.pdf

高知大学教育学部准教授、 講師又は助教の公募（地学）

担当授業科目

学部：初等理科（地学領域）、地学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地学実験Ⅰ、理科基礎演習Ⅰ・Ⅱ、教材開発演習、身近な自然の観察Ⅰ・Ⅱ、環境の科学・技術、科学技術教育総合演習Ⅳ、専門演習Ⅰ～Ⅳ、科学技術等展示演習、卒業論文、共通教育科目等

応募資格

応募に必要な学歴・学位：博士（着任時には博士の学位を取得していること）

業務における経験：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での正規教員としての経験年数が1年以上あることが望ましい。

(1) 博士（着任時には博士の学位を取得していること）

(2) 小学校から高等学校の理科に関する内容のうち、地学全般を授業担当できる者。

(3) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での正規教員としての勤務経験が1年以上あることが望ましい。

(4) 全学的な教育プログラムにも参加、または協力する意思のある者。

(5) 在職中は、科学研究費助成事業を含む外部資金に代表者として応募することが望ましい。

(6) 新任教員研修プログラムを受講すること。

契約期間：

・准教授：任期なし・テニュアトラック以外
・講師：任期5年（再任可、再任後は任期を付さない。）

・助教：任期5年（再任可、再任後は任期を付さない。）

勤務地：〒780-8520 高知県 高知市曙町2丁目5-1 国立大学法人 高知大学

募集締切：2025年9月26日（金）17時

着任日：2026年4月1日

連絡先：高知大学教育学部 西脇芳典

nishiwaki@kochi-u.ac.jp

公募の詳細は、WEBサイトを参照してください。

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D125070861>

東京海洋大学海洋資源エネルギー 学部門准教授または助教公募

募集人員：准教授または助教（テニュアトラック）1名（常勤）

（助教の場合はテニュアトラック制※を適用し、テニュアトラック期間は採用から5年とする。ただし、中間評価の結果によっては、5年を経ずに任期の定めのない常勤教員としての資格を取得することができる。）

※本制度は、助教（テニュアトラック）を任期付きで雇用し、整備された環境のもと教育研究を推進し、教員としての適性について公正・厳格な審査を行い、本学助教又は准教授のテニュア（任期の定めのない常勤教員としての資格）を取得させることを目的とするものです。

所属：学術研究院 海洋資源エネルギー学部門

担当する教育研究分野：

[学部] 地学Ⅰ、地学Ⅱ、地学実験、地球科学概論Ⅰ、海底科学Ⅱ、フレッシュマンセミナー、海洋資源エネルギー学実習Ⅰ、海洋資源エネルギー学実習Ⅱ、海洋資源エネルギー学研究の最前線、セミナー、卒業論文

[大学院博士前期課程] 海洋底地球科学、海洋資源エネルギー学特別演習、海洋資源エネルギー学特別研究

[大学院博士後期課程] 環境保全システム学合同セミナー、環境保全システム学特別研究

応募条件：

- ・准教授においては博士の学位を有すること。助教においては博士の学位を有するか、着任までに取得見込みであること。
- ・上記『担当する教育研究分野』に係わる優れた研究業績を有し、授業科目を担当または分担できること。
- ・准教授は大学院博士前期課程での研究指導及び博士後期課程での研究指導補助を、助教は大学院博士前期課程での研究指導を担当できることが望ましい。
- ・学部の授業と大学院の授業および研究指導は日本語だけでなく英語でも行えること。
- ・部門構成員と協力して教育・研究に取り組めること。管理運営等の学内業務にも積極的に取り組めること

応募期限：令和7年9月30日（火）必着

採用予定：令和8年4月1日

照会先：東京海洋大学学術研究院海洋資源エネルギー学部門長

戸田勝善

Tel：03-5463-0487

E-mail：toda@kaiyodai.ac.jp

公募の詳細は、大学HPをご確認ください。

https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/recruit/teachers/_r7930_1.html

各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

公益財団法人中谷財団【科学教育振興助成】【次世代系人材育成プログラム助成】募集

【次世代系人材育成プログラム助成】

公益財団法人 中谷財団では将来科学技術分野で活躍する人材を育てることを目的に、優れた資質を持つ中学生を発掘して伸長するプログラムに対して助成しています。

2026年度の助成も以下の通り募集いたします。

○募集期間：2025年10月1日～11月20日（期日厳守）

○応募資格：全国の国公立大学・高等専門学校（主実施機関）

○助成金額：最大500万円/年×最長5年間（最大計2500万円）

詳細及びご応募方法は中谷財団HPよりご確認ください。

https://www.nakatani-foundation.jp/business/grant_science_edu/next_generation_science/

【科学教育振興助成】

公益財団法人中谷財団では、子どもたちの論理的思考力や創造性の成長を促すため、小

学校、中学校、高等学校等における科学教育振興を目的とした取り組みに対して助成しています。2026年度の助成も以下の通り募集いたします。

○募集期間：2025年10月1日～11月30日（期日厳守）

【個別校助成】最大30万円/年×1年間

【複数校連携助成】最大100万円/年×2年間（最大計200万円）

【教員支援助成】最大100万円/年×3年間（最大計300万円）

詳細及びご応募方法は中谷財団HPよりご確認ください。

https://www.nakatani-foundation.jp/business/grant_science_edu/

国立公園リーフレット たんけんシリーズ

箱根火山たんけんマップー今、生きている火山

定価 400円/部

城ヶ島たんけんマップー深海から生まれた城ヶ島

長瀬たんけんマップー荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう



A2版両面フルカラー印刷。

ハンディタイプで野外での観察に最適です。

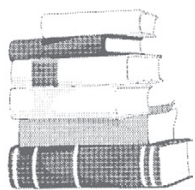
教材としてもぜひご活用下さい。

このほか、同シリーズ屋久島、青木ヶ原もあります！

ご購入は、日本地質学会公式ストア「ジオストア」で！



お問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 電話 03-5823-1150、メール main@geosociety.jp



紹介

日本列島、 大地の成り立ち図鑑

北中康文 著
きたなか あい マンガ
斎藤 眞・小松原純子 監修



株式会社文一総合出版、2025年6月20日発売。
A5判、160ページ、ISBN 978-4-8299-9026-1、
定価2,200円（税込）

日本国内で、地震や火山活動を調査・研究している機関は多々ありますが、観測や情報の伝達をしている行政機関は「気象庁」です。アメリカ合衆国（USA）では地震や火山を扱うのはUSGS「United States Geological Survey」（合衆国地質調査所）で、USA内のみならず世界に情報を発信しています。日本では明治8～16年頃から地震や火山活動の観測や情報伝達は、その前身も含めて「気象庁」が携わってきたようです。かつて、日本には通商産業省に属する「地質調査所」という機関があり、この機関は、現在の経済産業省所管の国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）内の「地質調査総合センター」にあたります。過去には、地質調査所は「鉱産資源」や「地質図幅」を扱うところとされ、「気象庁」が明治時代以来の役割を担うということがいまだに続いているのでしょうか。

いうまでもなく日本列島は地震、火山、気象の災害が頻発する「自然災害」のデパートのようなところで、これらを扱う「地質学」や「地学」は重要な分野です。残念なことに、高校の「地学」は、教える教師の数が減少し続け、衰退の一途をたどっているように

す。大学でも、特に「野外観察を基礎とする地質学」分野は絶滅危惧種になっているように思います。

私は地域の「お年寄りクラブ」で「地球とその歴史、自然災害、人類誕生」などをテーマにしてお話をしてきました。ある会でのこと、話が終わった後に、私は「こういうお話は皆さん方のお孫さんにも聞いてほしい」と言いますと、ある方が、「うちの孫はスマホ以外には興味がない」と言いました。私はこれを聞いて愕然としました。人々が「スマホ依存」や「スマホ脳」に侵されていく現実。

しかし、この本「日本列島、大地の成り立ち図鑑」を手にした子供を含む若者の中には「メッチャ、面白い本だ」と思う人がきっといると思います。知り合いの大学生は「この本を見ていると現地に行きたいところが多々あります」と言っていました。

地球を扱う「地学」は文章だけでは、説明も、理解も充分にできないビジュアルな世界です。この本は日本列島の様々な地学現象、多様な地形、風景を紹介し、それらの背景、起源、原因をわかりやすくビジュアルに解説した観る、読む本です。日本列島における代表的な地学現象が、写真、イラスト、マンガとその吹き出し、解説が絶妙なバランスをもって紹介されています。写真はとても素晴らしいです。随所にマンガが添えられ、ホッくりさせるとともに地学現象を楽しく理解することに役立っています。解説はわかりやすいです。

この本を通じて、日本列島には変化や不思議に富んだ素晴らしい自然や風景がたくさんあることがわかります。未来を担う子供たちはもちろん、大人たちにもお勧めします。なお、この本にはKindle版もあります。

本書は「太陽系の中の地球」「地球の内部構造」「ユーラシア大陸と北西太平洋の狭間にある日本列島がおかれている特殊な地質環境」「地球史」など、本書を理解するための基礎知識を、イラストを使ってわかりやすく紹介するところから始まります。

本題は日本列島における地学現象を「火山がつくる大地」と「水がつくる大地」という大きくくくりで紹介しています。「火山がつくる大地」では「カルデラ」「成層火山」「流れ山」「岩脈」「柱状節理」「火砕流堆積物」「溶岩地形」「温泉・泥火山」の項目で、マグマや火山にまつわる代表的な現象や地形を紹介しています。このようなことがどうして起こるのかという原因もイラスト付きで解説されています。「水がつくる大地」では日本列島における多様な大地、地形と水とが織りなす風景が紹介されています。項目は「峡谷」「残丘」「穿入蛇行」「河岸段丘」「扇状地」「三日月湖」「カルスト台地」「鍾乳洞」「三角州」「砂丘」「砂州」「海蝕地形」です。本の中ではコラムとして「火山岩と深成岩」「メサとビュート」「海底火山と枕状溶岩」「地層と化石」「石灰岩」「甌穴」「自然堤防」「断層」「褶曲」が多数の写真入りで紹介されて

います。

本書に携わった北中康文さんは、自然写真家で、日本の自然の魅力を、写真を通じて伝えることを使命とし、日本全国の滝、川、地形・地質などを対象にして、幅広く活動されている方です。2007年に日本地質学会から表彰されています。イラストとマンガは「きたなか あい」さんによるものです。「ユーモアと自然を大切にしながら、子供たちの生き生きとした絵作りをめざす」を信条としています。

監修者の斎藤眞さんと小松原純子さんはともに産総研の地質調査総合センターに勤めている方です。斎藤さんが古くて硬い地層や岩石担当、小松原さんは比較的新しい堆積物や地形を担当しています。

斎藤さんは主に九州を中心にして他地域も含めて詳細な地質調査を行い、地質図幅などを通じて公表してきました。また、「地質が身近にある社会構築を目指して」一般市民向けに情報を発信しています。2002年と2003年に文部科学大臣表彰を受けています。小松原さんは主に堆積岩・堆積物を専門としています。都市地盤や平野部など私たちの生活に密着した地域の研究や地質図の作成をメインにするとともに、著書を通じて自然についても発信しています。

（地学愛好徘徊老人、澤田順弘）



博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（43）
モニュメント・ミュージアム 来待ストーン

info

モニュメント・ミュージアム

来待ストーン

島根県松江市宍道町東来待1574-1

<https://www.kimachistone.com/>

館）では、主に来待石の歴史、職人の技、周辺地層より産出した化石などを展示・紹介しています。（図3・4）また年2回、地域の自然科学や来待石を中心とした地域の民俗学を紹介する企画展を開催しています。来待石工房では、来待石を使った体験を通して、来待石の加工のしやすさや職人の技術に触れることができます。（図5）陶芸館では、来待釉薬を使用した陶芸体験や絵付け体験ができます。当館は、来待石の過去・現在・未来を「見て・触れて・学べる」施設です。

石と出会い、地域とつながる博物館

学芸員 古川寛子

1. 博物館の概要

宍道湖の西岸に位置し、交通の要衝として栄えた島根県松江市宍道町。宍道という地名の由来は『出雲国風土記』に記載されています。

天平5（733）年に完成した出雲国風土記には、「所造天下大神の追ひ給ひし猪の像、南の山に二つあり。猪を追ひし犬の像、其の形、石となりて、猪犬に異なることなし。今に至りても猶あり。故、宍道と云ふ。」とあります。

大国主命（所造天下大神）が犬を使って猪狩りをされたところ、猪と犬は石となり今も南の山に残っているとの意で、猪石は宍道町にある女夫岩、あるいは石宮神社境内の巨石と考えられています。犬石は石宮神社の御神体として祭られていて、この石宮神社の猪石と犬石が「来待石」です。（図1）

来待石は新生代第三紀中期中新世に形成された安山岩質の火山噴出物を主体とした砂岩で大森層に属します。来待石が含まれる地層は、東西数10km、南北1～2km続いており、現在も豊富に産出しています。

石量も豊富で加工が容易な良質の石材として、古墳時代の石棺・石室、建築材料、唐獅子、棟石、石州瓦・石見焼の釉薬など多種多様に利用されています。江戸時代には、藩外への持ち出しが許可制となり、「御止石」と呼

ばれるほど重要視されました。国指定の伝統的工芸品「出雲石灯ろう」の原材料にもなっており、平成28（2016）年には、日本地質学会が選定した「県の石」で、「島根県の岩石」にも選ばれました。比較的均質に堆積していることから地質学・土木工学の実験などで利用される方も多いのではないのでしょうか。

この来待石を利用した個性豊かなまちづくりを推進するために、

（1）来待石の新商品、新技術の開発などによる市場の拡大、雇用の場の創設を推進し、地場産業の基盤の強化を図ること。

（2）伝統技術の保存公開、歴史の紹介により生涯学習、教育学習など文化活動の推進を図ること。

（3）集客施設として町のイメージを高めること。

これら産業、文化、観光の幅広い分野の振興を目的として、平成8（1996）年にモニュメント・ミュージアム来待ストーンは開館しました。来待石の採石場跡地にミュージアム（博物館）が設置され、敷地内には来待石の彫刻体験、来待釉薬を利用した陶芸体験ができる2つの工房（来待石工房・陶芸館）を併設し、体験型産業博物館として今年で30年目となります。

駐車場より来待石の岩盤を掘削した石のトンネルを抜けて向かうミュージアム（博物

2. 地質学関連の所蔵資料

＜石材及び岩石・鉱物資料＞

当館では、出雲地方を中心に県内の主だった地質資料の収集、調査・研究を行っています。国宝松江城の石垣の一つ見ても、松江市周辺のさまざまな岩石が適材適所で使用されています。しかしながら、埋蔵量は豊富にある岩石でも、荒廃した採石場跡地の再整備が困難であること、採石職人がいないことなどで再採石できない岩石があります。それらの多くは、文化財や地域固有の石造物等に使用されており、文化財補修等では石材関係の材料確保が年々難しくなっています。当館が蓄積した県内の石材の概要や地質学的事項などを提供し、またすでに採取できない岩石などについては、島根大学の先生方と協力し、代案材料を提案するなどして、地域の文化財補修及び石材文化の保全・継承に協力しています。

＜化石資料＞

出雲地方は、貝化石の産地としても有名です。大森・来待層上位の布志名層からは、この地域で記載され、地名にちなんで命名された化石が多くあります。当館所蔵の貝化石は、ほとんどが地域の方から寄贈していただいたものですが、とても状態の良いものばかりです。

来待石より産出したパレオパラドキシアの左下顎骨化石は、昭和55（1980）年、現在も



図1 石宮神社 猪石



図3 石のトンネル



図4 (左)
ミュージアム館内
図5 (右)
来待石の彫刻体験

稼働中である採石場で発見されました。(図6) 来待石からはクジラの骨やサメの歯などの化石が産出するのですが、化石が含まれた部分は職人にとっては商品にならないものとなります。この時も採石場で放置してありましたが、近所の化石が好きな方が島根大学へ連絡した結果、パレオパラドキシアの左下顎骨だということが解りました。当時では、一番西南で最も新しい時代の地層からの発見となりました。その後採石の職人の方から当館に寄贈していただき、現在当館の目玉資料として展示中です。

シジミが有名な宍道湖より産出したクジラの脊椎骨化石やメガロドンの歯化石も展示しています。これはシジミ漁師の方が発見し、寄贈していただいたものです。宍道湖湖底には、中期中新世の布志名層及び古江層が露出している箇所があります。そこを鋤簾というシジミを収穫する際に使用する道具で湖底をかくことで、偶然鋤簾のかごに入り発見されました。通常シジミ以外は湖底にもどすものですが、漁師の方が不思議に思い陸に持ち帰ったことで、発見にいたりしました。パレオパラドキシアもそうですが、地域の方の好奇心により、貴重な資料を当館で展示することができています。

3. 来待石産業への協力

来待石は江戸時代、北前船などで北海道から九州まで運ばれました。松江藩は『御止石』と呼び、勝手に藩外へ持ちだすことを禁止するほど重要視した石材でした。昭和になってセメントによる工事施行が一举に広まると、建築材料としての来待石の用途は激減し、変わって灯ろうの加工が主体となっていきます。この地域の地場産業となった経済産業省指定の伝統的工芸品『出雲石灯ろう』です。(図7)

来待石は苔が付きやすく、吸水性にすぐれ、温かな風合いを持つため、日本庭園などに良く合い人気となりました。高度経済成長期には7億円産業とも呼ばれましたが、現在は生活様式の変化、日本庭園の減少により、灯ろうの需要が減少しています。そんな状況を打開すべ

く、来待石産業を担う団体に当館が協力し、来待石自体の科学的分析が行われました。

石英が少ないため、耐火性・耐熱性に優れていることは、以前より解っていましたが、非常に高い遠赤外線放射率が測定され、様々な用途が期待されています。また、鉱物粒や岩石の間を火山ガラスが起源の沸石(ゼオライト)が埋めており、ホルムアルデヒドやアンモニアを吸着するので、脱臭効果や保肥力などが期待できます。今後、良好な加工性、ゼオライトの効果、遠赤外線効果など来待石本来の特性を活かした適材適所で利用を考え、来待石の復活を目指しています。

またどの伝統産業も後継者不足が叫ばれておりますが、当館施設の工房を使い来待石の加工に触れてもらうことで、次世代を担う人材育成ができればと考えています。

4. 島根半島・宍道湖中海ジオパークのサイトとして

島根県は自然科学を学べるフィールドも多く残っており、地学研究において長い歴史があります。島根大学をはじめとする研究機関や自然史系の博物館、関連施設があり、子どもたちに地学を学ぶ機会を増やそうとイベントや案内を行っている方々も多くいらっしゃいます。

平成25(2013)年に隠岐ジオパークが世界ジオパークに認定されました。出雲地域でもジオパーク認定を目指し、平成24(2012)年に島根大学にジオパークプロジェクトセンターが発足し、島根大学の先生方を中心に探訪会や講演会などのイベントを行ってきました。平成28(2016)年には、松江市・出雲市

が中心となり「島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会」が設立され、平成29(2017)年12月に日本ジオパークに認定されました。

当館はジオパーク構想当初より活動に参加しており、また島根半島・宍道湖中海ジオパークの地質サイトの一つに、来待ストーン石の広場(来待石採石場跡地)があります。

島根大学は県外から学生も多く見られます。当館では学芸員実習や地学実習で学生と触れ合うことも多いのですが、卒業を控えた方でもこの地域の歴史や文化、特有の自然に触れることなく卒業される方がいらっしゃいます。ジオパークは、あらゆる方面からその地域の特徴を知ることのできるコンテンツと考えています。ジオパークを活用しこの地域を知ることによって卒業後の在住の可能性や、もしそれがかなわなくても、次の場所でこの地域をPRしてくれる人材を育成できるのではと考えています。

来待石は地質的・歴史的にも地域の特徴を示す岩石であり、その来待石を調査・紹介・活用している「来待ストーン」の活動は、ジオパークの活動にもつながっています。地域特有の石材を紹介するということでもユニークな博物館施設です。ご興味のある方はぜひお立ち寄りください。



図6 パレオパラドキシア左下顎骨発見時



図7 出雲石灯ろう

令和7年度「地質の日」イベント (in愛媛大学) 実施報告

浦田倫太郎
(愛媛大学・理工学研究科・博士課程1年)
大門一輝 (同・修士課程2年)

はじめに

皆様ご存知のとおり、5月10日は「地質の日」として一般社団法人・日本記念日協会に認定されている。この「地質の日」を中心に博物館・大学などを中心に一般普及向けのイベントが全国各地で開催されている。日本地質学会のホームページで開催されているイベントが確認できるので、皆様のお住まいの地域で開催されているイベントをぜひ確認されたい。愛媛大学では、在籍する地質系を専門とする大学院生たちによってイベントが企画され、愛媛大学ミュージアム、通称愛大ミュージズにて毎年開催されている。本イベントは日本地質学会四国支部との共催であり、今年度は「地質の日」当日に開催することができた。

令和7年度「地質の日」イベント概要

愛媛大学で開催している「地質の日」イベントは、岩石・鉱物系の内容と化石系の内容を隔年で実施している。今年度は化石系の年で、化石レプリカを土粘土に包みコンクリーションに見立てたものを用意し、そのコンクリーションを割って化石レプリカを発掘、そして発掘したレプリカを同定するという形式の体験型のイベントを行った。石を割って化石を採集し同定する、研究者も実際に行っている方法を体験してもらおうという趣旨である。発掘できるレプリカは全部で6種(サメの歯2種・モササウルスの歯・アンモナイト・三葉虫・琥珀)で、どの化石に出会えるかはコンクリーションを割ってのお楽しみである。なお発掘したレプリカはお土産に持ち帰ることができる。

ちなみに昨年度は岩石・鉱物系の年で砂利の中から岩石を探し出し、ルーペを用いた岩石の同定や含有鉱物の観察といった活動を実施し、合わせて薄片などの展示を行った。

準備

昨年度はイベントの準備時間が切迫し、危うく当日に準備が間に合わないところだったという反省から、今年度は前年度の10月ごろには既に中心チームが動き出し準備を始めていた。今回のイベント準備で特に時間を要したものは、発掘体験用のコンクリーション作成とイベントのポスター作成である。

コンクリーションの作成においては、まず紫外線硬化樹脂を用いてコンクリーションの核となる化石レプリカを作成した。具体的には、シリコンを用いて実物の化石から型をとり、そこに樹脂を流し込んだ。流し込む樹脂には着色を行い、実際の化石によくある黒や茶といった色だけでなく、緑や青といった実際の化石にはあまり見られない色のものも作成したため、全体としてかなりカラフルな仕上がりとなった(写真1)。レプリカを作成する側も、慣れてくるとレプリカに一工夫こらそうと歯のセレーション(鋸歯:歯の縁のギザギザ)だけ別の色で作成したり、アンモナイトに色模様をつけてみたり、中には下から淡緑・白・ピンクと菱餅のようになってしまった三葉虫なども誕生していた。また、琥珀については琥珀だと認識してもらえるよう、透明フィルムにハエの絵を描いたものを中心に入れ、透明度のある黄色や茶色の樹脂に封入した。一通り固まったレプリカは怪我の元にならないよう鋭い部分をヤスリで削り、気泡に再度樹脂を充填するなどの仕上げを行なったあと、最後に土粘土に包んで丸めれば球状コンクリーションのできあがりである。他方、実際のコンクリーション中には肉眼で見える化石が全く含まれていないこともしばしばあるため、レプリカが入っていないコンクリーションも少量だがいくつか作製し、合わせて200個ほどのコンクリーションが完成した。

ポスターについては絵の大変上手なM2の学生が描き上げた。ハンマーで割られたコンクリーション、その周りには化石やその持ち主たちの生きていた当時の姿があらわれている。筆者は、描かれている生き物の監修や資料提供を行なった。絵が上手い(液タブを用いてスラスラと描き上げてしまう)人はすごいと思った次第である。

その他、準備したものとしては、レプリカの同定に用いる化石それぞれの特徴をまとめた同定シートと地質年代表などがある。年代表には地質年代と当時起こった重要な地質イベントの他に、その時代を代表する生物の挿絵も加えた。挿絵の効果によって見る人の関心を惹きつけ、地質への理解をより深めることにつながる。

当日の様子

当日は天候にも恵まれ、60組、延べ95人もの参加者にご来場いただいた。小学校低学年ごろのお子さんを連れたご家族が特に多かった印象である。運営側のスタッフは13人だった。参加者の流れとしては、受付で軍手を受け取ったあと、発見ブースで砂利の中からコンクリーションを探し出す。コンクリーションを見つけたら発掘ブースに移動してもらい、そこでハンマーを用いて中の化石レプリカを取り出す。そこで化石が出てくれば次の同定ブースへ移動できるが、割ったコンクリーションから化石が出てこなかった場合はまた発見ブースへ戻りコンクリーションを探す事になる。その際には実際の野外調査の大変さ、化石の貴重さを説明した。同定ブースでは、発掘した化石を同



写真1: レジンで作成した化石レプリカ



写真2: 同定ブースの様子



写真3: 愛媛大学「地質の日」学生スタッフで記念撮影

定シートと照らし合わせてどの化石なのかを判断する（写真2）。化石に馴染みのある参加者は同定シートなしでも化石を分類できていたが、その際も「どんな特徴を見てその化石だと判断したの？」と問いかけを行い、そう考えた根拠をスタッフと一緒に考えるようにした。同定ブースの脇にはレプリカのもとなった化石や有志スタッフが持ち寄った化石の展示コーナーを設置し、発掘したレプリカと実物を比較できる様にした。最後に、同定まで完了したレプリカは根付ストラップに加工し、お土産として希望者にプレゼントされる。ストラップ加工コーナーの向かいには地質年代表が設置されており、ストラップ加工の間じっくり眺めることができる。

おわりに

愛媛大学ミュージアムで開催された令和7年度「地質の日」イベントは盛況に終わった（写真3）。参加者の中には化石を同定した後2つ目のコンクリーションを探しに行った方もおられ、イベントを楽しんでもらえていると強く実感した。また、

「これはなんの石ですか」と趣味で拾ってきた石を持ってきて下さった方もいっしょに、質問を受け院生たちが石を見ようと群がる様子は「地質の日」のイベントらしい光景であった。このように一般の方々に地質に興味を持ってもらい、身近なものからでも興味を持っていただくと大変嬉しく思う。院生コーナーでは過去に愛媛大学理学部地球科学科の研究室紹介も執筆されており、そちらでも愛媛大学の地質系の様子的一端を垣間見ることができるので、そちらも併せて読んでいただき、進学

常時投稿をお待ちしています。編集は、現在以下の6名で行っています。原稿は1500～4500文字程度、図・写真3点以内を目安に、e-mailでお送りください。

吉永亘希（筑波大）koki9824k@gmail.com

福井瑩子（愛媛大）teco14.hm@outlook.com

會田幸樹（東京大）aida-koki322@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

小坂日奈子（茨城大）23nm307s@vc.ibaraki.ac.jp

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は、

自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は、速やかに情報の更新をお願い致します。毎月の会誌や大切な郵便物が届かなくなってしまう。

情報の変更は、学会ホームページ「会員のページ」にログイン（ID:会員番号、7桁の数字です）すると、ご自身で登録内容を更新することができます。もしくは学会事務局までご連絡ください。ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ：日本地質学会事務局 メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156



下敷き—干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表—

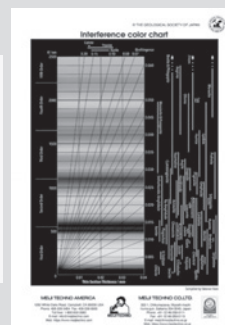
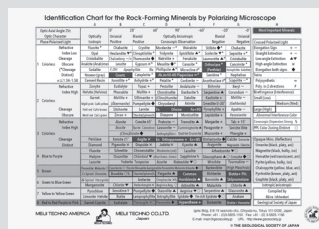
岩石学を学習する学生さんをはじめ、偏光顕微鏡を使用する全ての方々へ、ぜひ活用ください。

プラスチック製、A4版、両面カラー、英語版

定価 **400円**（会員頒価 **300円**）（税込）

20枚以上お買い求めの場合 30%OFF!! 公費払いにも対応いたします

ご注文は学会事務局まで（TEL03-5823-1150/main@geosociety.jp）



☆関東支部

案内

講演会「日本地質学会選定 県の石－栃木県の
岩石・鉱物・化石－」と見学会のお知らせ

日本地質学会は、2016年5月10日（地質の日）に、全国47都道府県のそれぞれで特徴的に産出する岩石・鉱物・化石を「県の石」として選定することを発表しました。関東支部では関東地方の「県の石」について順次講演会を行っています。今回は一般市民の方々や学会員のために現地とオンラインのハイブリッド形式で、栃木県の「県の石」の講演会を行います。当日午前中には大谷石の建物見学会がありますので、奮ってご参加ください（CPD取得可）。

大谷石の建物見学会

日時：9月27日（土）10:00-11:30

見学会参加費：1500円（事前申込制）

案内者：橋本優子氏（近代建築・デザイン史家、文星芸術大学非常勤講師）

定員：20名（抽選）

CPD：1.5単位取得可

申込期間：2025年9月1日（月）～17日（水）17:00締切

申込方法：申込と支払いは日本地質学会関東支部のWebサイトからお願いします。

<コース>

10:00 東武宇都宮駅集合

Stop 1：東武宇都宮線の大谷石築堤（東武宇都宮駅すぐそば）造営1931年

Stop 2：カトリック松が峰教会聖堂（築堤のすぐそば）聖別1932年

Stop 3：中心市街地（聖堂から神社までの間）戦前・戦後の石蔵など

Stop 4：宇都宮二荒山神社石垣 江戸時代のものが現存

11:30 二荒山神社解散

神社から博物館までは各自移動

*路線バスの場合、バス停「馬場町」から「中央公園博物館前」または「睦町」まで約10分、いずれかのバス停から博物館まで徒歩10分程度。

*タクシーならば約15分程度

講演会

共催：（一社）日本地質学会関東支部、栃木県立博物館

日時：2025年9月27日（土）13:00～16:00（12:30から受付開始）

場所：栃木県立博物館講堂

対象：一般市民および学会員 小学生3年生以上（内容は大人向けです）

定員：現地100名＋オンライン100名

参加費：1000円（事前申込み制）

CPD：2.5単位取得可能

申込期間：2025年9月1日（月）24日（水）17:00締切り

申込方法：申込と支払いは日本地質学会関東支部のWebサイトからお願いします。

お問い合わせ先 関東支部幹事長 加藤 潔（駒澤大学）

メール kiyoshi.katoh@gmail.com

<講演会プログラム>講演者1人45分、質疑応答10分、休憩5分

13:00 - 13:05 主催者挨拶

13:05 - 13:50 『足尾銅山の歴史と製錬技術の変遷』

講師：布川嘉英氏（栃木県立博物館学芸部自然課 学芸員）

【要旨】栃木県の鉱物は黄銅鉱。これは日本屈指の銅山として知られる足尾銅山の主たる鉱石であったことが選定理由である。1877年（明治10年）、古河市兵衛が足尾銅山を買収して以来莫大な投資を行い、本銅山は産銅量を飛躍的に増加させた。銅山の発展とともに、足尾の町も最盛期には宇都宮に次ぐ県内第二の都市となった。同時に大規模な鉱山開発には公害（鉱害）問題が伴い、足尾銅山は日本の公害の先駆的な事件となった。そして閉山以降も排水処理のための沈殿池は稼働し続けている。一方、煙害については、足尾銅山の技術者たちの長年にわたる研究開発により、1956年に自溶炉を導入し、製錬時に発生する硫化ガスから硫酸を製造するシステムを完成させ、製錬排ガスの無公害化に成功した。今回の講演会は、製錬技術の変遷を軸にした足尾銅山の歴史について語る。

13:50 - 14:00 質疑応答

14:00 - 14:05 休憩

14:05 - 14:50 県の岩石『大谷石』

講師：橋本優子氏（近代建築・デザイン史家、文星芸術大学非常勤講師）

【要旨】2016年（平成28）、日本地質学会により「県の石」として選ばれた大谷石（おおやいし）は、全国的に知名度が高い岩石・石材です。2018年（平成30）には、この石をめぐる「大谷石文化」が文化庁の「日本遺産」にも認定されています。

岩石としての大谷石は凝灰岩に相当し、産地では近世以前から石造物、家屋（伝統工法の張石蔵）、土木、民具に用いられてきました。西洋式の工法・意匠が広まった明治以降は、組積造の家屋（近代工法の積石蔵）が現れ、鉄筋コンクリート造石張の帝国ホテル新館（ライト館：全館竣工1923年、基本設計＝フランク・ロイド・ライト）が登場すると、大谷石は近代建築史に不朽の名を残します。

今回の講演会では、このような大谷石について、ライトとその弟子・遠藤 新の業績、並びにライト館が地域の建築シーンにもたらした影響を中心に、石材としての特性や魅力をお話いたします。

14:50 - 15:00 質疑応答

15:00 - 15:05 休憩

15:05 - 15:50 県の化石『木の葉石』

講師：相場博明氏（財団法人教育実践学研究所長）

【要旨】栃木県那須塩原市にある塩原温泉は1,200年以上の歴史を持つ有名な温泉地だが、実は化石の産地としても有名である。とくにここから産出する植物化石は、1888年（明治21年）に研究が始まり、その保存状態は素晴らしく、絵に描いたものと間違われるほど美しい。時代は約30万年前の中期更新世（チバニアン）で、今まで200種類ほどの植物化石が報告されている。植物以外にも、多くの昆虫化石や、魚、カエル、ネズミなどの化石も発見されている。昆虫化石が多く産出する場所は世界的にも珍しいが10年前までは記載されていたのはわずか6種類のみであった。演者は、2025年に「塩原木の葉石ガイドブック-実習・同定の手引きと植物・昆虫化石図鑑」という本を出版し、その中で89種類の昆虫とクモを同定した。その後、新たに2種の新種を含む昆虫化石が演者とその研究協力者により次々と報告され、現在は100種類以上が記載されている。本講演では、現在の塩原の化石の産出状況の概要とその意義について説明する。

15:50 - 16:00 質疑応答

16:00 - 16:05 閉会の挨拶

CALENDAR

2025.9～

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共) 共催、(後) 後援、(協) 協賛。

2025年

9月 September

第10回ぼうさいこくたい2025 in 新潟

9月6日(土)～7日(日)

場所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

<https://bosai-kokutai.jp/2025/>

第20回防災学術連携シンポジウム「複合災害に立ち向かう防災の知恵—新潟と能登の経験から」

9月7日(日) 10:30～12:00

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
無料、定員：1000名

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、一般社団法人 防災学術連携体

<https://ws.formzu.net/fgen/S2178437/>

(後) 第68回粘土科学討論会

9月10日(水)～12日(金)

会場：産業技術総合研究所臨海副都心センター(東京都江東区青海2丁目3-26)

https://www.cssj2.org/event/annual_meeting/

日本鉱物科学会2025年年会・総会

9月10日(水)～12日(金)

会場：山口大学吉田キャンパス共通教育棟

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jams2025>

(共) 19th International Conference on Thermochronology

(第19回国際熱年代学会議/Thermo 2025)

9月14日(日)～20日(土)

会場：金沢商工会議所(金沢市尾山町9-13)

<https://smartconf.jp/content/thermo2025/>

★日本地質学会第132年学術大会(2025熊本大会)

9月14日(日)～16日(火)

会場：熊本大学黒髪地区

(共) 2025年度日本地球化学会第72回年会

9月17日(水)～19日(金)

口頭発表(ハイブリッド)、ポスター発表(対面)

場所：東北大学・川内北キャンパス

<https://www.geochem.jp/annual-meetings/latest-annual-meeting>

(後) 第6回アジア恐竜国際シンポジウム

9月26日(金)～30日(火)

会場：福井県立大学永平寺キャンパス(福井県吉田郡永平寺)

<https://dinoasia.asia/>

関東支部講演会「県の石—栃木県の岩石・鉱物・化石—」見学会

9月27日(土)

場所：栃木県立博物館講堂

定員：現地100名+オンライン100名

<https://geosociety.jp/outline/content0201.html>

第42回歴史地震研究会(豊岡大会)

9月27日(土)～29日(月)

場所：芸術文化観光専門職大学(兵庫県豊岡市山王町7-52)

<https://www.histeq.jp/kenkyukai.html>

10月 October

2025年度日本火山学会秋季大会

10月1日(水)～3日(金)

会場：キッセイ文化ホール(予定)(長野県松本市水汲)

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/J/index.html>

日本土地環境学会公開シンポジウム「多角的視点から考える土地の環境価値・評価に関する新たな指標」

10月4日(土) 14:30-17:00

会場：追手門大学総持寺キャンパス(大阪府茨木市)

<https://www.j-lei.jp/>

2025 NEA IDKM Symposium

主催：OECD/NEA(ホスト機関：NUMO)

10月7日(火)～9日(木)

会場：パシフィコ横浜

サイトツアー(10/10)：東京電力廃炉資料館、福島第一原子力発電所(予定)

<https://geosociety.jp/outline/content0255.html#10>

Magellan Plusワークショップ：Land-to-Sea Shaking Studies (L2S3-WS)(海底・湖底堆積物を用いた地震履歴研究に関するワークショップ)

10月21日(火)～24日(金)

場所：国立台湾大学(台湾・台北市)

国内問い合わせ先：池原研(産総研)/中西諒(京都大学)

<https://sites.google.com/view/land2sea-workshop/home>

関東支部講演会伊与原新さんの講演会

10月26日(日) 14:30～16:00

場所：日本大学文理学部百周年記念館

対象：中高生および保護者(引率教員含む)

入場無料・要事前申込

<https://geosociety.jp/outline/content0201.html>

11月 November

国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2025年総会及び第22回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

11月2日(日)～6日(木)

会場：延世大学新村キャンパス(韓国ソウル)

2日：参加登録とアイスブレイカー

3日・4日：シンポジウム、総会、晩餐会

5日・6日：野外討論会

http://www.gondwanainst.org/symposium/2025/IAGR/IAGR_2025_Circulars.docx

(協) Techno-Ocean 2025

11月27日(木)～29日(土)

会場：神戸国際展示場2号館ほか(神戸市中央区港島中町6-11-1)

<https://to2025.techno-ocean.com/>

(協) 第41回ゼオライト研究発表会

11月27日(木)～28日(金)

会場：富山国際会議場

<https://jza-online.org/event>

12月 December

地質学史懇話会総会

12月20日(土) 13:30-17:00

場所：北とびあ 803号室(東京都北区王子)

・石渡 明：江原真伍の太平洋運動(1942)の光と影

・黒田和男：坪井忠二ほか《1954》「日本全国重力測定」を読む

問い合わせ先：矢島道子 [pxi02070\[at\]nifty.com](mailto:pxi02070[at]nifty.com)

日本地質学会 *News*

Vol.28 No.8 August 2025

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 松田達生

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

Contents

第132年学術大会（2025熊本） プログラム…… (1) ~ (36)

今年は選挙の年です！……1

案内……2

シンポジウム「複合災害に立ち向かう防災の知恵—新潟と能登の経験から」/AOGS2026福岡へのお誘い

公募……2

高知大学技術職員募集/名古屋大学大学院環境学研究科・准教授または講師公募/高知大学教育学部准教授、講師又は助教の公募（地学）/東京海洋大学海洋資源エネルギー学部門准教授または助教公募

各賞・研究助成……4

公益財団法人中谷財団【科学教育振興助成】【次世代系人材育成プログラム助成】募集

紹介……5

日本列島，大地の成り立ち図鑑 北中康文 著（澤田順弘）

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（43）……6

モニュメント・ミュージアム来待ストーン（古川寛子）

院生コーナー……8

令和7年度「地質の日」イベント（in愛媛大学）実施報告（浦田倫太郎・大門一輝）

支部コーナー……10

関東支部：講演会「県の石—栃木県の岩石・鉱物・化石—」と見学会のお知らせ

CALENDAR……11

表紙紹介「熊本」

上段 熊本城（熊本市中央区，写真：キロクマ！熊本素材写真アーカイブス）

中段 左上；御船町恐竜博物館（上益城郡御船町，写真：御船町恐竜博物館），中上；阿蘇中岳ストロンボリ式噴火（阿蘇市，写真：池辺伸一郎），右；立野峡谷（南阿蘇村立野，写真：松田博貴），左下；現世干潟堆積物（宇土市御興来海岸，写真：松田博貴），中下；上部白亜系姫浦層群（上天草市松島町，写真：松田博貴）

下段 左；天草松島（上天草市高舞戸山より眺望，写真：松田博貴），右；数鹿流崩れ（南阿蘇村立野，写真：鳥井真之）

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日 日本地質学会総会制定

2009 年 12 月 5 日 一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は、科学的真理を明らかにする事を目的として、誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う。その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り、もって社会の発展と人類の福祉に貢献する。会員は、基本的人権を守り、良識かつ品位のある行動をとる。

1. 科学者としての倫理：会員は、専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る。研究と調査においては、法を遵守し、社会的良識に従って行動する。科学的事実に対しては常に謙虚、誠実でなくてはならない。研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し、公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する。

2. 知的交流の確保：会員は、国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに、研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める。

3. 人類と社会への責務：会員は、その専門知識と技術を適切に活用し、研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する。

日本地質学会

4. 地球環境への責務：会員は、地球システムの諸現象についての専門家として、地質災害の予知と防止、地球環境の将来予測、資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに、専門知識を活かして環境の保全と改善に努める。自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する。

5. 次世代への責務：会員は、地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展、次世代を支える人材の育成を図る。研究や調査の成果物、重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める。

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において、一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定。

総合力で提案！ 熊本市東区月出2丁目
☎ 096-384-2265



株式
会社

東亜建設コンサルタント



「©2010熊本県くまモン」

表彰 国土交通省
令和2年度 竹田阿蘇道路地質調査
令和元年度 熊本管内地質調査業務

< 熊 本 県 >

— 新卒・中途の方，募集 —



職員ファーストで働きやすい環境
熊本地震時には全職員にプッシュ型支援金10万円を給付

- ★時間外労働の削減を推進！ 完全週休二日制！
- ★令和5年度に新卒者3名入社
- ★奨学金全額の返済を支援します！ 社員2名利用中
- ★ホワイト企業！休みも自由！

当社は公共事業における地質調査・建設コンサルタントを行う会社です

【売上高】 令和6年度 5億8,000万円

技術部副部長 時松 奈緒子（熊本大学卒）
技術部技師 田爪 陽（熊本大学卒）
技術部技師 向江 知也（山口大学卒）
技術顧問 大見 美智人（熊本大学名誉教授）
インターンシップ生（報酬型）募集中！

会社HP→



学術研究、専門・技術サービス業